

川崎市アレルギー疾患医療実態調査結果  
報告書

令和6年3月

川崎市



## 目次

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 1 調査の概要 .....                       | 1  |
| 1.1 調査の目的 .....                     | 1  |
| 1.2 調査実施方法 .....                    | 1  |
| 2 実態調査の実施と結果 .....                  | 2  |
| 2.1 実施概要 .....                      | 2  |
| 2.2 調査結果 .....                      | 3  |
| 2.2.1 基礎情報 .....                    | 3  |
| 2.2.2 アレルギー疾患の診療状況 .....            | 9  |
| 2.2.3 アレルギー疾患の患者指導状況 .....          | 19 |
| 2.2.4 患者の受診動向（他医療機関への紹介） .....      | 22 |
| 2.2.5 患者の受診動向（地域の医療機関への逆紹介） .....   | 37 |
| 2.2.6 人材育成・情報提供の実施状況 .....          | 50 |
| 2.2.7 川崎市からの関連情報の発信 .....           | 57 |
| 2.2.8 その他 .....                     | 61 |
| 2.3 意見聴取会で共有した医療提供体制の傾向 .....       | 62 |
| 2.4 意見聴取会における有識者からの主な意見 .....       | 63 |
| 参考資料 .....                          | 64 |
| （1）調査協力依頼文書（拠点病院向け） .....           | 64 |
| （2）調査協力依頼文書（病院・診療所向け） .....         | 66 |
| （3）方針概要チラシ（川崎市のアレルギー疾患対策について） ..... | 68 |
| （4）協力依頼はがき（拠点病院向け） .....            | 70 |
| （5）協力依頼はがき（病院・診療所向け） .....          | 71 |
| （6）発送用封筒 .....                      | 72 |
| （7）オンライン回答フォーム（拠点病院向け） .....        | 73 |
| （8）オンライン回答フォーム（病院・診療所向け） .....      | 75 |

# 1 調査の概要

## 1.1 調査の目的

川崎市では、アレルギー疾患対策基本法に基づき、令和5年6月に「川崎市アレルギー疾患対策推進方針」を策定した。本市における総合的なアレルギー疾患対策を進める上で参考となる情報を得るため、市内の医療機関及び中心拠点病院並びに神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院を対象に、医療機関における診療の状況、アレルギー疾患患者の受診動向などの医療現場の実態調査を実施した。

## 1.2 調査実施方法

### ア 調査対象施設

#### ① 拠点病院：30診療科（4病院）

基本法及び基本方針に基づく国の中心拠点病院及び神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院

国：国立研究開発法人国立成育医療研究センター、国立病院機構相模原病院

県：横浜市立みなと赤十字病院、神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター

#### ② 病院：164診療科（39病院）※

#### ③ 診療所：915診療所 ※

※川崎市内に所在する病院、診療所のうち、アレルギー疾患に関連する診療科として以下の診療科を対象とした。

内科（母性内科、呼吸器科、呼吸器内科、消化器科、消化器内科、胃腸科、胃腸科内科、内視鏡内科を含む）、小児科、皮膚科（小児皮膚科を含む）、耳鼻咽喉科（耳鼻科、小児耳鼻咽喉科を含む）、眼科（小児眼科を含む）、アレルギー科

### イ 調査方法

調査対象施設に回答用二次元コードとURLを記した調査協力依頼文書を郵送し、インターネット回答によるオンライン調査を実施した。

### ウ 調査期間

令和5年12月14日～令和6年1月23日

※回答期間中に調査協力への再依頼として、調査協力依頼はがきを送付した。

### エ 有識者からの助言（令和6年3月時点）

調査の設計及び集計、分析評価にあたり、市内外のアレルギー疾患患者の診療に長年従事されている以下の有識者2名から助言をいただき、調査項目の監修や結果のとりまとめに反映した。

・中村陽一先生（横浜市立みなと赤十字病院 アレルギーセンターセンター長、日本アレルギー学会専門医・指導医、医学博士）

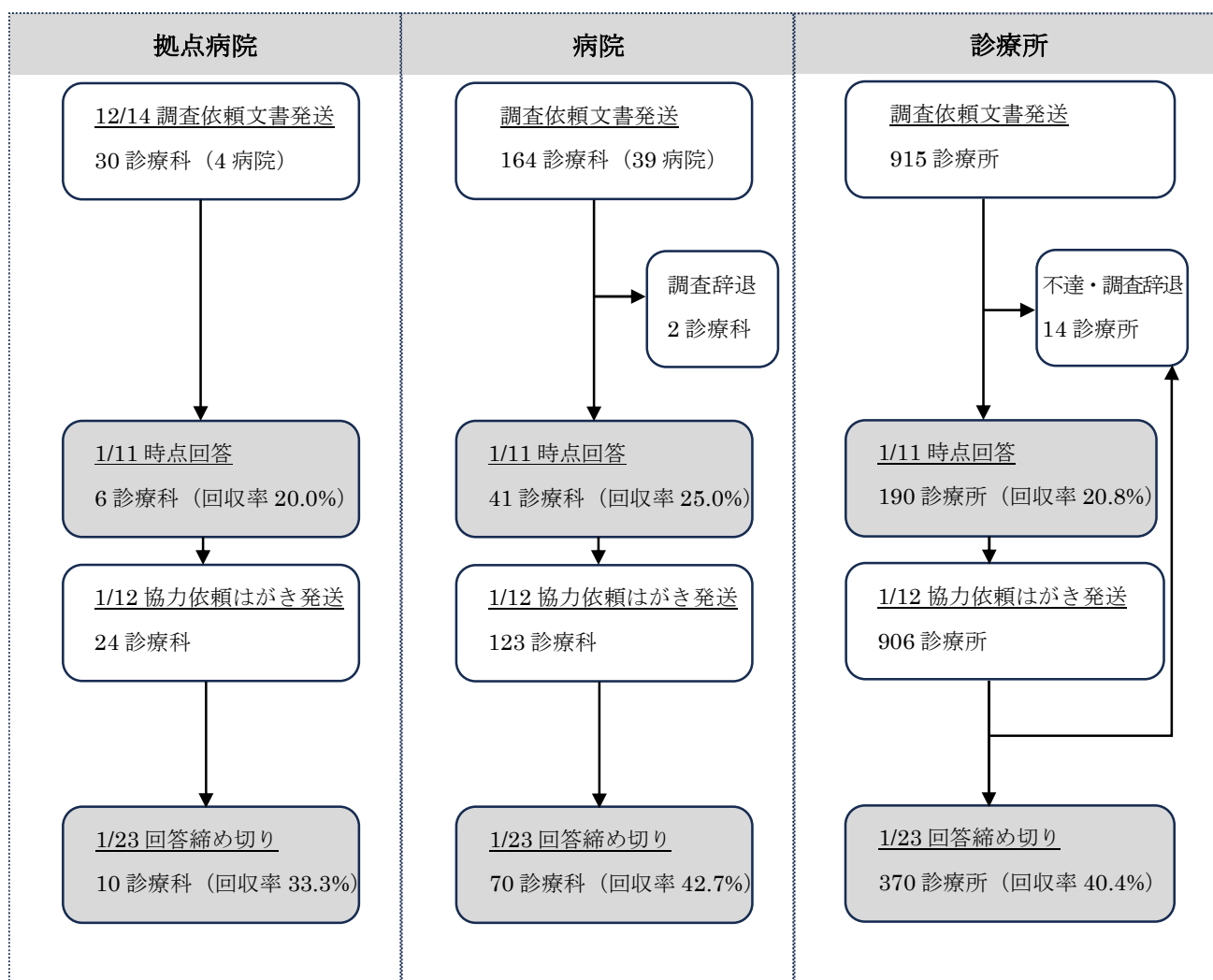
・福家辰樹先生（国立研究開発法人国立成育医療研究センター アレルギーセンター総合アレルギー科診療部長、日本アレルギー学会専門医・指導医、医学博士）

## 2 実態調査の実施と結果

### 2.1 実施概要

1.2 アで示したとおり、川崎市アレルギー疾患医療実態調査として、川崎市に所在し、アレルギー疾患に関連する診療科を標榜する病院及び診療所、基本法及び基本方針に基づく拠点病院を対象に、回答用二次元コードと URL を記した調査協力依頼文書を郵送し、インターネット回答によるオンライン調査を実施した。令和 5 年 12 月 14 日に調査協力依頼文書、令和 6 年 1 月 12 日に調査協力依頼はがき（不達・調査辞退を除く診療所及び、1 月 11 日午前時点で未回答の拠点病院・病院の診療科を対象）を送付し、1 月 23 日を回答締め切りとした。

以下に病院種別ごとの回収状況を示す。拠点病院、病院、診療所を合わせた回答率は 40.6%（調査対象数 1,109、回答数 450）であった。



## 2.2 調査結果

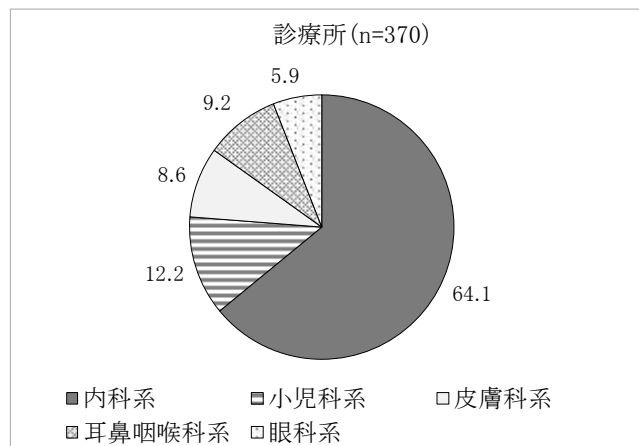
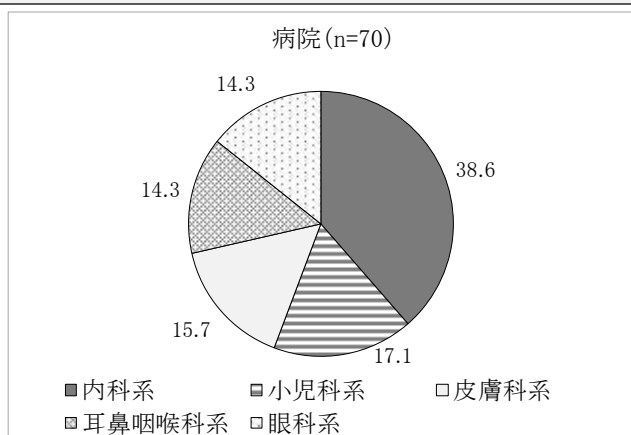
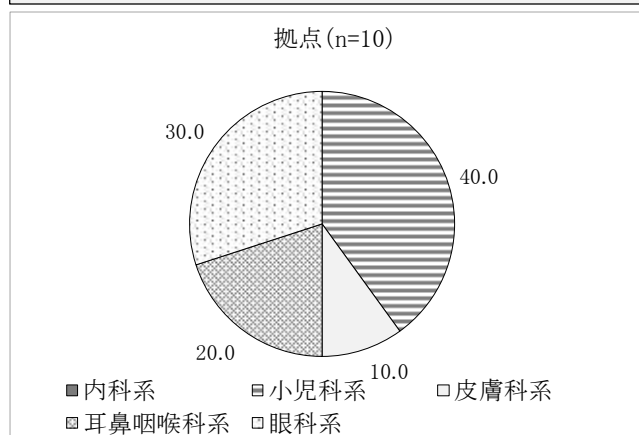
各設問の回答状況を以下に示した。全ての設問について、病院種別に集計を行い、必要に応じて、診療領域別にクロス集計を行った。また、Fisher の直接確率検定を行ったものについては、その結果を記載した。

### 2.2.1 基礎情報

#### 問 1 (2) 主たる診療領域

主たる診療領域をご回答ください。

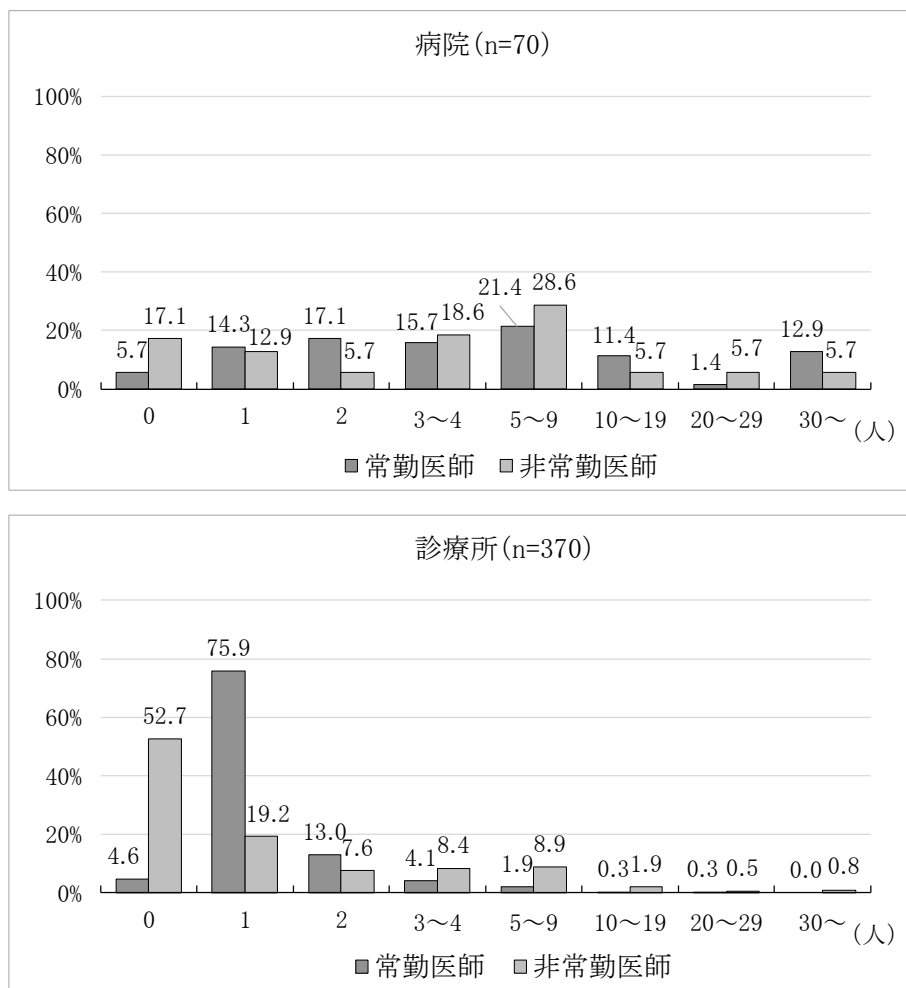
拠点病院は「小児科系」40.0%、病院は「内科系」38.6%、診療所は「内科系」64.1%の割合が高かった。



### 問 1(3) 所属医師数

貴院における主たる領域での所属医師数をご回答ください。(病院)／診療所内の所属医師数をご回答ください。(診療所)

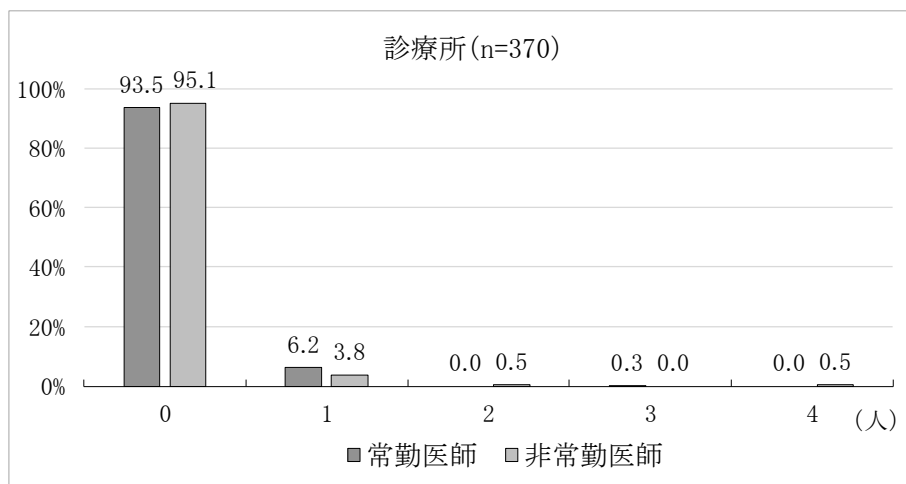
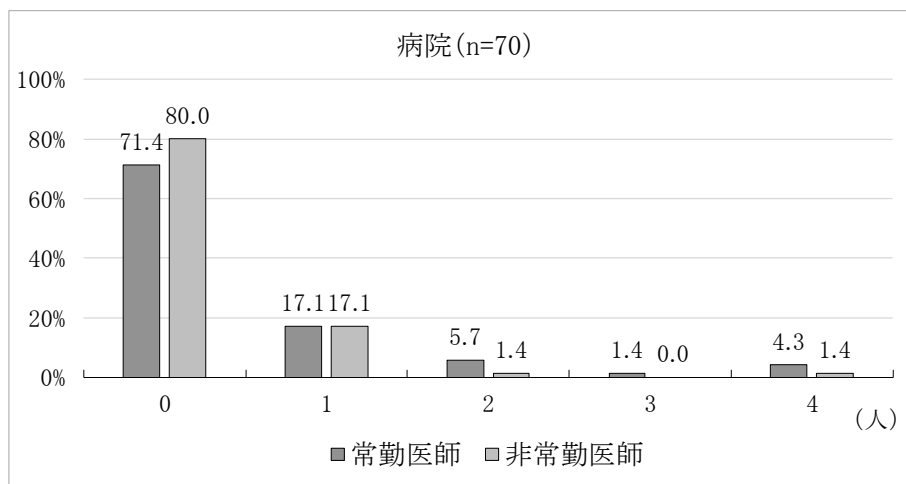
常勤医師数について、病院で「5～9人」21.4%、診療所で「1人」75.9%の割合が高かった。また、非常勤医師数について、病院で「5～9人」28.6%、診療所で「0人」52.7%の割合が高かった。



#### 問 1(4) 日本アレルギー学会指導医・専門医所属数

貴院における主たる領域での日本アレルギー学会指導医・専門医所属数をご回答ください。(病院)  
／診療所内の日本アレルギー学会指導医・専門医所属数をご回答ください。(診療所)

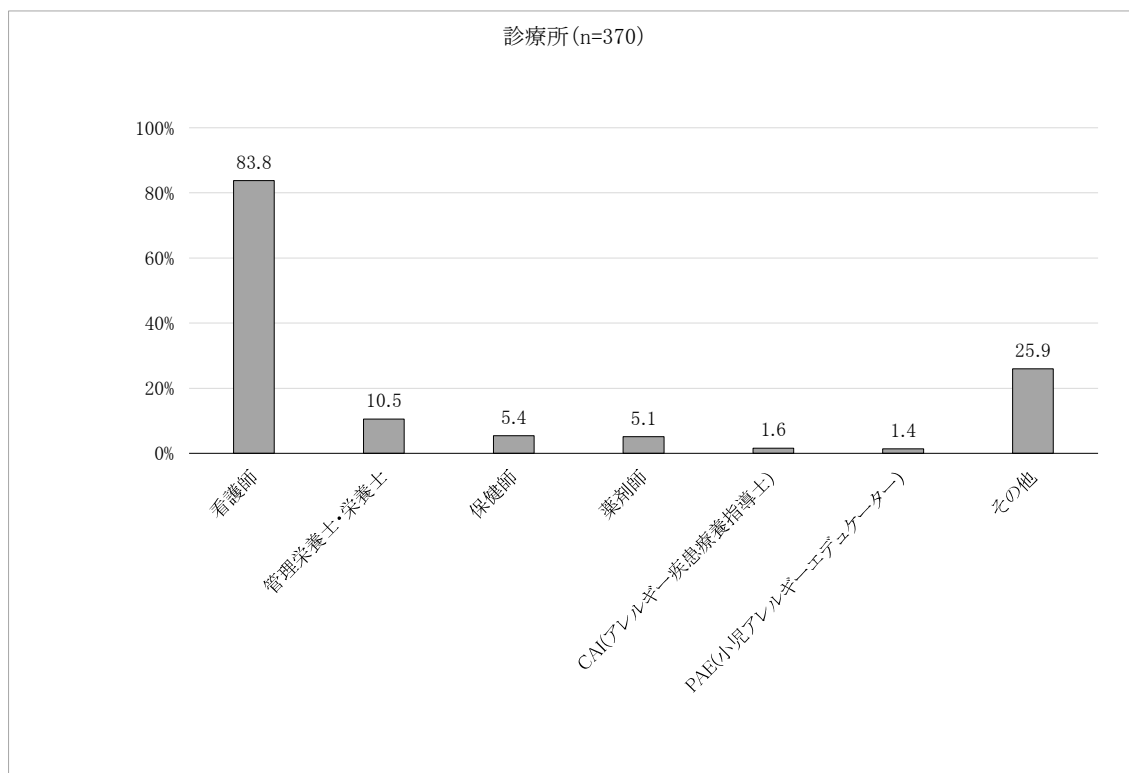
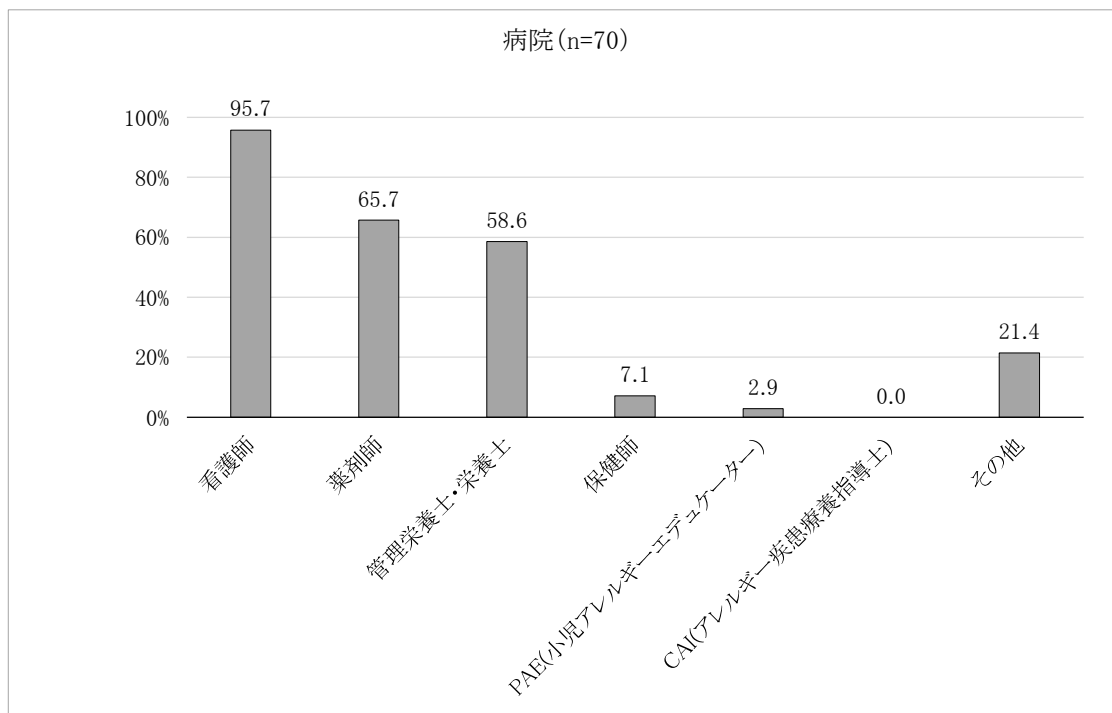
常勤医師数について、病院、診療所ともに「0人」の割合が高かった（病院 71.4%、診療所 93.5%）。また、非常勤医師数について、病院、診療所ともに「0人」の割合が高かった（病院 80.0%、診療所 95.1%）。



### 問 1(5) 医師以外の医療従事者

貴院における主たる領域での医師以外の医療従事者をご回答ください。(病院)／貴診療所に在籍する医師以外の医療従事者をご回答ください。(診療所)

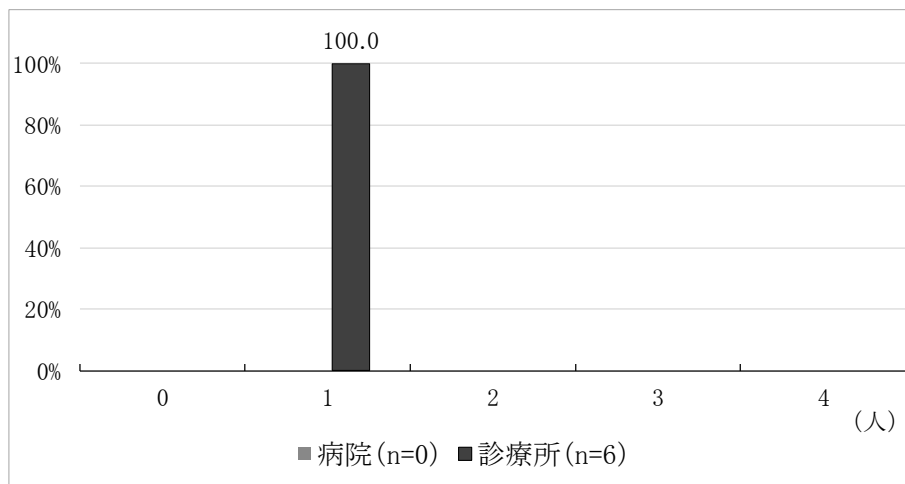
病院、診療所ともに「看護師」の割合が高かった（病院 95.7%、診療所 83.8%）。



### 問 1(6) CAI の所属数

所属している CAI の方の人数をご回答ください。

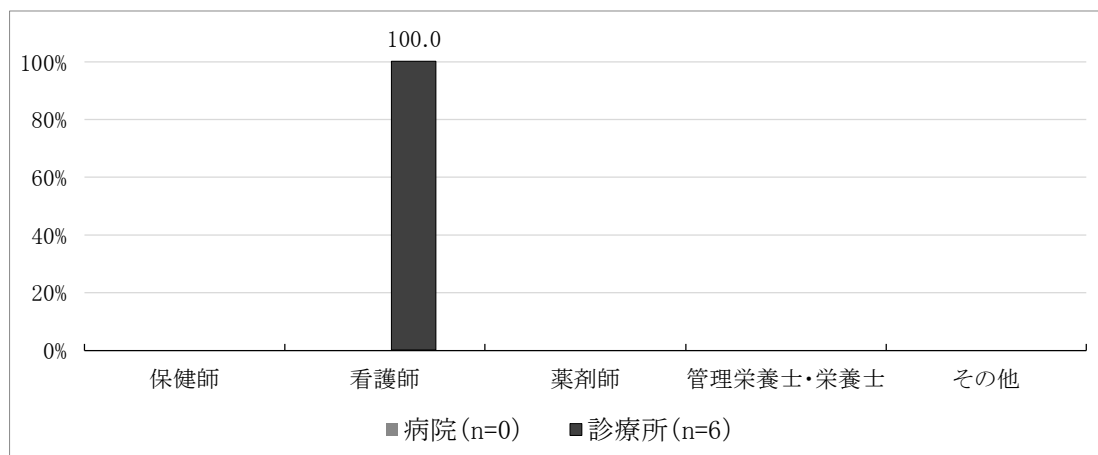
病院は問 1(5)にて「CAI(小児アレルギーエデュケーター)」の回答がなかった。診療所は全て「1人」であった。



### 問 1(7) CAI の職種

所属している CAI の方の職種をご回答ください。

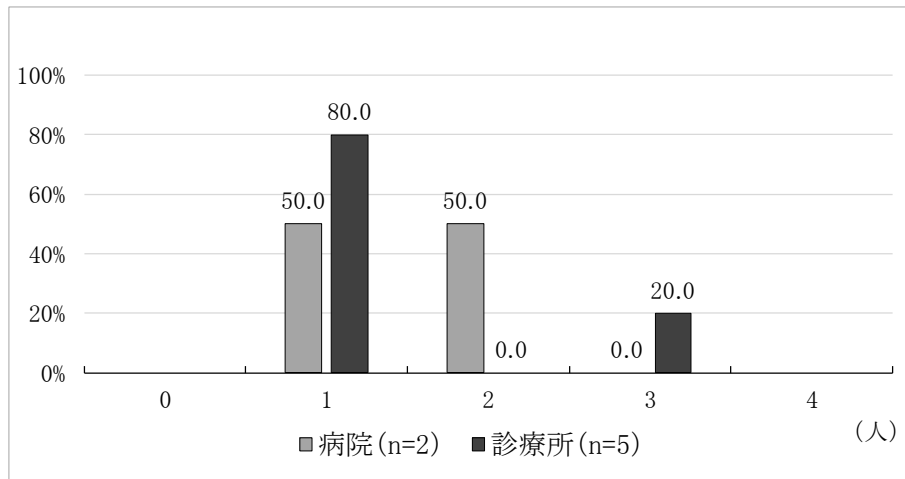
病院は問 1(5)にて「CAI(小児アレルギーエデュケーター)」の回答がなかった。診療所は全て「看護師」であった。



### 問 1(8) PAE の所属数

所属している PAE の方の方の人数をご回答ください。

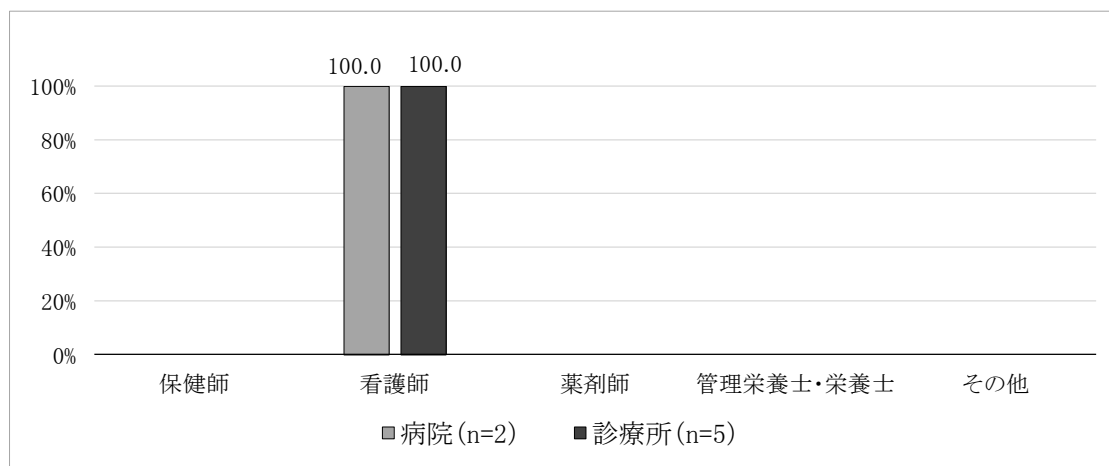
病院は「1 人」「2 人」各 50.0%の割合が高かった。診療所は「1 人」80.0%の割合が高かった。



### 問 1(9) PAE の職種

所属している PAE の方の方の職種をご回答ください。

病院、診療所ともに「看護師」の割合が高かった (病院 100.0%、診療所 100.0%)。

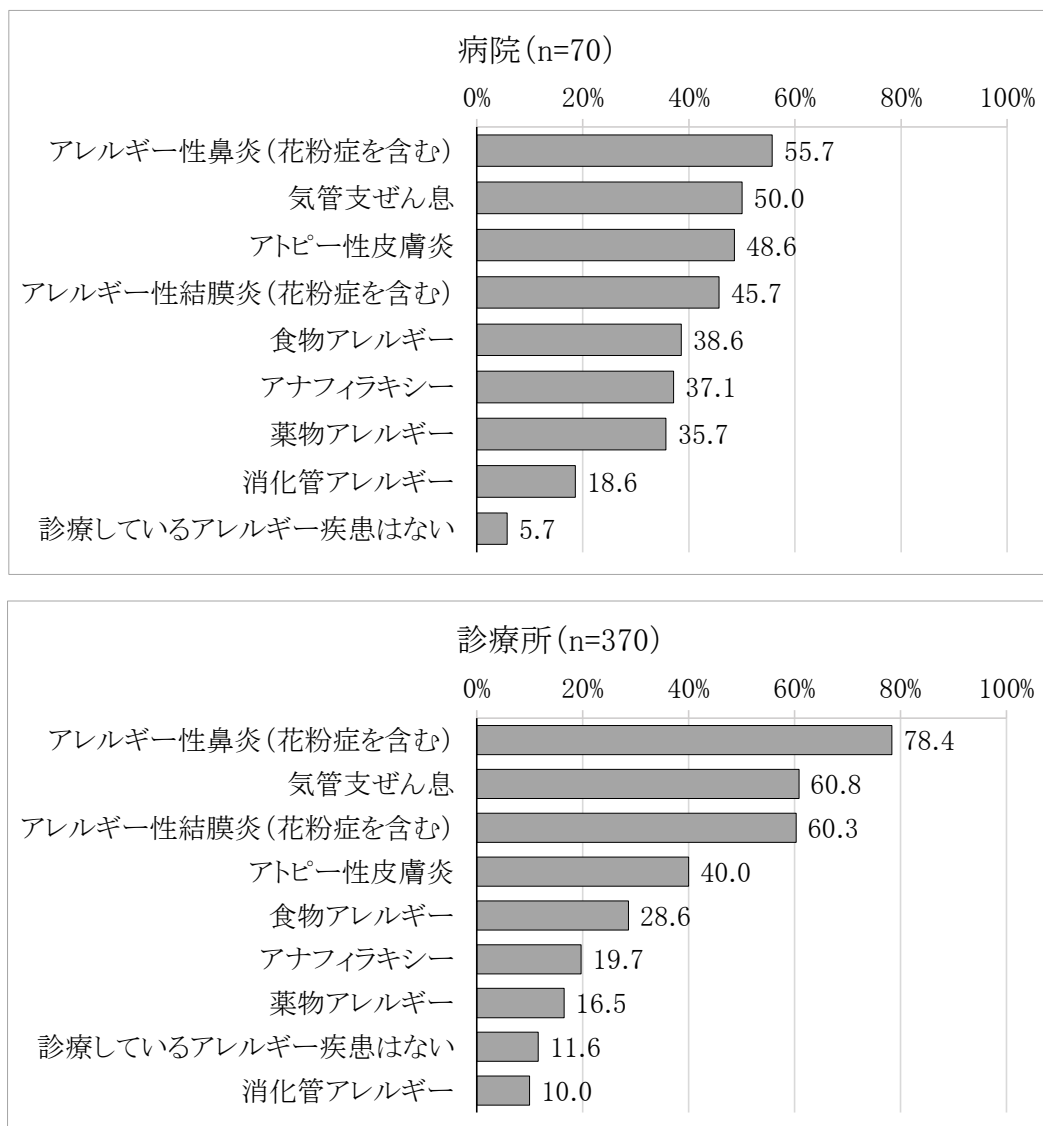


## 2.2.2 アレルギー疾患の診療状況

### 問3 診療の対象疾病

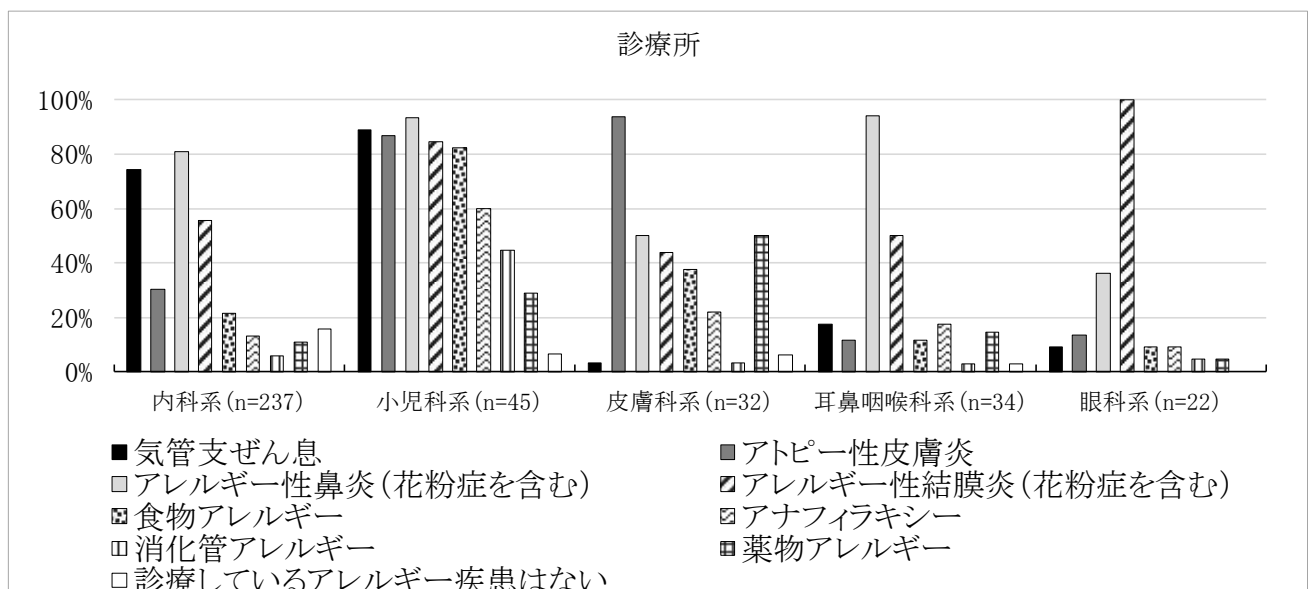
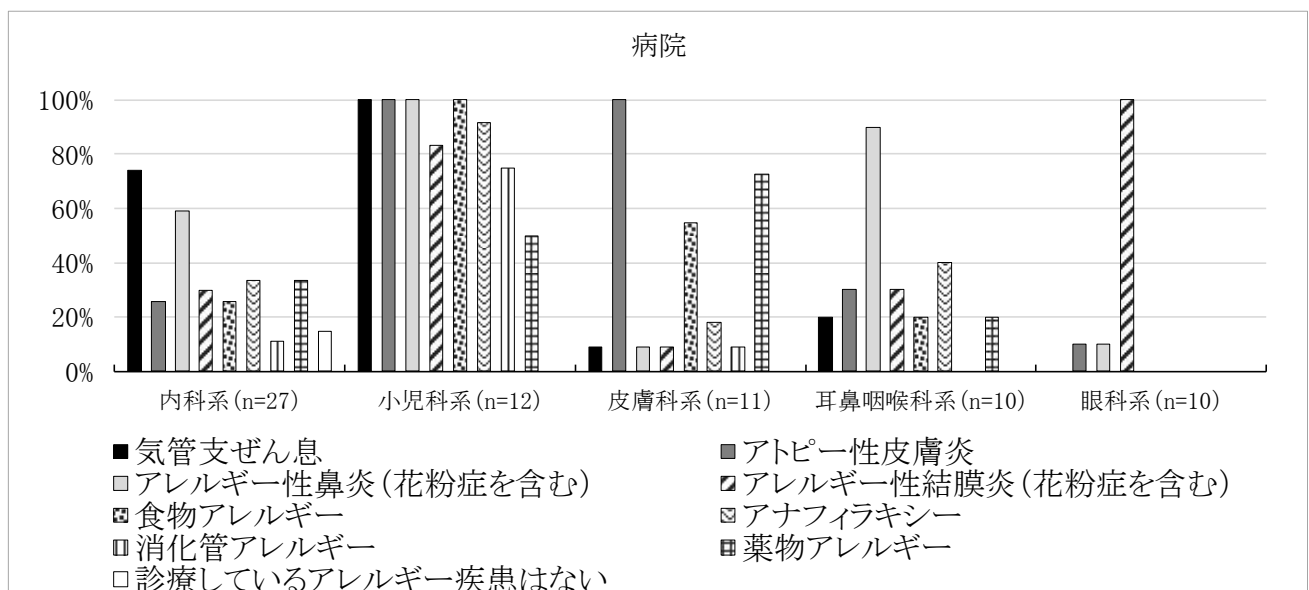
令和5年12月時点において貴医療機関（病院においては貴科）で診療を行っている疾患についてご回答ください。

病院、診療所ともに「アレルギー性鼻炎（花粉症含む）」の割合が高かった（病院 55.7%、診療所 78.4%）。



## 【診療領域別】

内科系について、病院は「気管支ぜんそく」74.1%、診療所は「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」81.0%の割合が高かった。小児科系について、病院は「気管支ぜんそく」「アトピー性皮膚炎」「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」「食物アレルギー」各100.0%、診療所は「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」93.3%の割合が高かった。皮膚科系について、病院、診療所ともに「アトピー性皮膚炎」の割合が高かった（病院100.0%、診療所93.8%）。耳鼻咽喉科系について、病院、診療所ともに「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」の割合が高かった（病院90.0%、診療所94.1%）。眼科系について、病院、診療所ともに「アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）」の割合が100.0%と高かった。



#### 問4 診療する患者の世代

診療する患者の世代をご回答ください。

##### (1) 気管支ぜんそく

病院、診療所ともに「高校生以上」の割合が高かった（病院 54.3%、診療所 53.3%）。

##### (2) アトピー性皮膚炎

病院は「高校生以上」38.2%の割合が高かった。診療所は「0歳～高校生未満かつ高校生以上」60.1%の割合が高かった。

##### (3) アレルギー性鼻炎（花粉症含む）

病院は「高校生以上」43.6%の割合が高かった。診療所は「0歳～高校生未満かつ高校生以上」50.7%の割合が高かった。

##### (4) アレルギー性結膜炎（花粉症含む）

病院、診療所ともに「0歳～高校生未満かつ高校生以上」の割合が高かった（病院 43.8%、診療所 56.5%）。

##### (5) 食物アレルギー

病院は「高校生以上」51.9%の割合が高かった。診療所は「0歳～高校生未満かつ高校生以上」50.0%の割合が高かった。

##### (6) アナフィラキシー

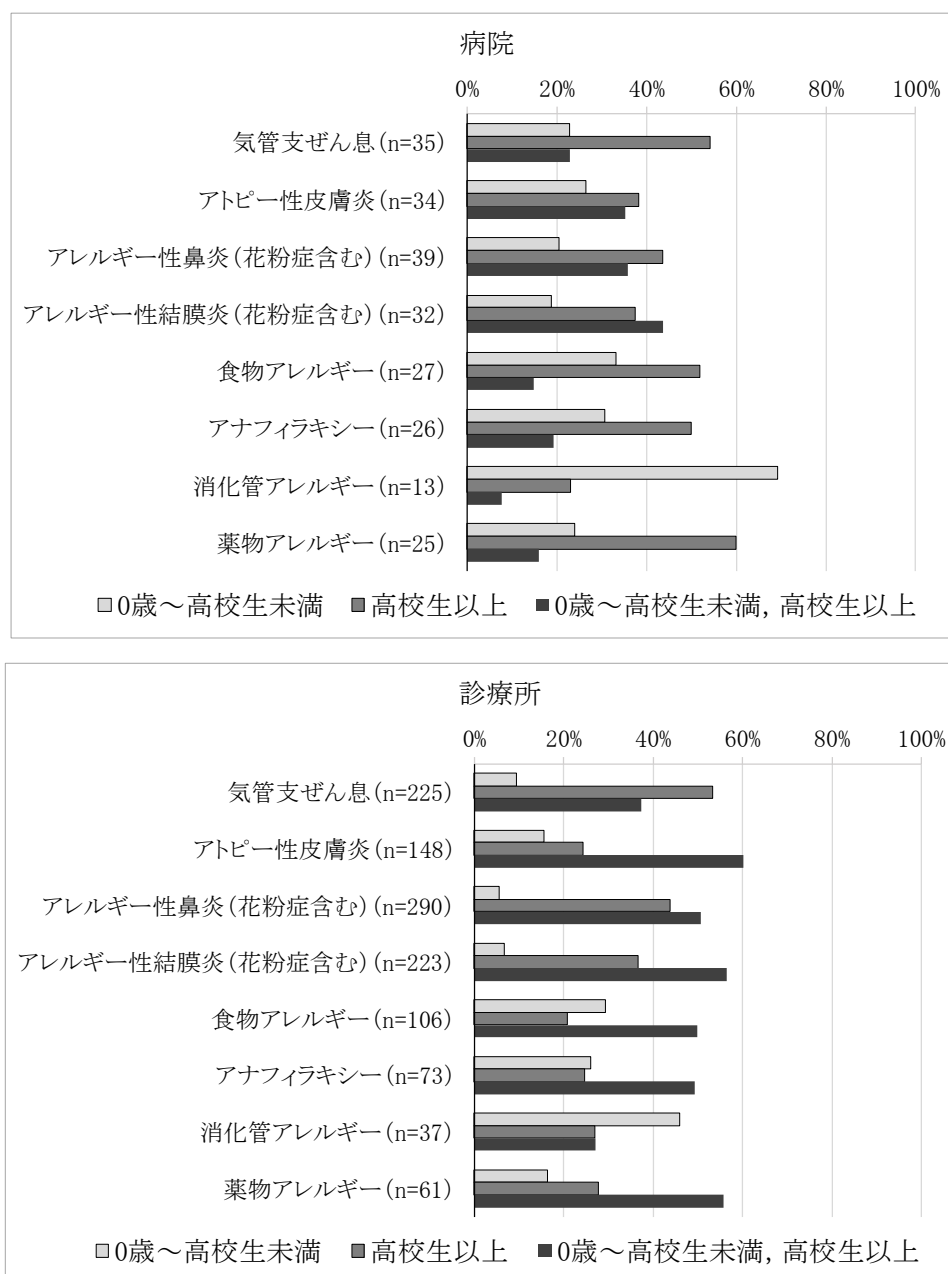
病院は「高校生以上」50.0%の割合が高かった。診療所は「0歳～高校生未満かつ高校生以上」49.3%の割合が高かった。

## (7) 消化管アレルギー

病院、診療所ともに「0歳～高校生未満」の割合が高かった（病院 69.2%、診療所 45.9%）。

## (8) 薬物アレルギー

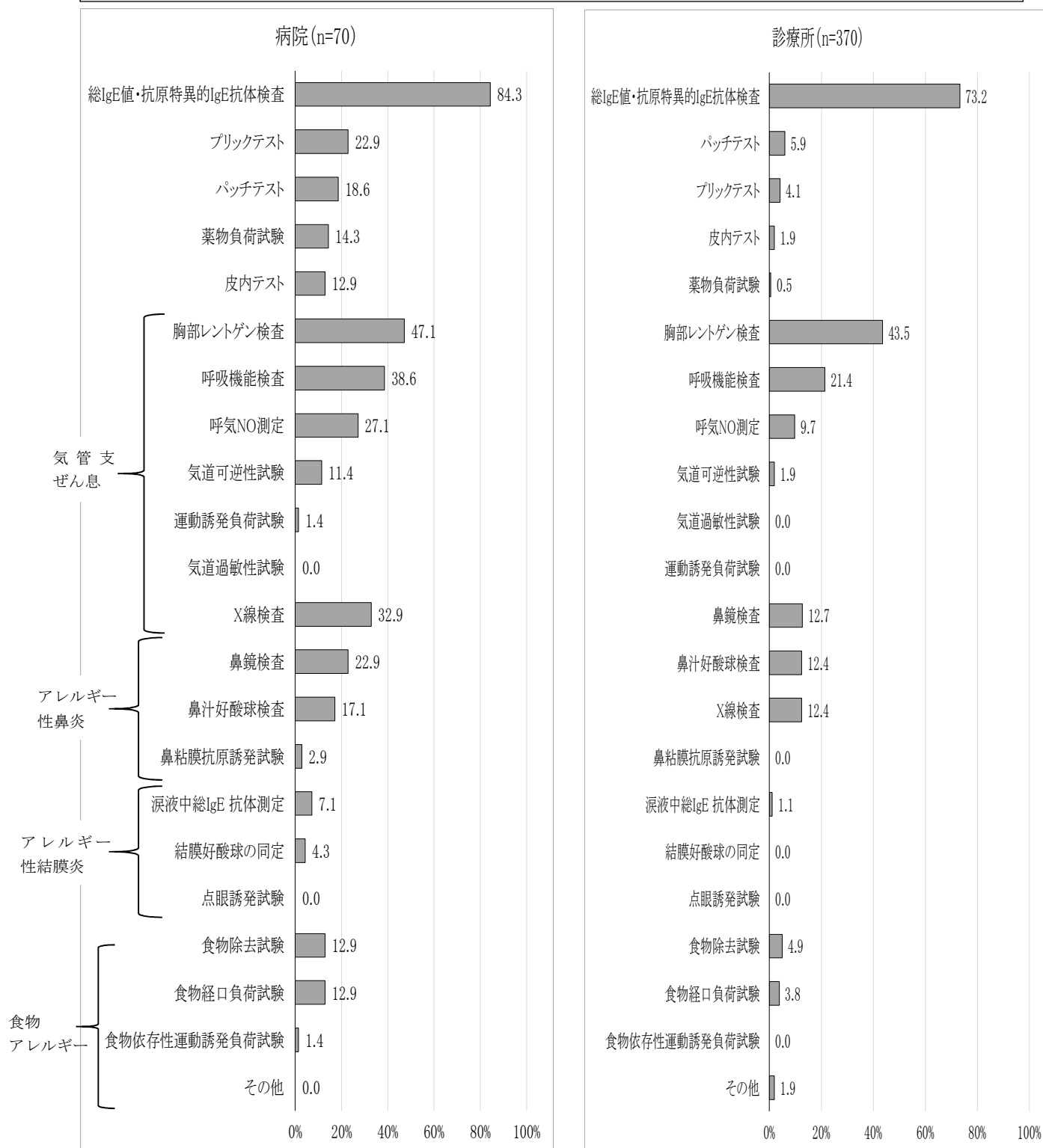
病院は「高校生以上」60.0%と割合が高かった。診療所は「0歳～高校生未満かつ高校生以上」55.7%の割合が高かった。



## 問 5 実施可能な検査、試験等

令和 5 年 12 月時点で実施可能な検査、試験等についてご回答ください。

病院、診療所ともに「総 IgE 値・抗原特異的 IgE 抗体検査」の割合が高く（病院 84.3%、診療所 73.2%）、次に「胸部レントゲン検査」の割合が高かった（病院 47.1%、診療所 43.5%）。

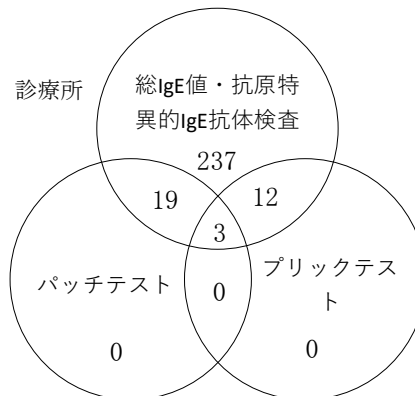
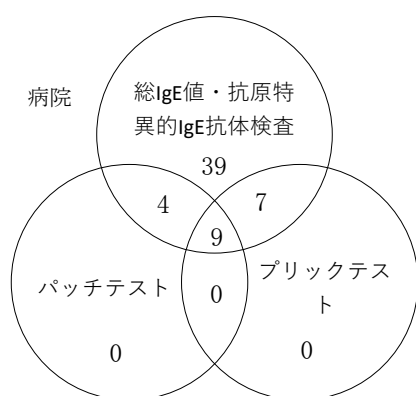


※問 3 で回答した疾患に関連する検査項目のみ回答対象

以下では、項目別の割合と、複数の検査等を実施している診療科・診療所の数を表したベン図を示す。

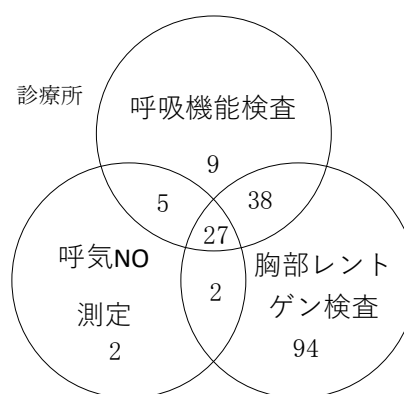
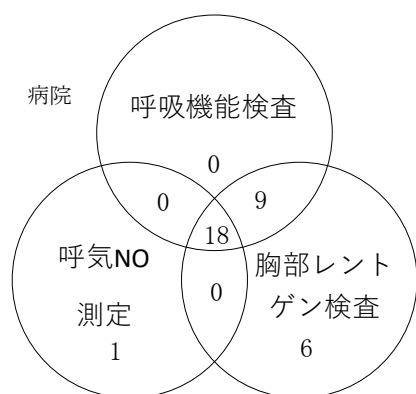
### (1) 共通事項・皮膚関連

病院、診療所ともに「総IgE値・抗原特異的IgE抗体検査」の割合が高かった（病院 84.3%、診療所 73.2%）。



### (2) ぜん息関連

病院、診療所ともに「胸部レントゲン検査」の割合が高かった（病院 94.3%※、診療所 71.6%※）。

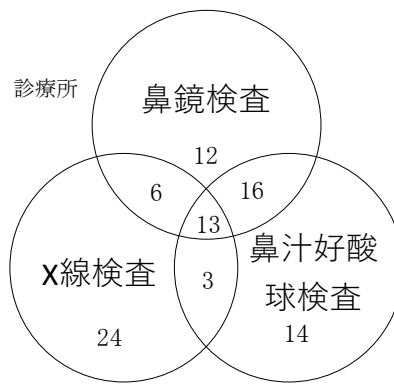
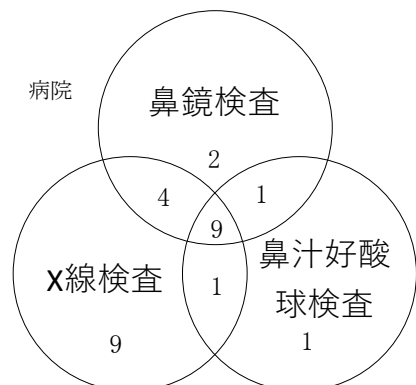


※算出した割合の母数は、問3にて「気管支ぜん息」と回答した数（病院 n=35、診療所 n=225）としている。

### (3) アレルギー性鼻炎、花粉症関連

病院は「X線検査」59.0%※の割合が高かった。診療所は「鼻鏡検査」16.2%※の割合が高かった。

※算出した割合の母数は、問3にて「アレルギー性鼻炎（花粉症を含む）」と回答した数（病院 n=39、診療所 n=290）としている。



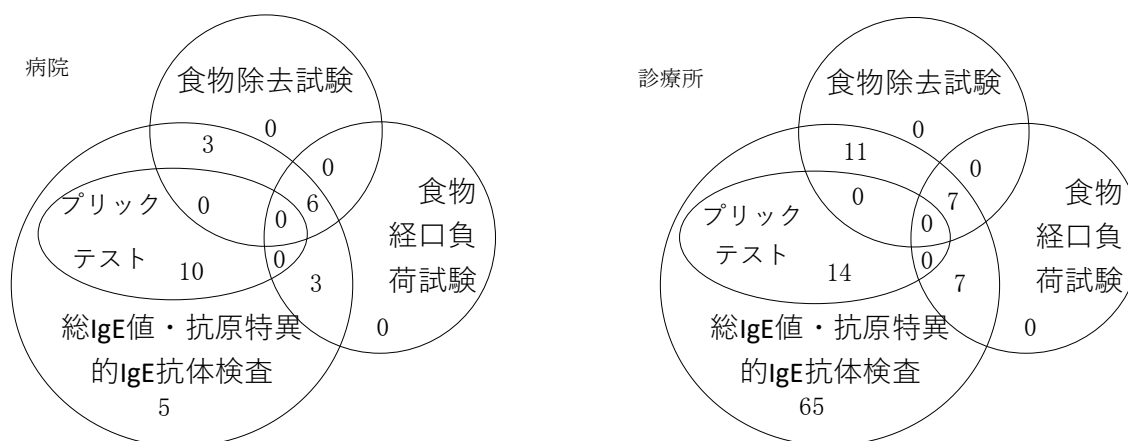
#### (4) アレルギー性結膜炎関連

病院、診療所ともに「涙液中総 IgE 抗体測定」の割合が高かった（病院 15.6%※、診療所 1.8%※）。

※算出した割合の母数は、問3にて「アレルギー性結膜炎（花粉症を含む）」と回答した数（病院 n=32、診療所 n=223）としている。

#### (5) 食物アレルギー関連

病院は「食物除去試験」「食物経口負荷試験」各 33.3%※の割合であった。診療所は「食物除去試験」17.0%※の割合が高かった。

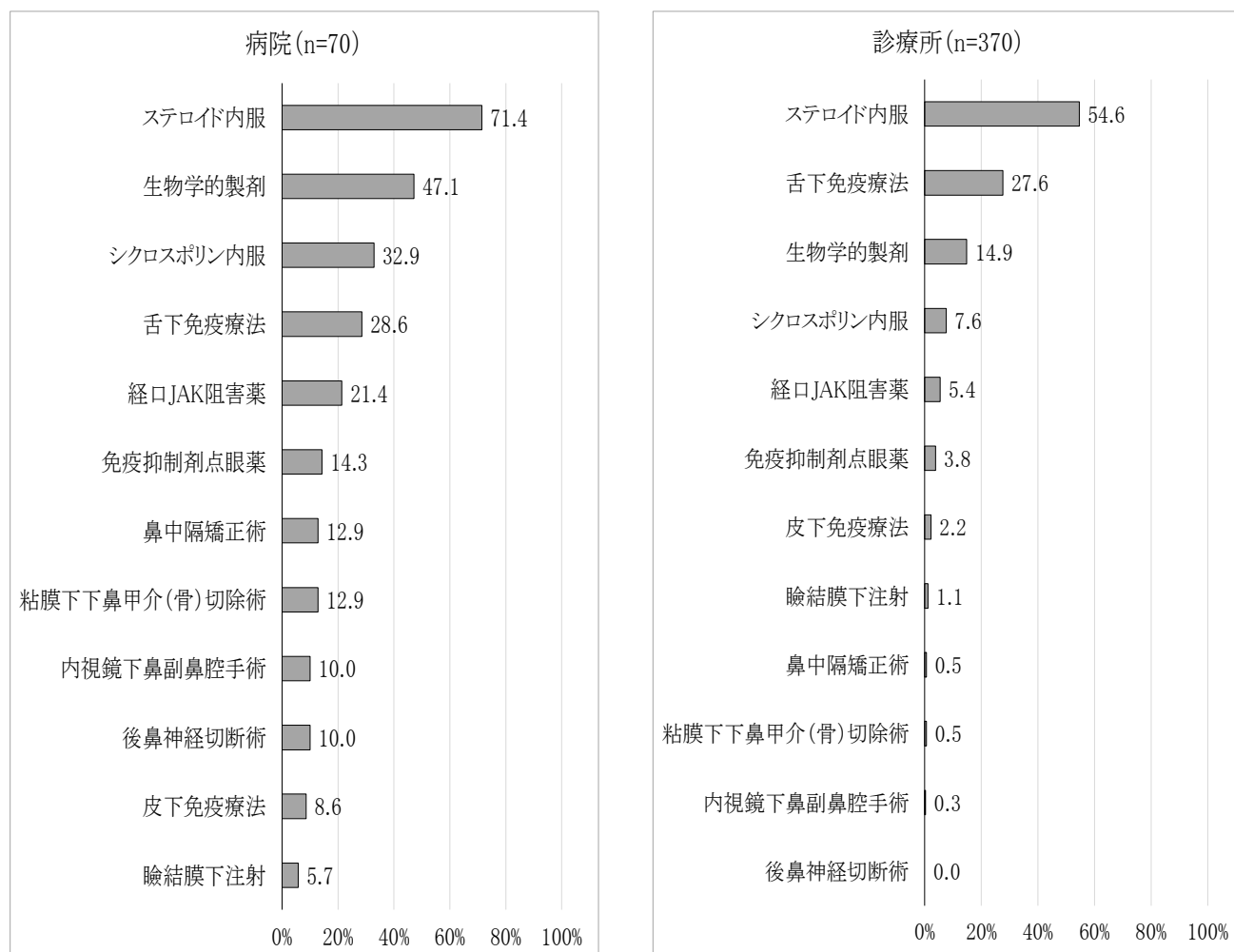


※算出した割合の母数は、問3にて「食物アレルギー」と回答した数（病院 n=27、診療所 n=106）としている。

※p. 62 (1) で挙げている食物アレルギーの診断における標準的な検査方法である「総 IgE 値・抗原特異的 IgE 抗体検査」「プリックテスト」「食物経口負荷試験」に加え、「食物除去試験」をベン図に示した。

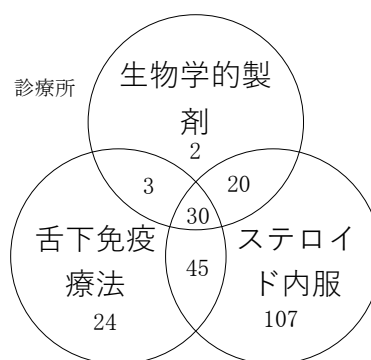
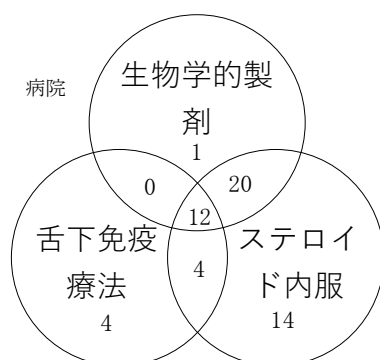
## 問 6 実施可能な治療等

令和 5 年 12 月時点で実施可能な治療等についてご回答ください。



### (1) 薬物関連

病院、診療所ともに「ステロイド内服」の割合が高かった（病院 71.4%、診療所 54.6%）。



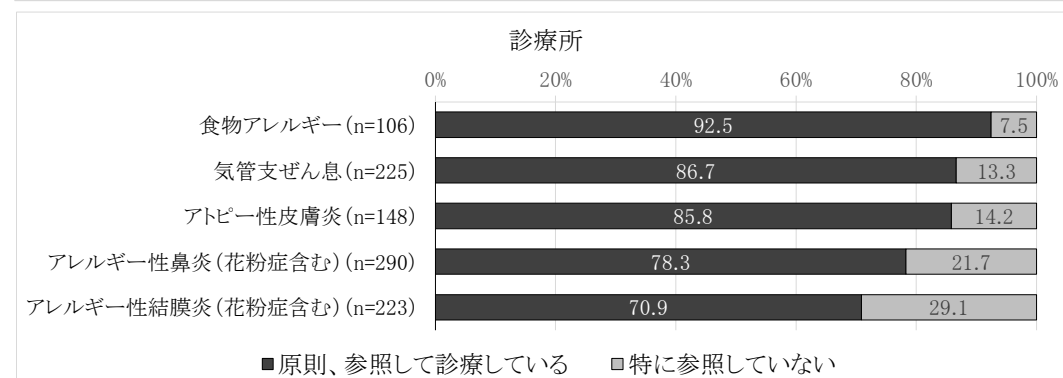
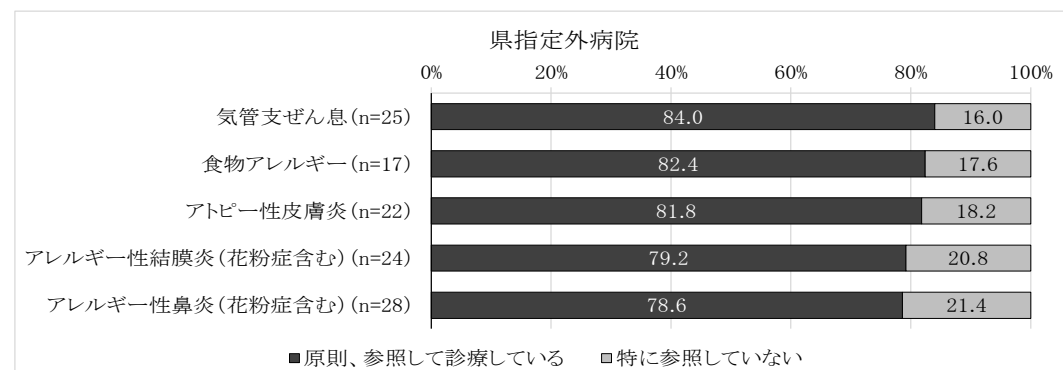
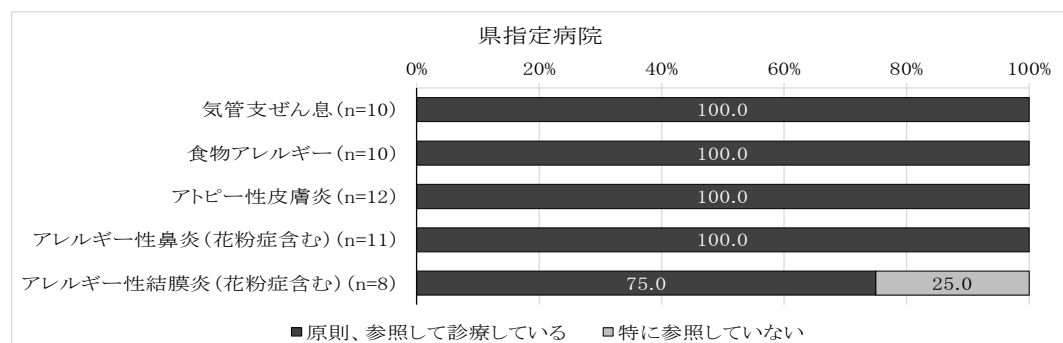
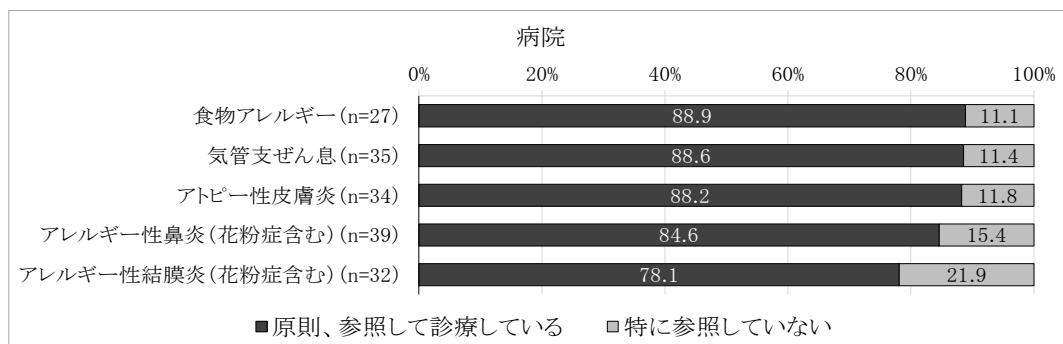
### (2) 手術関連

病院は「鼻中隔矯正術」「粘膜下下鼻甲介(骨)切除術」各 12.9%の割合が高かった。診療所は「粘膜下下鼻甲介(骨)切除術」0.5%の割合が高かった。

## 問7 アレルギー疾患に関するガイドラインを参照している診療

アレルギー疾患に関するガイドラインを参照した診療についてご回答ください。(疾患区分ごとに該当するものを選択してください)

全診療科で病院では7～8割、診療所では7割以上であり、特に「食物アレルギー」の割合が高かった(病院 88.9%、診療所 92.5%)。また、病院のうち、県指定病院※と県指定外病院では、県指定病院が「アレルギー性結膜炎(花粉症を含む)」以外の全ての疾患で100.0%ガイドラインを参照して診療していた。

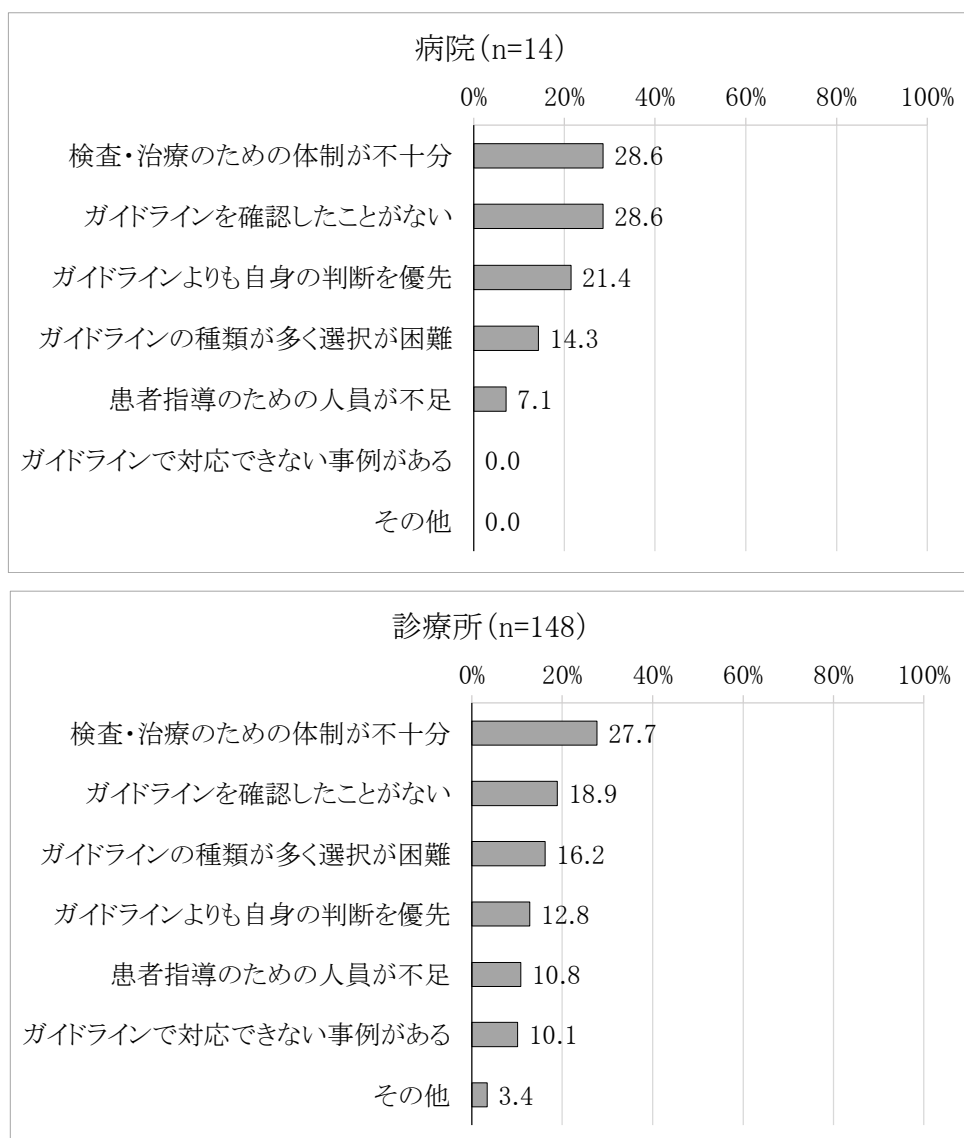


※ 県指定病院は、神奈川県アレルギー疾患専門医療機関（帝京大学医学部付属溝口病院、聖マリアンナ医科大学病院、市立多摩病院、日本鋼管病院、関東労災病院、市立井田病院）を指す。本調査での病院の回答科数 70 のうち、県指定病院が 25、県指定外病院が 45 であった。

### 問7 (3) ガイドライン\*を参照しない理由

ガイドラインを参照しない場合の理由をご回答ください。

病院は「検査・治療のための体制が不十分」「ガイドラインを確認したことがない」各 28.6%の割合が高かった。診療所は「検査・治療のための体制が不十分」27.7%の割合が高かった。



※アレルギー総合ガイドライン、小児アレルギー疾患総合ガイドライン、喘息予防・管理ガイドライン、喘息診療実践ガイドライン、小児気管支喘息治療・管理ガイドライン、アトピー性皮膚炎診療ガイドライン、鼻アレルギー診療ガイドライン、アレルギー性結膜疾患診療ガイドライン、食物アレルギー診療ガイドライン、食物アレルギー診療の手引き、食物アレルギーの栄養食事指導の手引き、特殊型食物アレルギー診療の手引き、アナフィラキシーガイドライン等

### 2.2.3 アレルギー疾患の患者指導状況

#### 問8 アレルギー疾患医療に関し、実施している患者指導内容及び実施者

次のアレルギー疾患医療の場面において、どの職種の医療従事者が患者指導を実施しているかご回答ください。

##### (1) 病態に関する説明

病院、診療所ともに「医師」の割合が高かった（病院 94.3%、診療所 87.8%）。

##### (2) ぜん息薬吸入指導

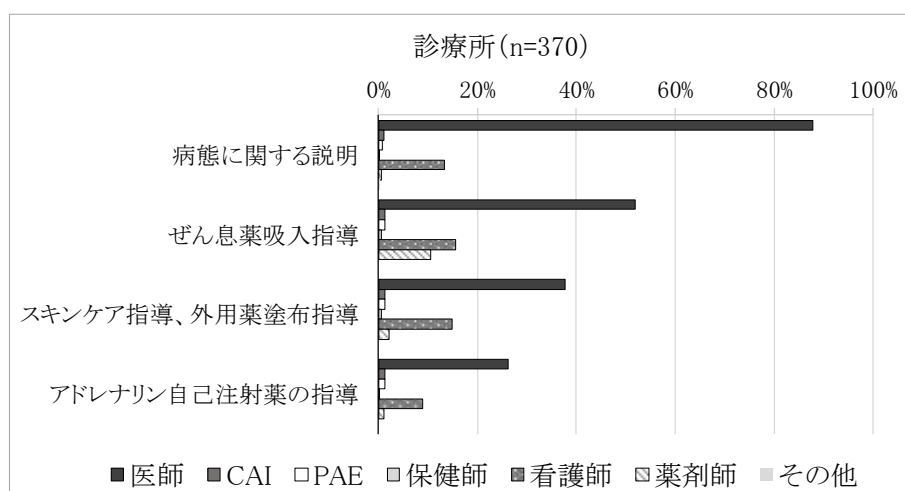
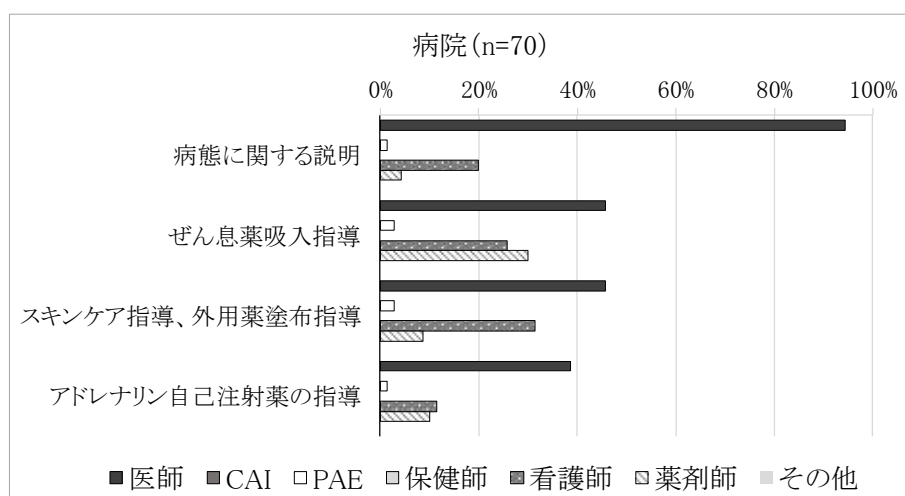
病院、診療所ともに「医師」の割合が高かった（病院 45.7%、診療所 51.9%）。

##### (3) スキンケア指導、外用薬塗布指導

病院、診療所ともに「医師」の割合が高かった（病院 45.7%、診療所 37.8%）。

##### (4) アドレナリン自己注射薬の指導

病院、診療所ともに「医師」の割合が高かった（病院 38.6%、診療所 26.2%）。

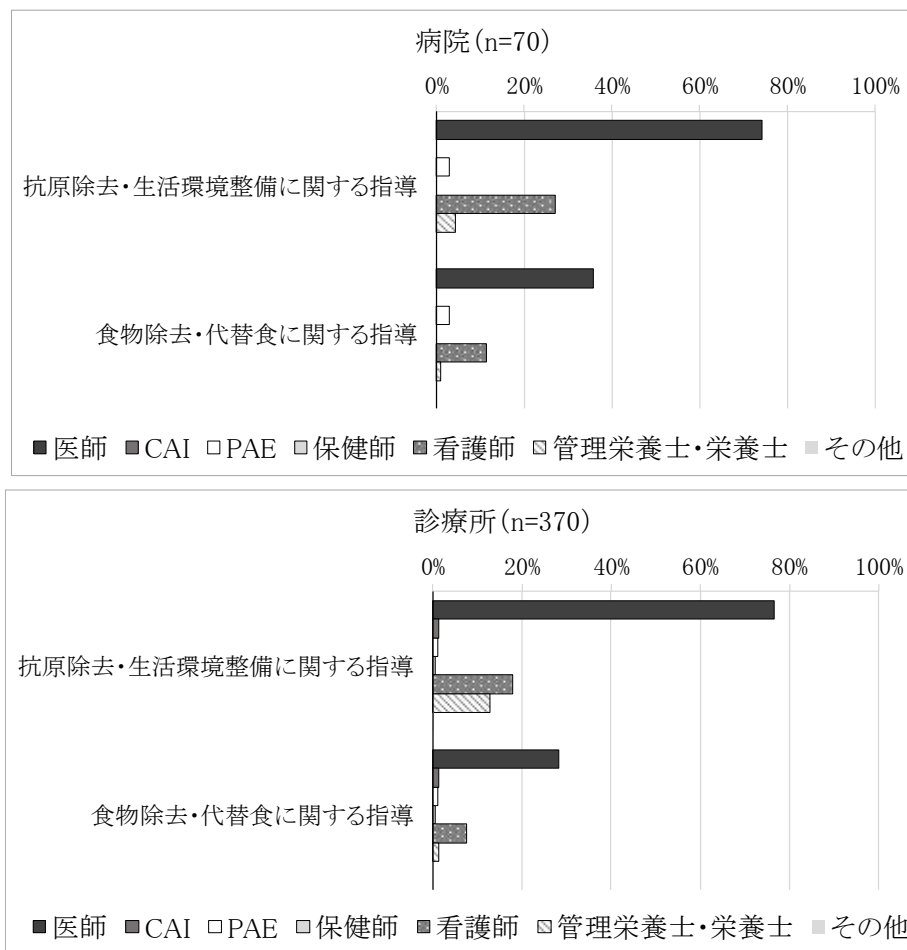


(5) 抗原除去・生活環境整備に関する指導

病院、診療所ともに「医師」の割合が高かった（病院 74.3%、診療所 76.5%）。

(6) 食物除去・代替食に関する指導

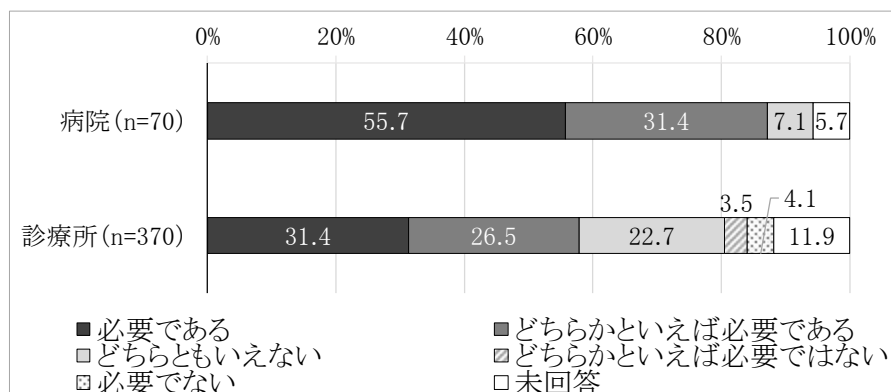
病院、診療所ともに「医師」の割合が高かった（病院 35.7%、診療所 28.4%）。



## 問 9 医師以外の医療従事者の患者指導の必要性

アレルギー疾患の治療において、医師以外の医療従事者による患者指導の必要性を感じますか。

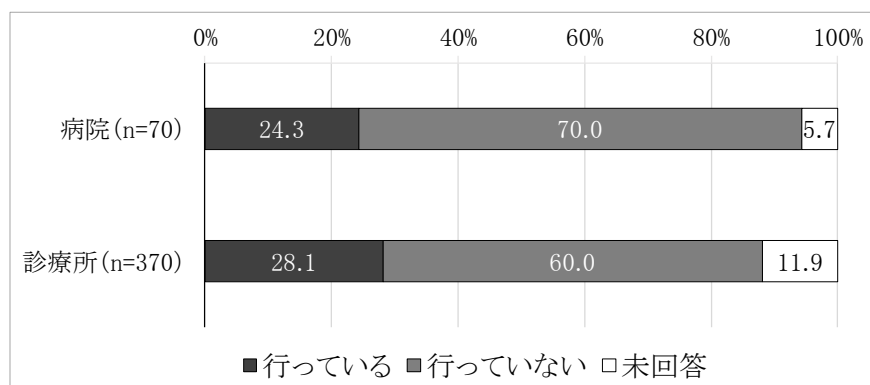
病院は「必要である」または「どちらかといえば必要である」で 87.1%の割合であった。診療所は「必要である」または「どちらかといえば必要である」で 57.9%であった。



## 問 10 院外の薬局との連携の有無

アレルギー疾患の治療に関連して、院外の薬局と連携して患者指導を行っていますか。

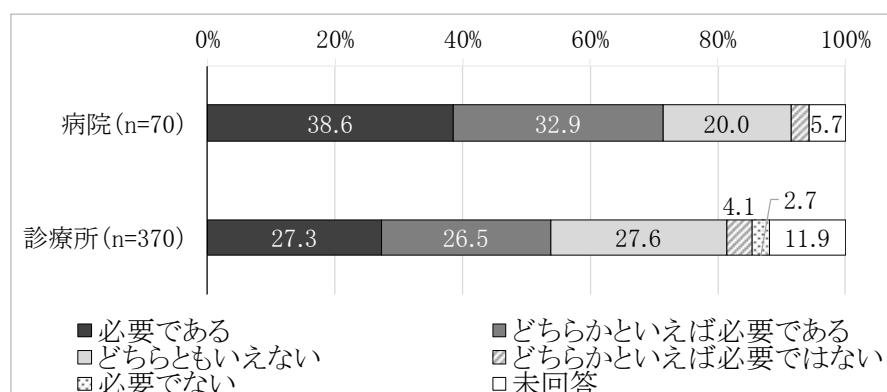
病院、診療所ともに「行っていない」の割合が高かった（病院 70.0%、診療所 60.0%）。



## 問 11 院外の薬局と連携した患者指導の必要性

アレルギー疾患の治療において、院外の薬局と連携した患者指導の必要性を感じますか。

病院は「必要である」または「どちらかといえば必要である」で 71.5%の割合であった。診療所は「必要である」または「どちらかといえば必要である」で 53.8%であった。

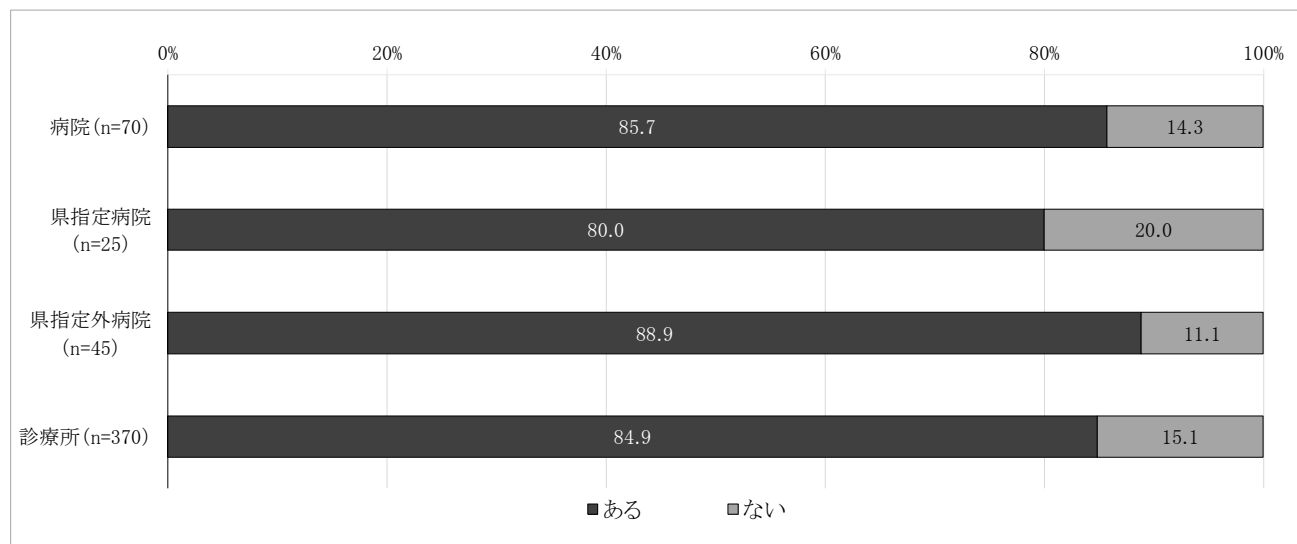


## 2.2.4 患者の受診動向（他医療機関への紹介）

### 問 12(1) 患者を紹介可能な医療機関の有無

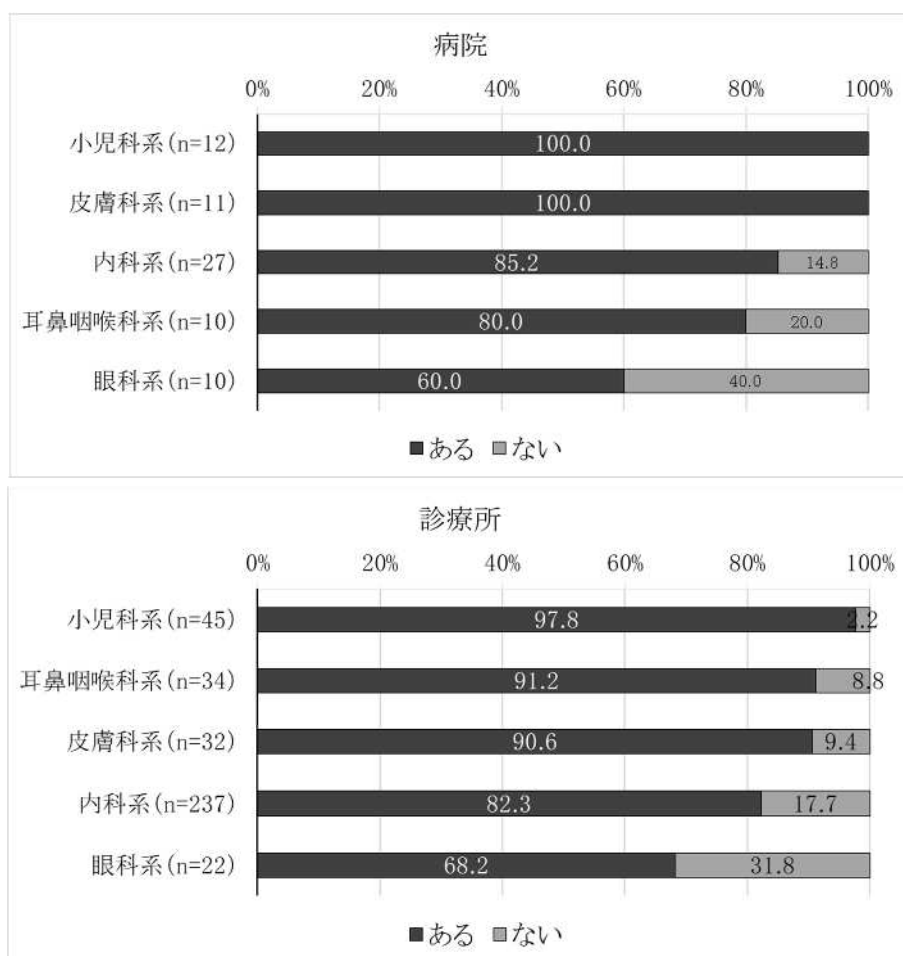
アレルギー疾患患者を紹介することが可能な医療機関はありますか。

病院、診療所ともに「ある」の割合が高かった（病院 85.7%、診療所 84.9%）。また、病院のうち、県指定病院と県指定外病院では、県指定外病院が「ある」88.9%と割合が高かった。



【診療領域別】

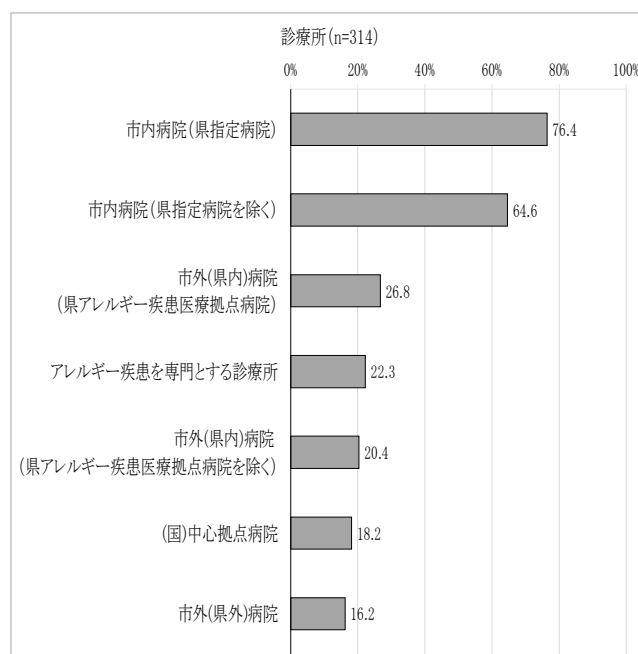
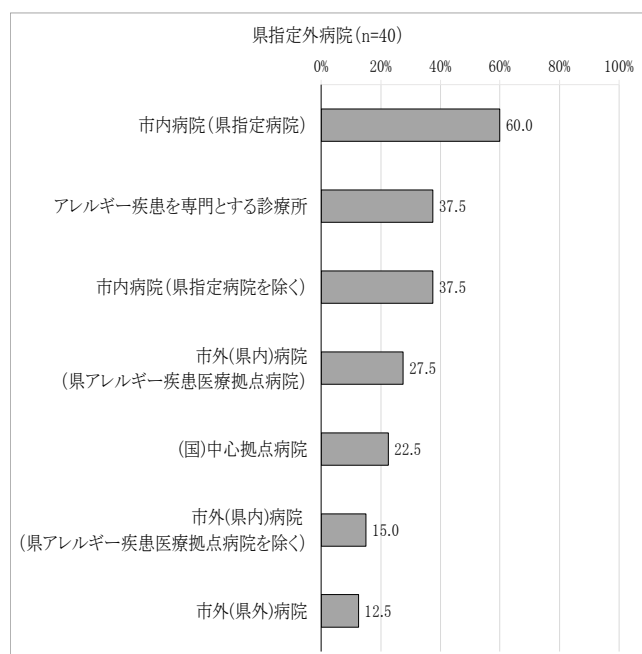
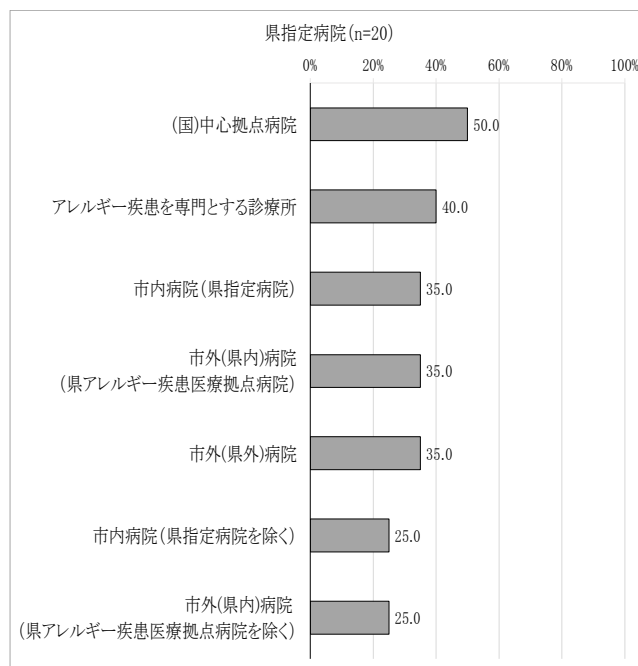
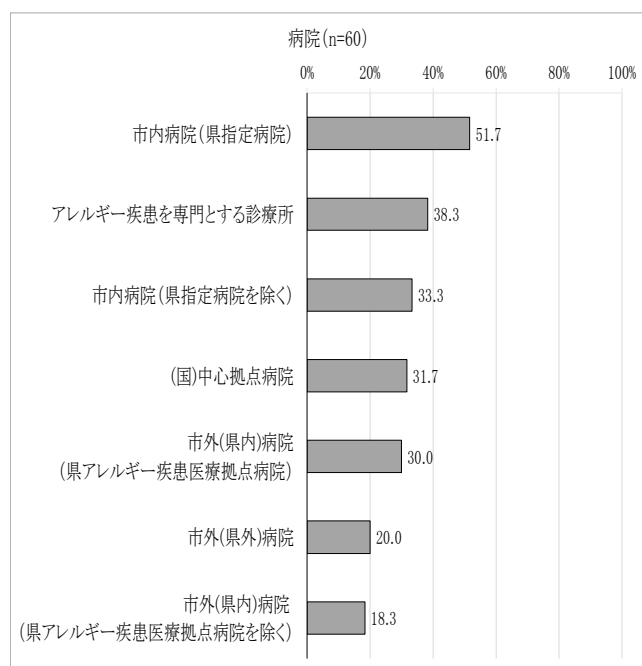
病院、診療所ともに、小児科系の「ある」の割合が最も高かった。



問 12(2) (紹介可能な医療機関がある場合) その医療機関の種別 (主なもの) ((1): あるの場合)

紹介可能な医療機関※の主な種別をご回答ください。

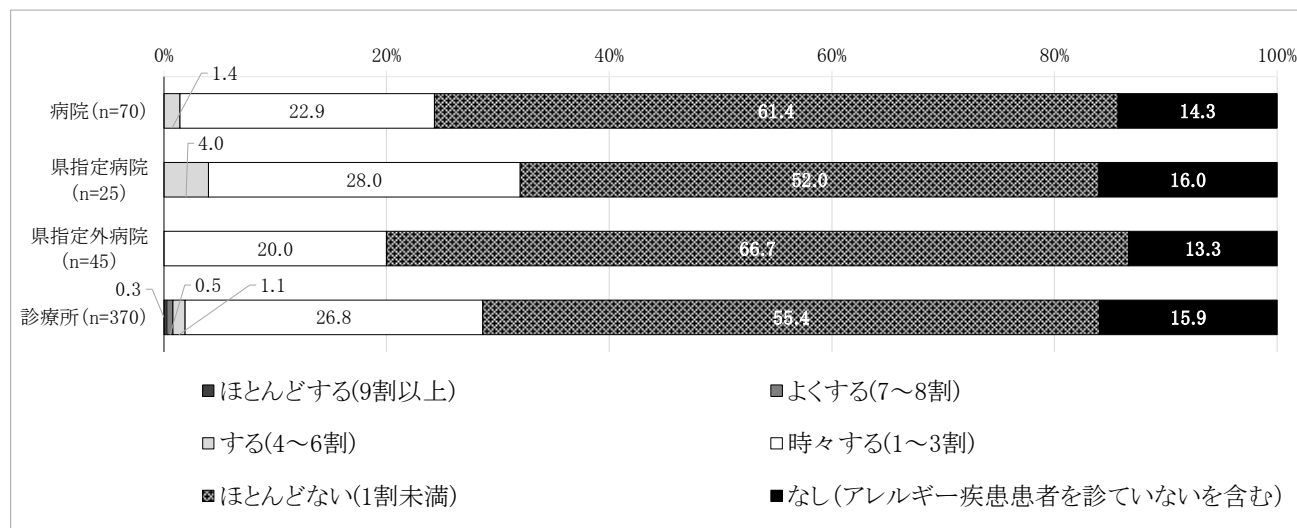
病院、診療所ともに「市内病院 (県指定病院)」の割合が高かった (病院 51.7%、診療所 76.4%)。また、病院のうち、県指定病院と県指定外病院では、県指定病院は「(国) 中心拠点病院」50.0%、県指定外病院は「市内病院 (県指定病院)」60.0%の割合が高かった。



### 問 12(3) アレルギー疾患患者のうち、実際に紹介している患者の割合

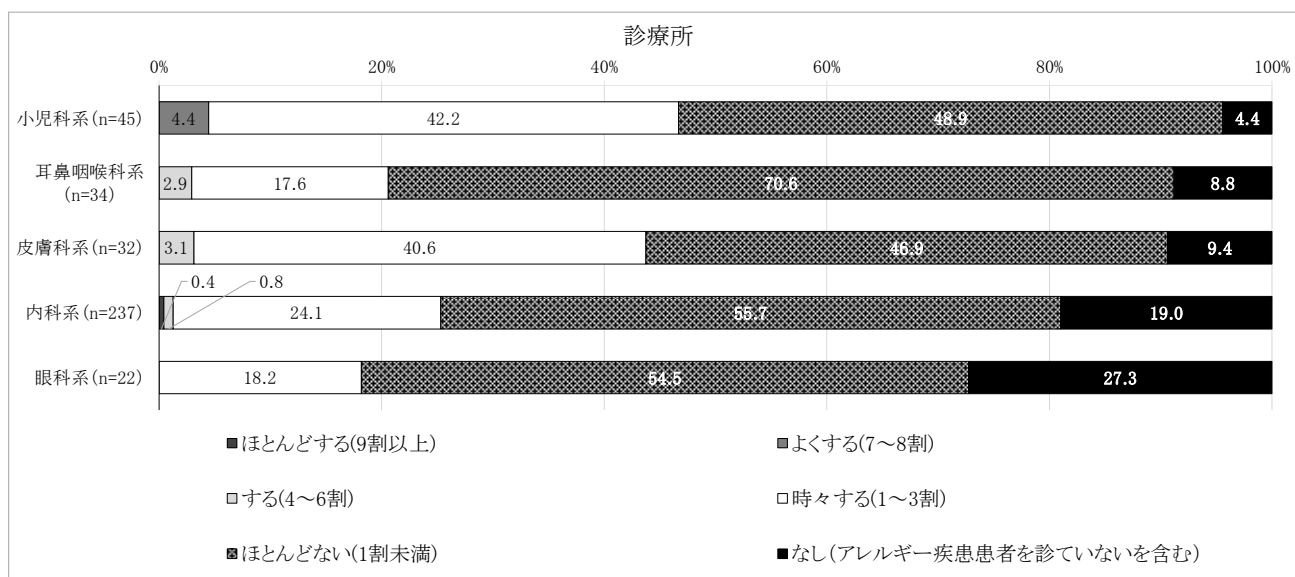
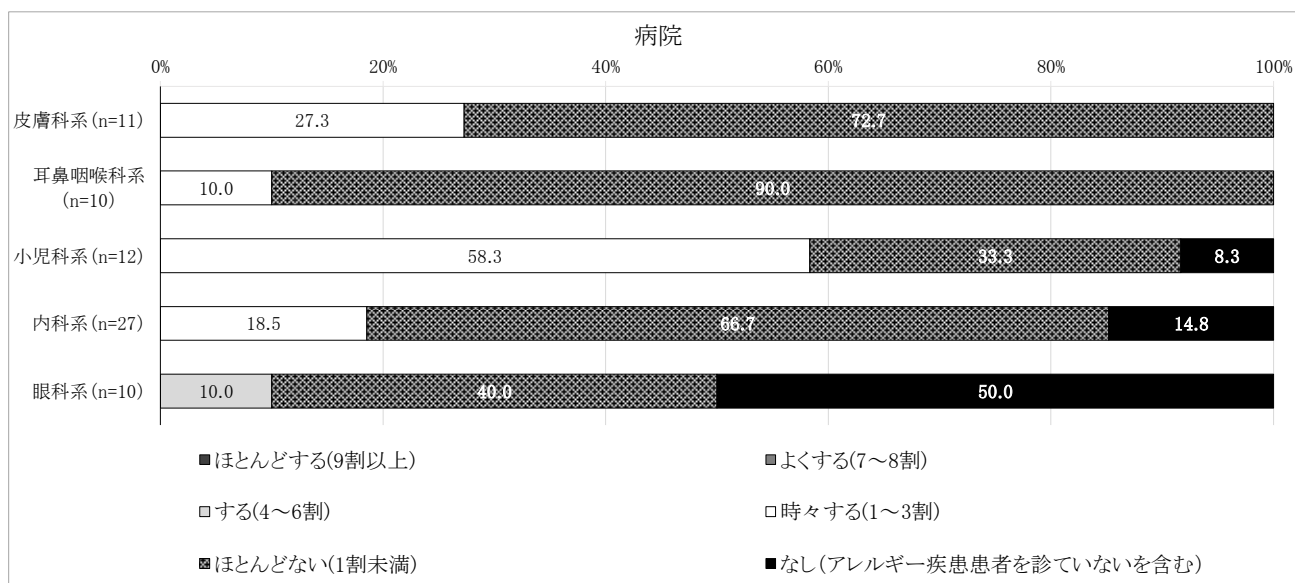
アレルギー疾患患者のうち実際にどの程度患者を紹介するかご回答ください。

紹介が実際にされていない割合（「なし」の割合）は病院、診療所ともに2割未満であった。また、病院のうち、県指定病院と県指定外病院では、県指定病院の方が「時々する」または「する」の割合が高く32.0%であった。



## 【診療領域別】

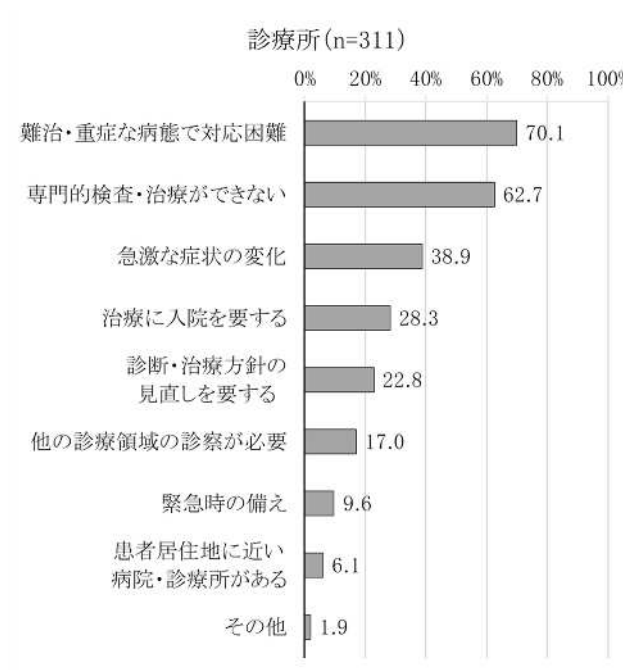
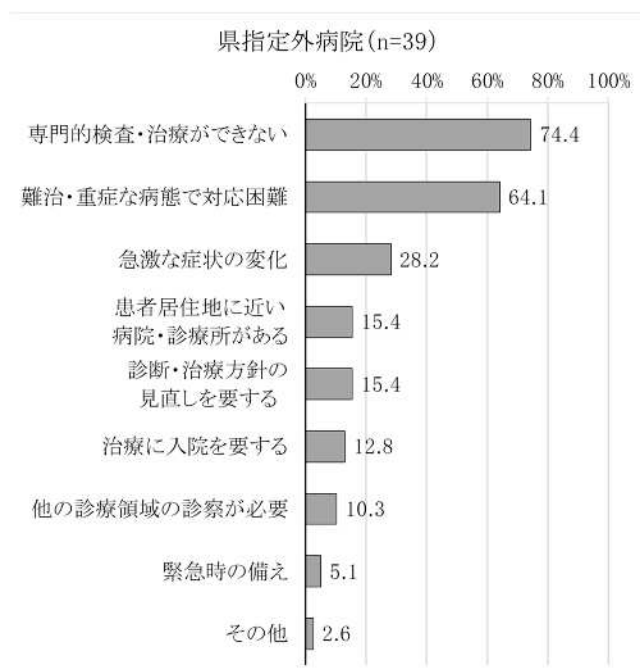
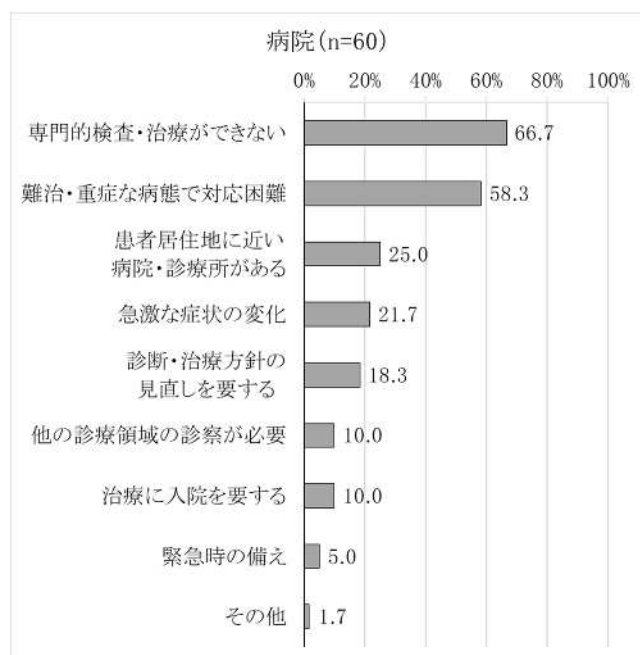
病院において、皮膚科系と耳鼻咽喉科系で「なし」の回答がなかった。診療所においては、小児科系が「なし」の割合が最も低かった。(4.4%)



#### 問 12(4) 実際に患者を紹介する理由 ((3):「なし」以外)

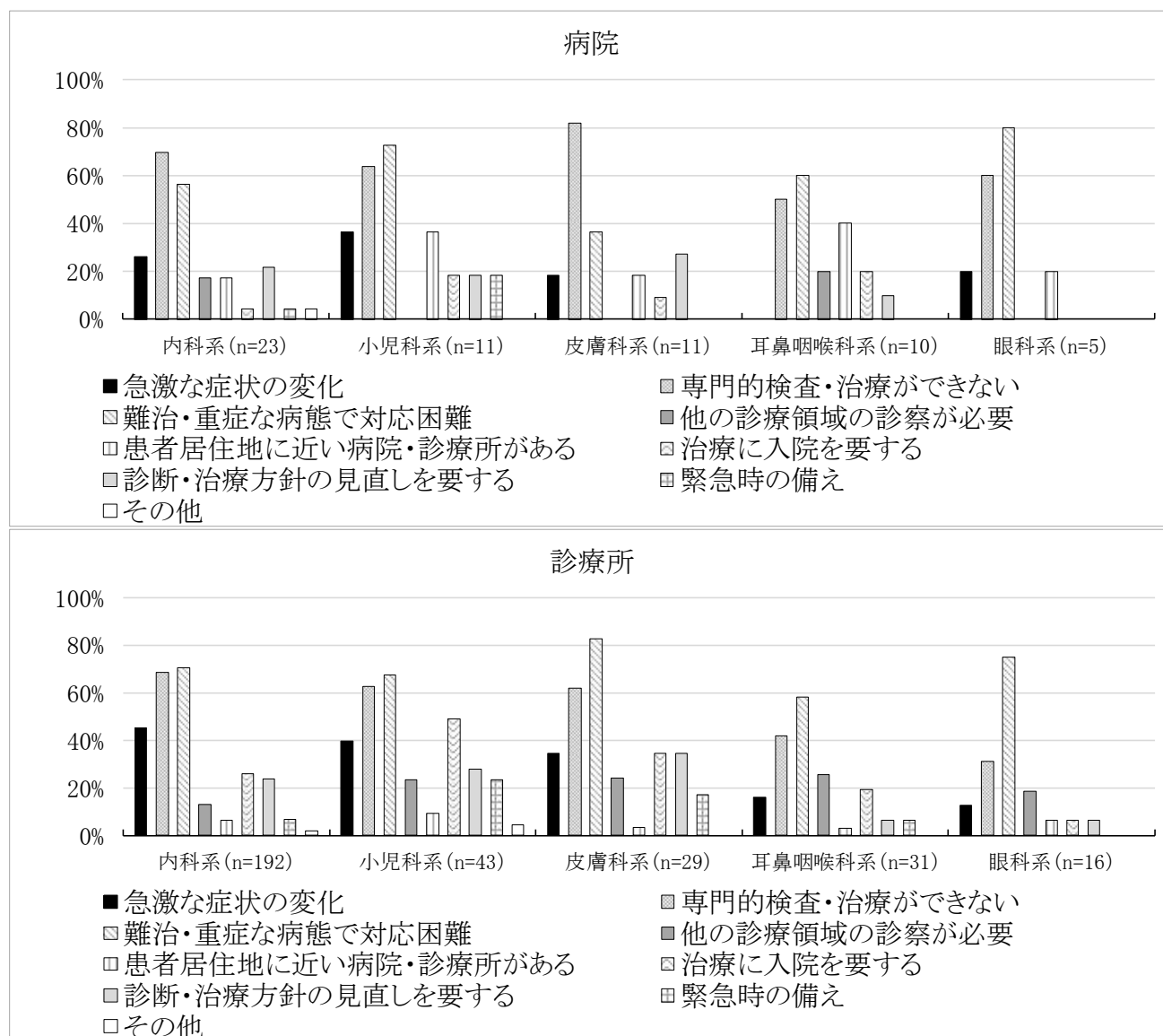
アレルギー疾患患者を実際に紹介することとした理由をご回答ください。

病院は「専門的検査・治療ができない」66.7%、診療所は「難治・重症な病態で対応困難」70.1%の割合が高かった。また、病院のうち、県指定病院と県指定外病院では、県指定外病院が「専門的検査・治療ができない」74.4%の割合が高かった。



## 【診療領域別】

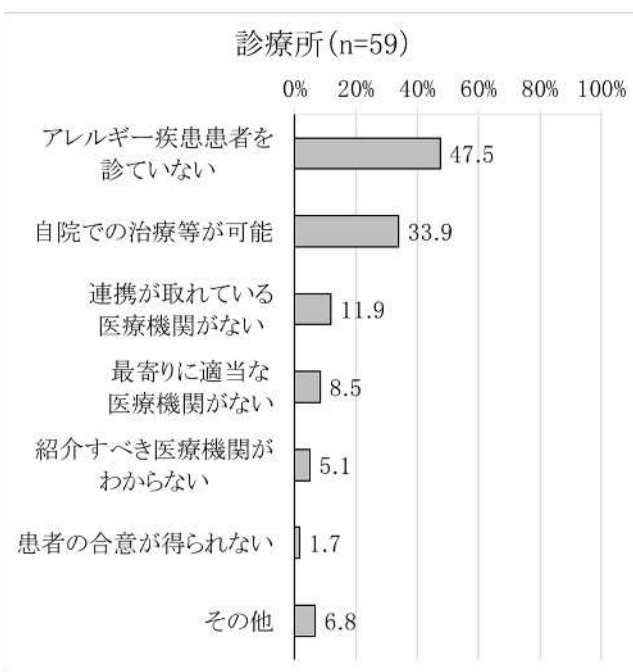
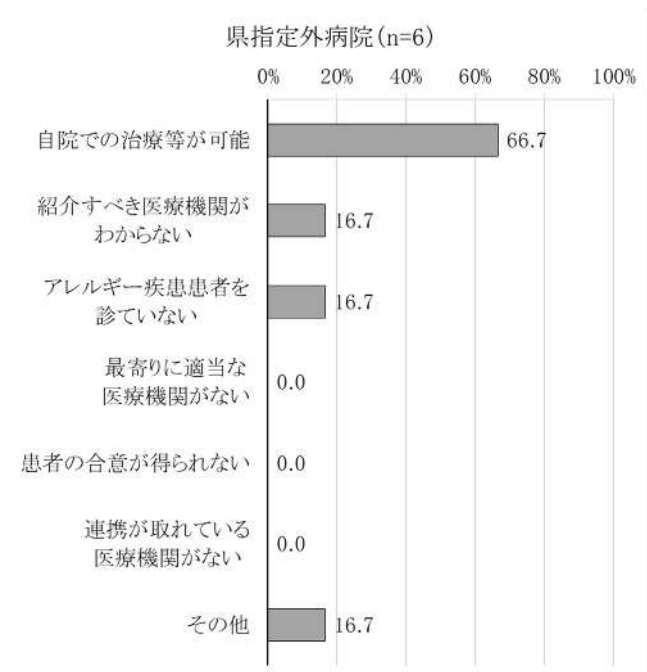
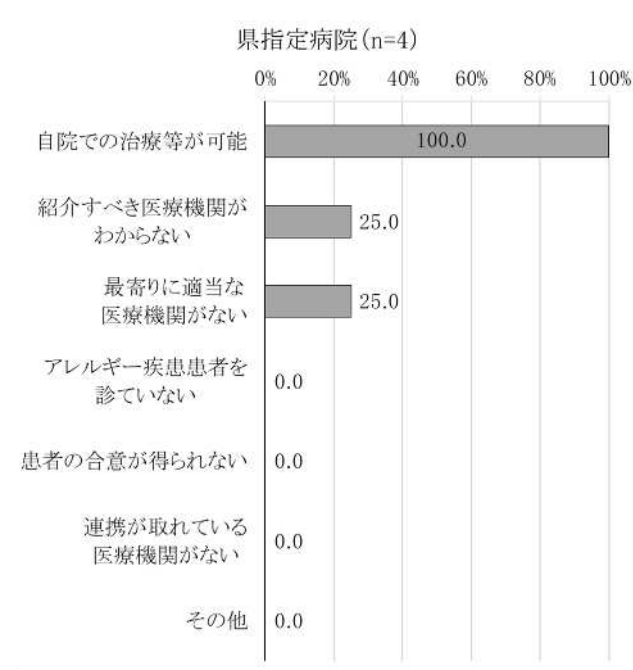
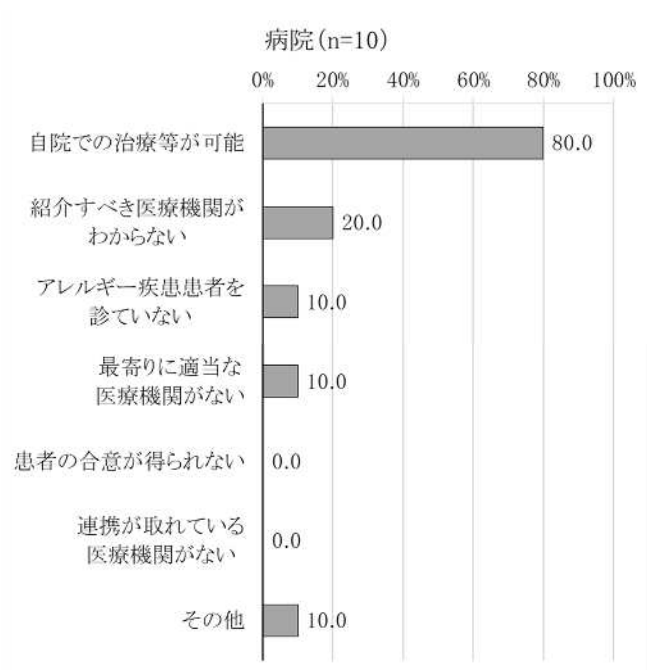
内科系について、病院は「専門的検査・治療ができない」69.6%、診療所は「難治・重症な病態で対応困難」70.3%の割合が高かった。小児科系について、病院、診療所ともに「難治・重症な病態で対応困難」の割合が高かった（病院72.7%、診療所67.4%）。皮膚科系について、病院は「専門的検査・治療ができない」81.8%、診療所は「難治・重症な病態で対応困難」82.8%の割合が高かった。耳鼻咽喉科系について、病院、診療所ともに「難治・重症な病態で対応困難」の割合が高かった（病院60.0%、診療所58.1%）。眼科系について、病院、診療所ともに「難治・重症な病態で対応困難」の割合が高かった（病院80.0%、診療所75.0%）。



問 12(5) 患者のうち、実際に紹介しない・できない理由 ((3):「なし」の場合)

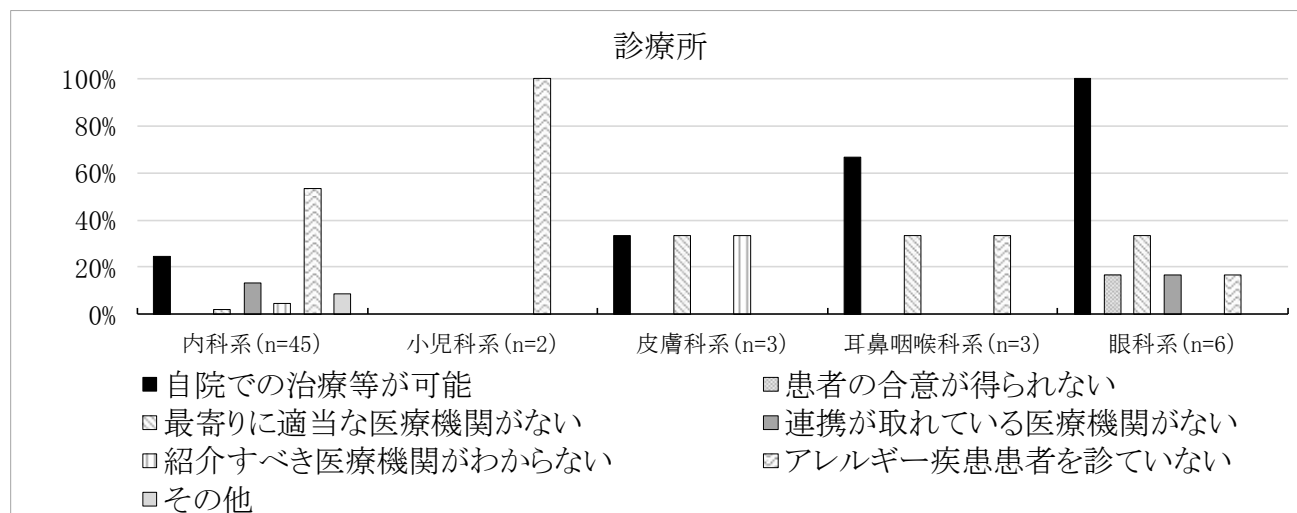
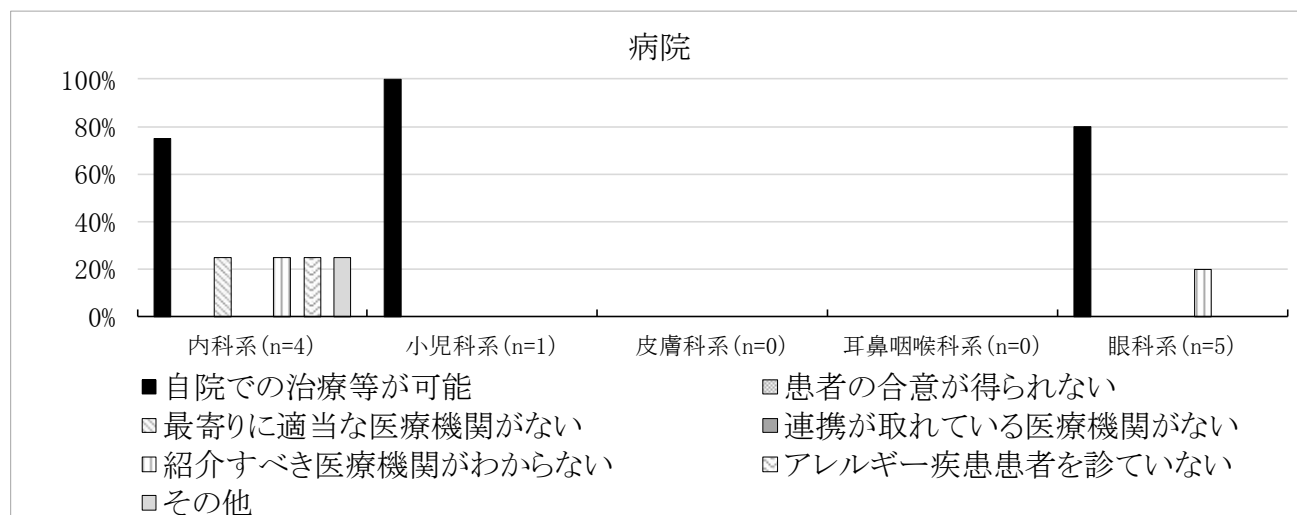
アレルギー疾患患者のうち実際に紹介をしない、またはできない理由をご回答ください。

病院は「自院での治療等が可能」80.0%、診療所は「アレルギー疾患患者を診ていない」47.5%の割合が高かった。また、病院のうち、県指定病院が「自院での治療等が可能」100.0%と割合が高かった。



## 【診療領域別】

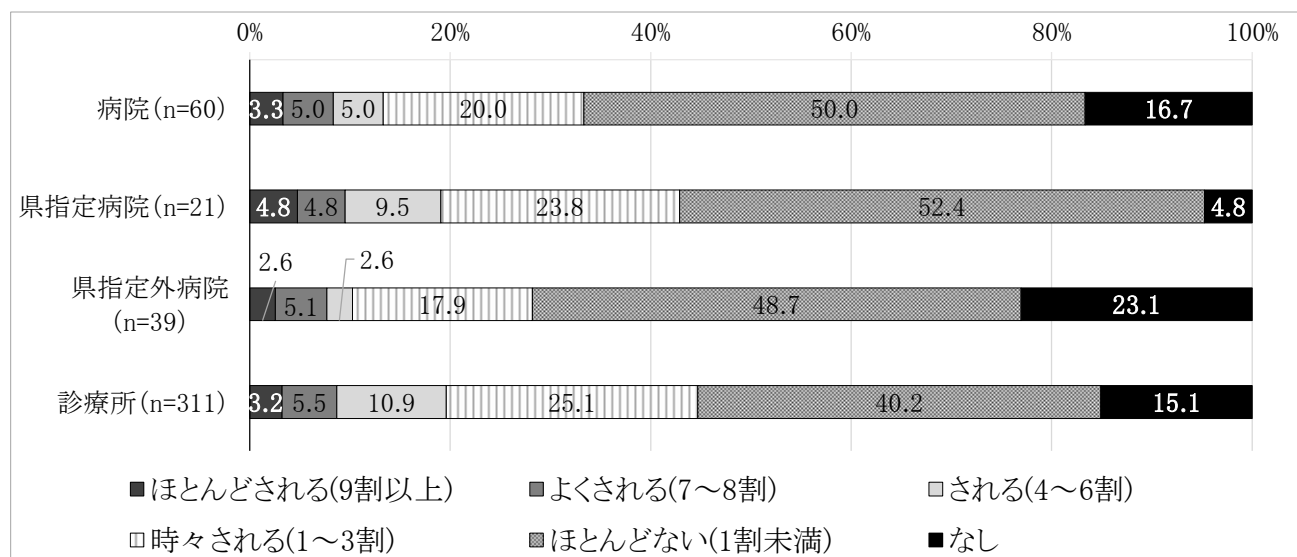
内科系について、病院は「自院での治療等が可能」75.0%、診療所は「アレルギー疾患患者を診ていない」53.3%の割合が高かった。小児科系について、病院は「自院での治療等が可能」100.0%、診療所は「アレルギー疾患患者を診ていない」100.0%の割合が高かった。皮膚科系について、診療所は「自院での治療等が可能」「最寄りに適当な医療機関がない」「紹介すべき医療機関がわからない」それぞれ33.3%であった。耳鼻咽喉科系について、診療所は「自院での治療等が可能」66.7%の割合が高かった。眼科系について、病院、診療所ともに「自院での治療等が可能」の割合が高かった（病院 80.0%、診療所 100.0%）。



問 12(6) 紹介した患者のうち逆紹介される患者の割合（(3)：「なし」以外）

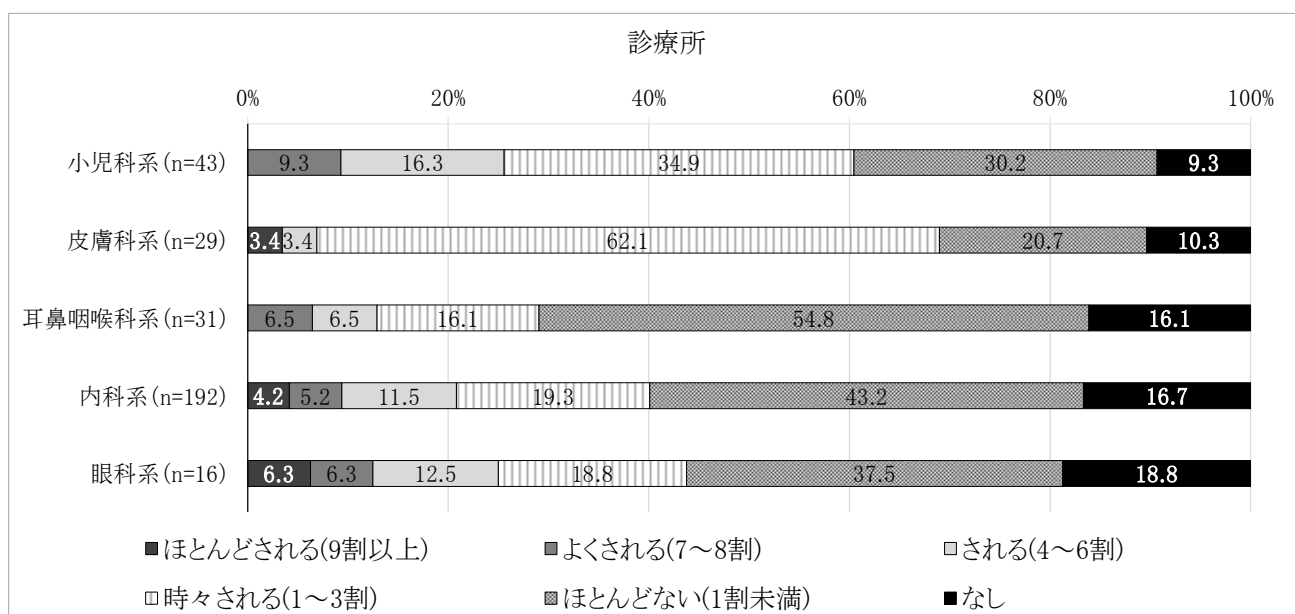
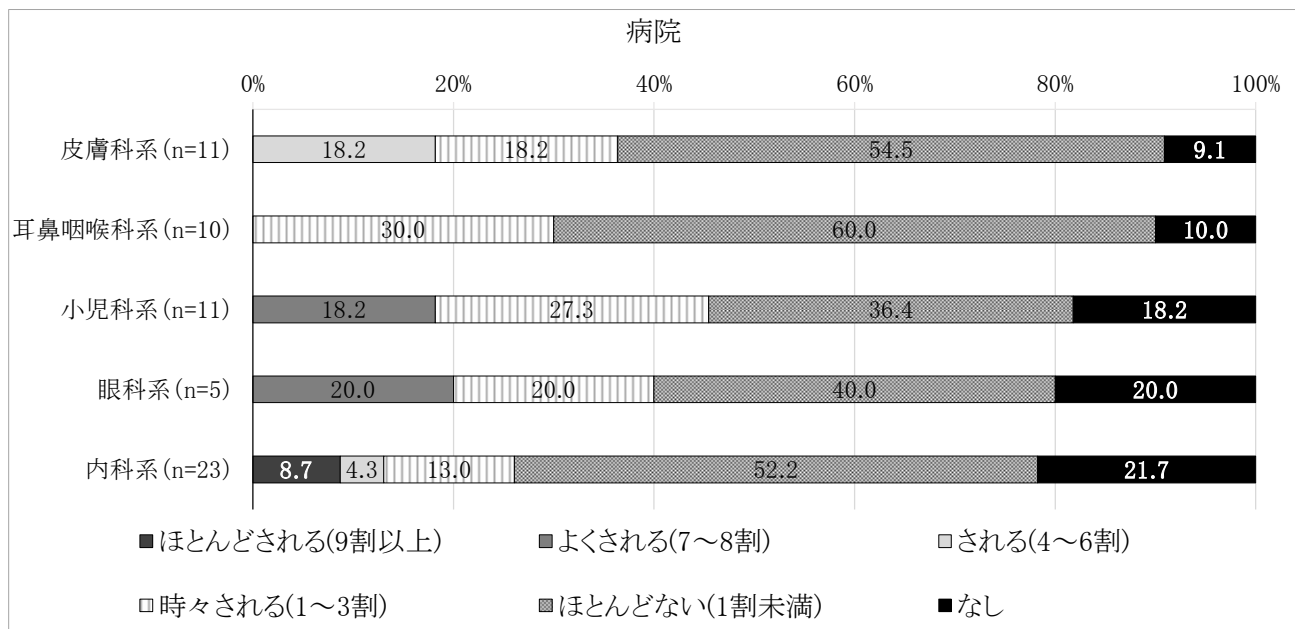
他の医療機関へ紹介した患者が貴機関に逆紹介（返送）される割合をご回答ください。

病院、診療所ともに「ほとんどない(1割未満)」の割合が高かった（病院 50.0%、診療所 40.2%）。また、病院のうち、県指定病院で「なし」の割合が 4.8%と低かった。



## 【診療領域別】

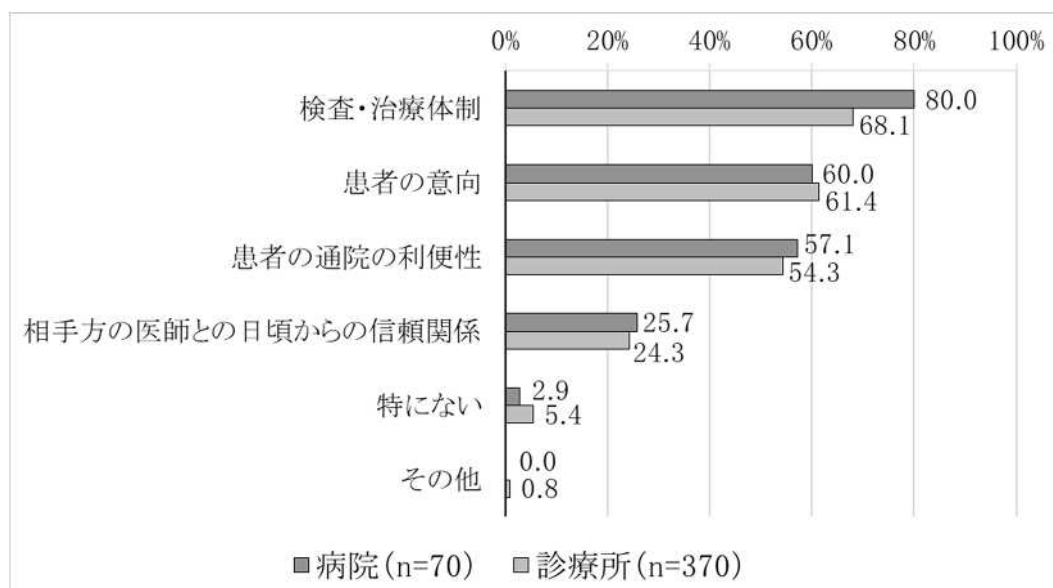
病院において、皮膚科系が「なし」の割合が最も低かった（9.1%）。診療所においては、小児科系が「なし」の割合が最も低かった（9.3%）。



問 12(7) アレルギー疾患患者を紹介する医療機関を選択する際に重視する（したい）項目

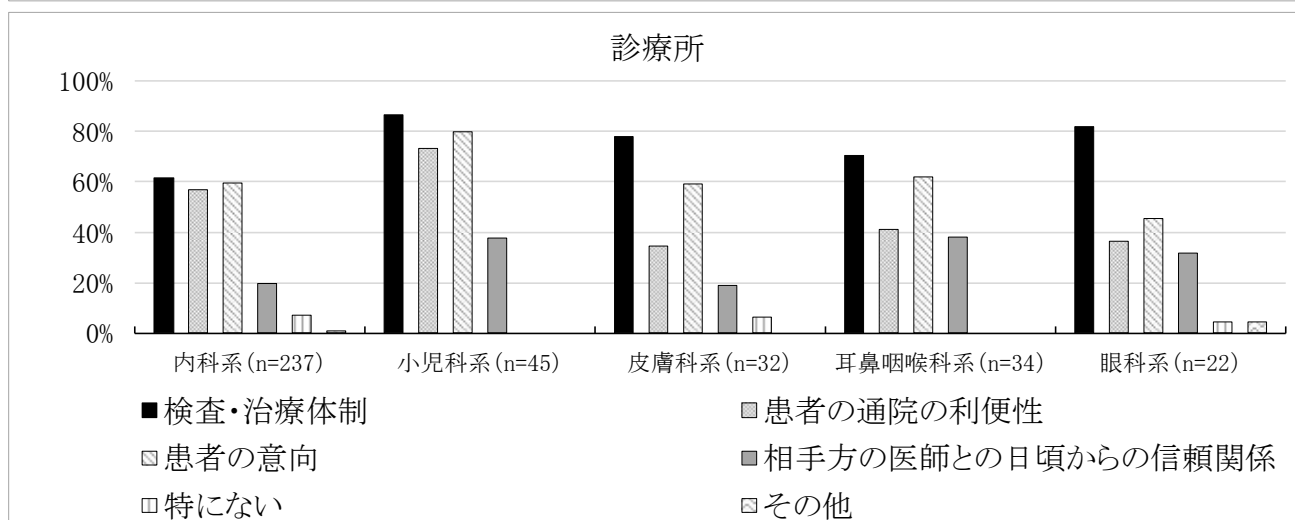
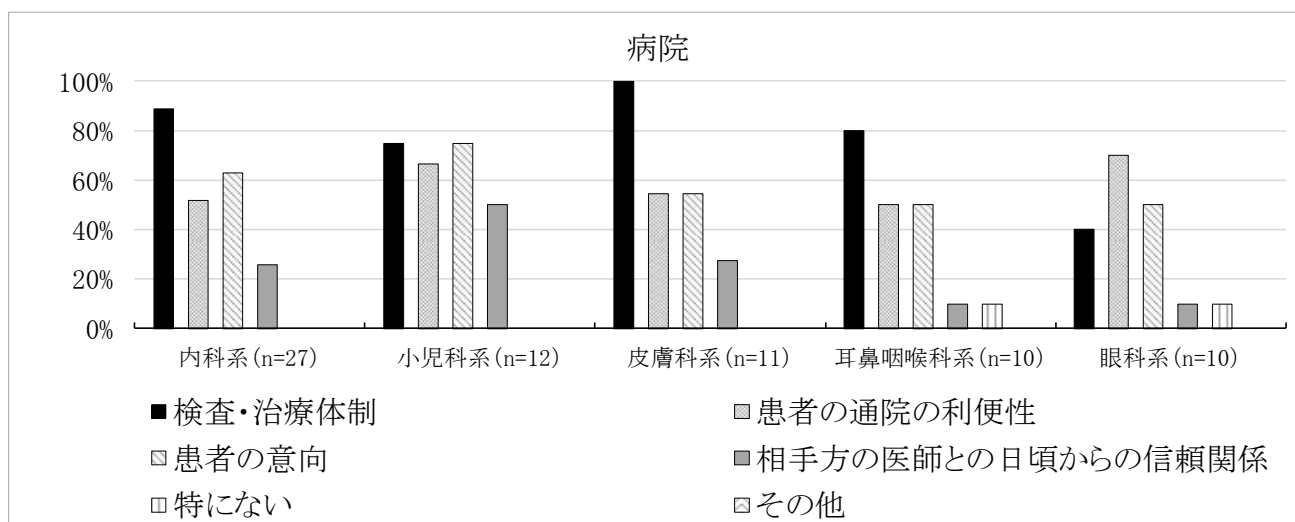
アレルギー疾患患者を紹介する医療機関を選択する際に重視する（したい）項目をご回答ください。

病院、診療所ともに「検査・治療体制」の割合が高かった（病院 80.0%、診療所 68.1%）。



## 【診療領域別】

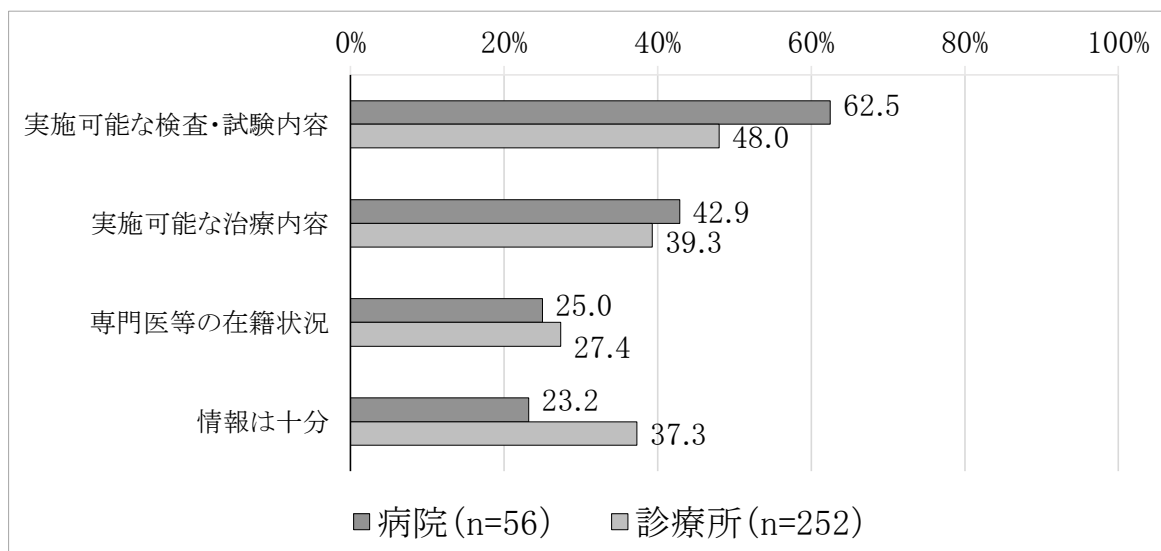
内科系について、病院、診療所ともに「検査・治療体制」の割合が高かった（病院 88.9%、診療所 61.6%）。小児科系について、病院は「検査・治療体制」「患者の意向」75.0%、診療所は「検査・治療体制」86.7%の割合が高かった。皮膚科系について、病院、診療所ともに「検査・治療体制」の割合が高かった（病院 100.0%、診療所 78.1%）。耳鼻咽喉科系について、病院、診療所ともに「検査・治療体制」の割合が高かった（病院 80.0%、診療所 70.6%）。眼科系について、病院は「患者の通院の利便性」70.0%、診療所は「検査・治療体制」81.8%の割合が高かった。



問 12(8) アレルギー疾患患者を紹介する医療機関を選択する際に情報が不十分と感じる項目 ((7):検査・治療体制の場合)

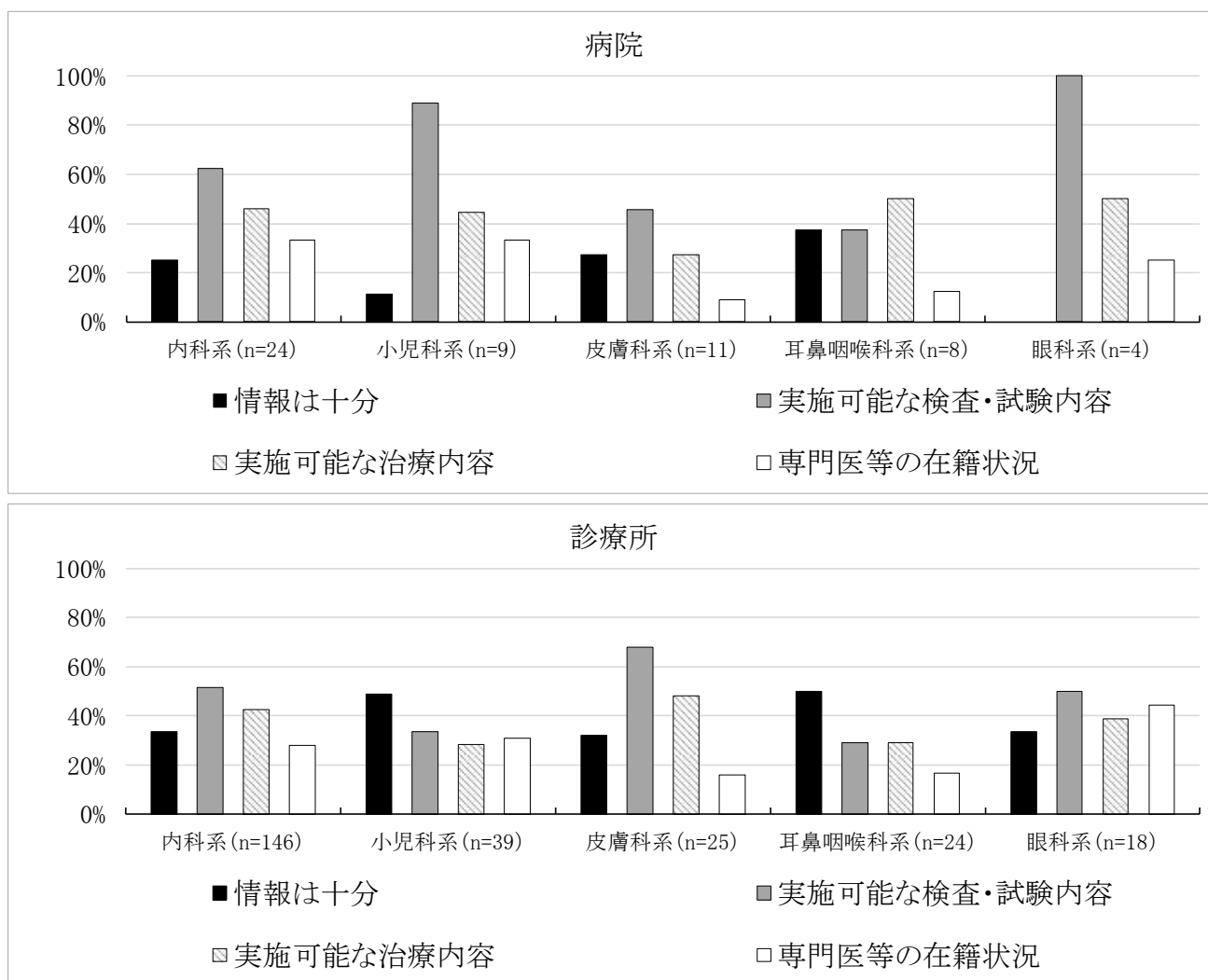
「検査・治療体制」と回答された場合、情報が不十分と感じる項目をご回答ください。

病院、診療所ともに「実施可能な検査・試験内容」の割合が高かった（病院 62.5%、診療所 48.0%）。



## 【診療領域別】

内科系について、病院、診療所ともに「実施可能な検査・試験内容」の割合が高かった（病院 62.5%、診療所 51.4%）。小児科系について、病院は「実施可能な検査・試験内容」88.9%、診療所は「情報は十分」48.7%の割合が高かった。皮膚科系について、病院、診療所ともに「実施可能な検査・試験内容」の割合が高かった（病院 45.5%、診療所 68.0%）。耳鼻咽喉科系について、病院は「実施可能な治療内容」50.0%、診療所は「情報は十分」50.0%の割合が高かった。眼科系について、病院、診療所ともに「実施可能な検査・試験内容」の割合が高かった（病院 100.0%、診療所 50.0%）。

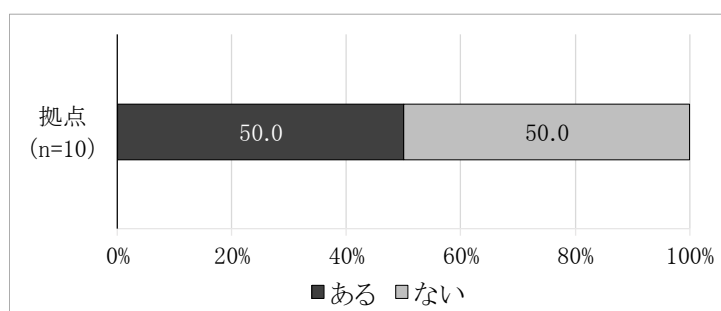


## 2.2.5 患者の受診動向（地域の医療機関への逆紹介）

### 問 13(1) 市民患者の受入状況（拠点病院のみに対する問）

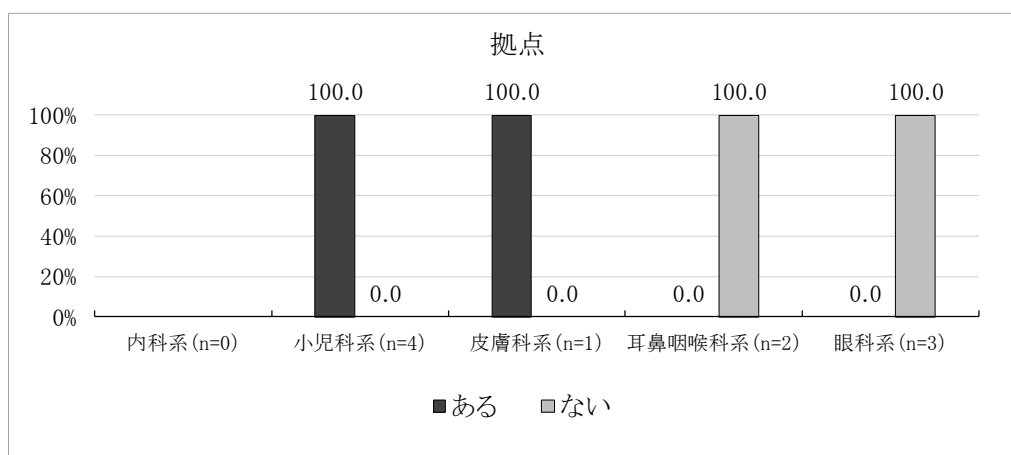
（この設問は、川崎市民に関する状況についてご回答ください。）他の医療機関から紹介されてくるアレルギー疾患患者（川崎市民）を受け入れたことはありますか。

他の医療機関から紹介されてくるアレルギー疾患患者（川崎市民）を受け入れたことがある割合は、50.0%であった。



### 【診療領域別】

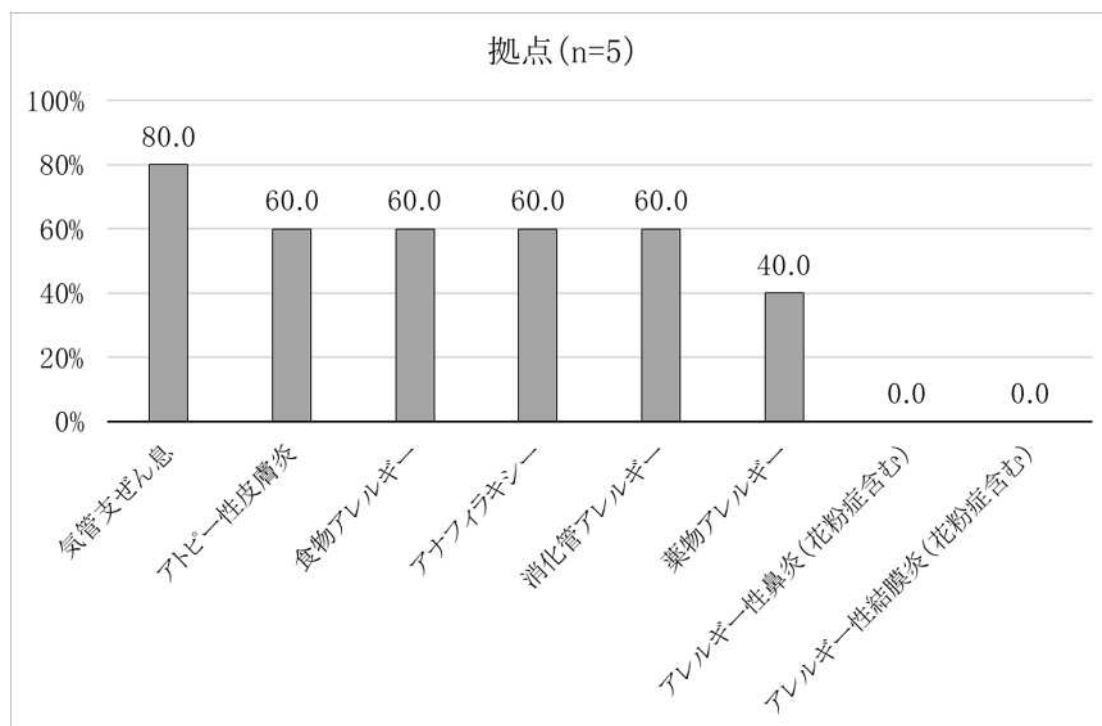
小児科系と皮膚科系については、他の医療機関から紹介されてくるアレルギー疾患患者（川崎市民）を受け入れたことがあるが、耳鼻咽喉科系と眼科系については、受け入れたことがなかった。



問 13(2) 市民受入患者の対象疾患（(1)：あるの場合）（拠点病院のみに対する問）

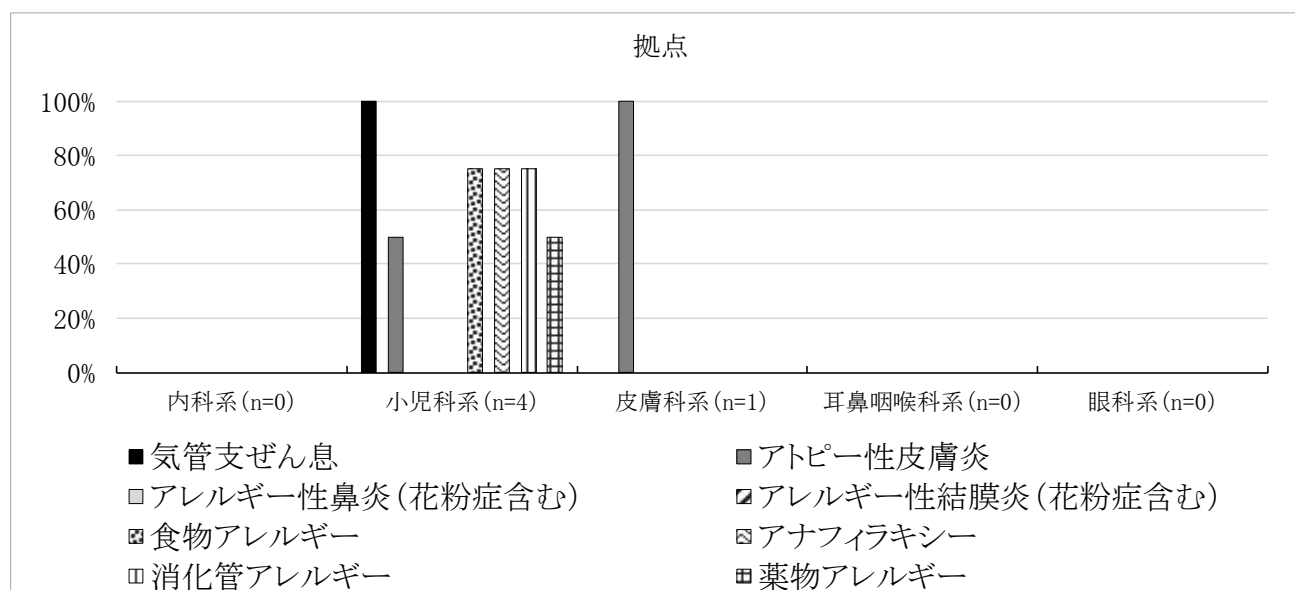
（この設問は、川崎市民に関する状況についてご回答ください。）受け入れを行った実績がある疾患についてご回答ください。

「気管支ぜん息」の割合が 80.0%と最も高かった。



【診療領域別】

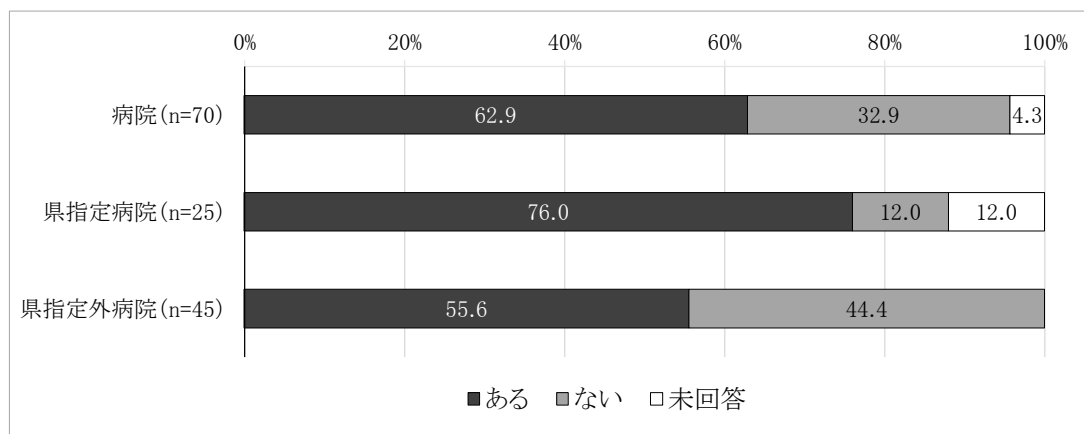
小児科系について、「気管支ぜん息」の割合は 100.0%であった。皮膚科系について、「アトピー性皮膚炎」の割合は 100.0%であった。



### 問 13(3) 患者を逆紹介可能な医療機関の有無（病院のみに対する問）

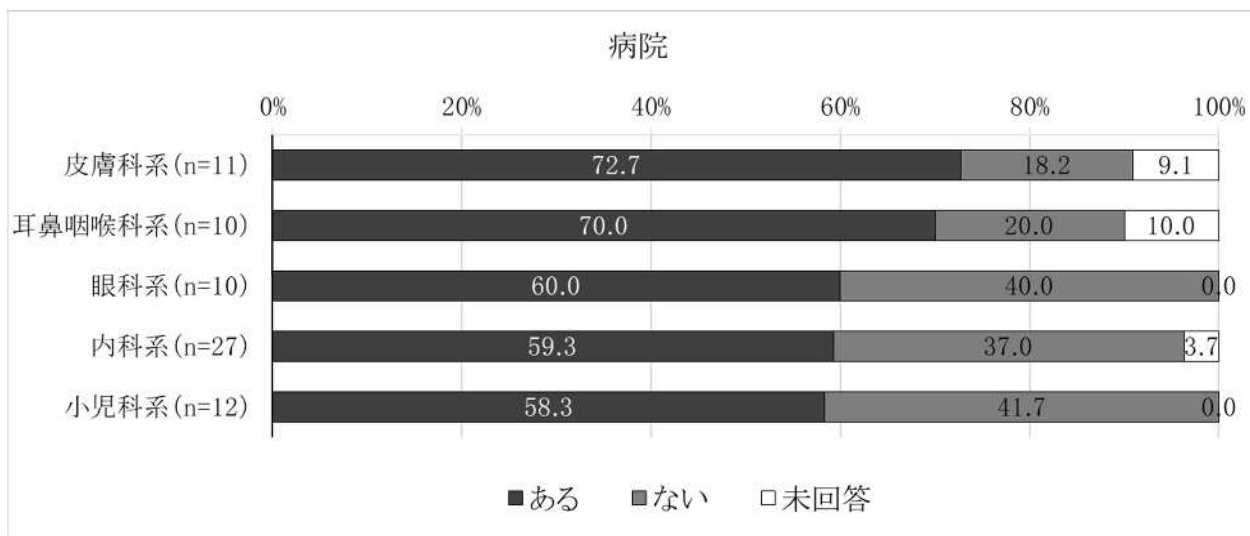
症状が安定した等により逆紹介等が可能な医療機関はありますか。

病院のうち、県指定病院と県指定外病院では、県指定病院が「症状が安定した等により逆紹介等が可能な医療機関がある」の割合が **76.0%**と高かった。



### 【診療領域別】

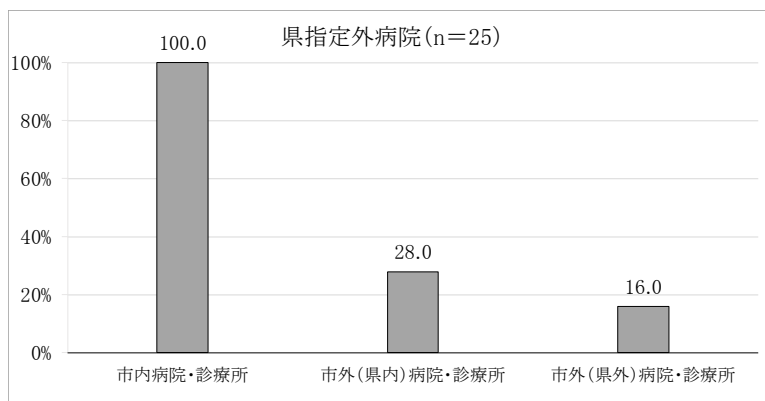
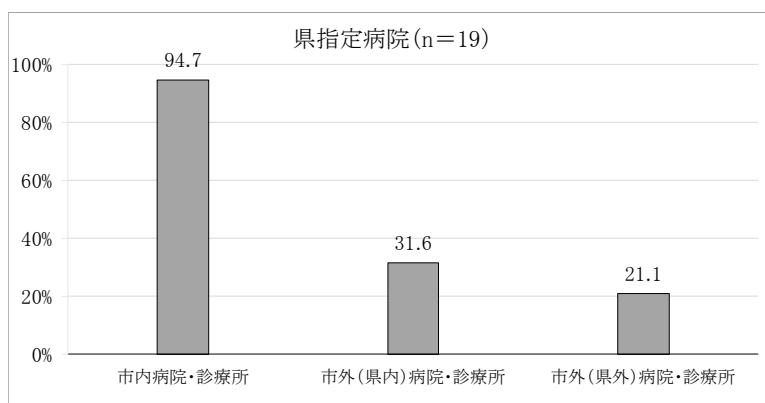
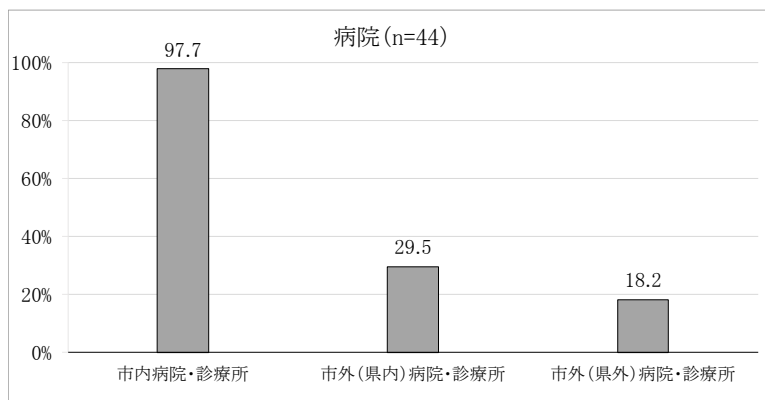
皮膚科系及び耳鼻咽喉科系の「ある」の割合が **70%以上**で他の診療領域よりも高かった。



問 13(4) (逆紹介可能な医療機関がある場合) その医療機関の種別 (主なもの) ((3):あるの場合)  
(病院のみに対する問)

症状が安定した等により逆紹介等が可能な医療機関の主な種別をご回答ください。

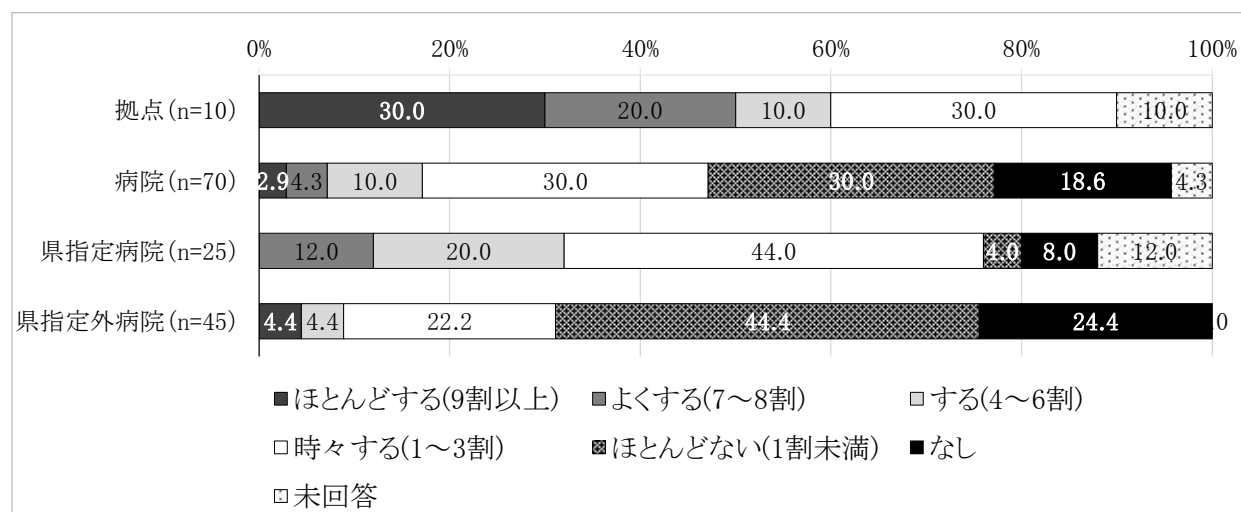
病院のうち、県指定病院と県指定外病院では、県指定外病院が「市内病院・診療所」100.0%と割合が高かった。



問 13(5) 患者のうち、実際に逆紹介している患者の割合（拠点病院・病院に対する問）

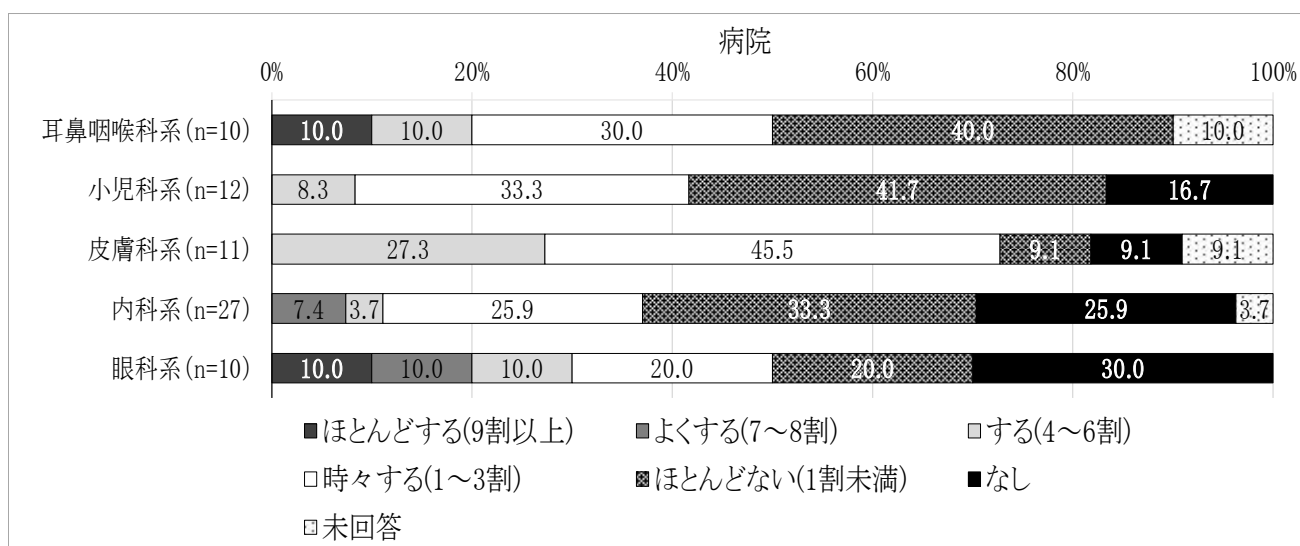
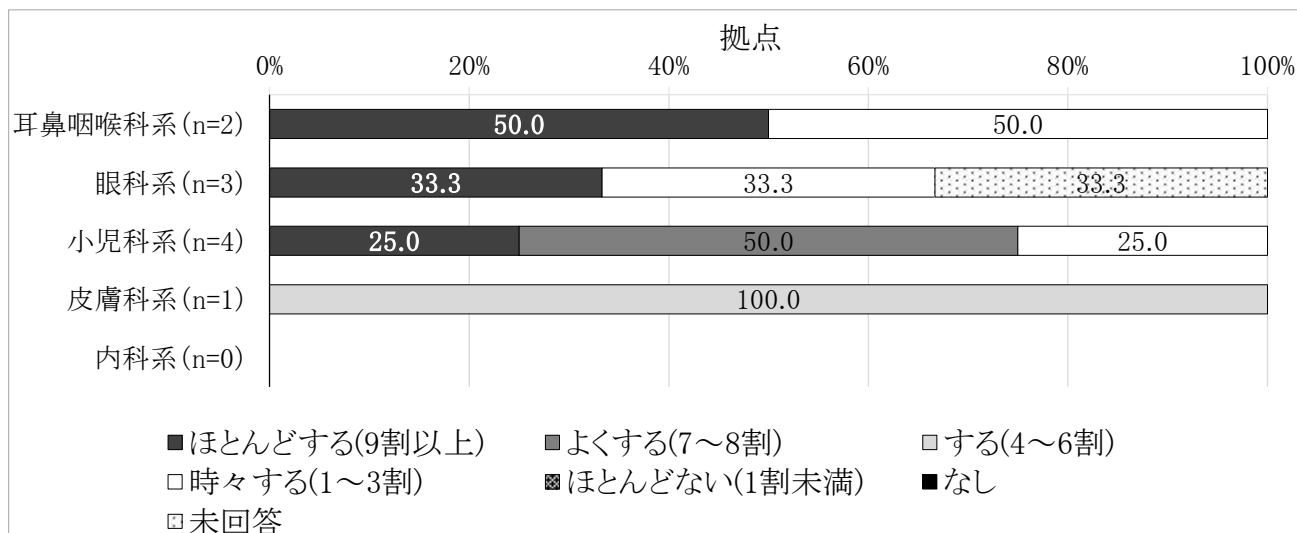
症状が安定した等により実際にどの程度患者を他の医療機関に逆紹介等をしているかご回答ください。

拠点病院は「なし」の回答がなかった。病院は「なし」の割合が約 2 割であった（18.6%）。また、病院のうち、県指定病院と県指定外病院では、県指定外病院の方が「なし」の割合が高かった（県指定病院 8.0%、県指定外病院 24.4%）。



## 【診療領域別】

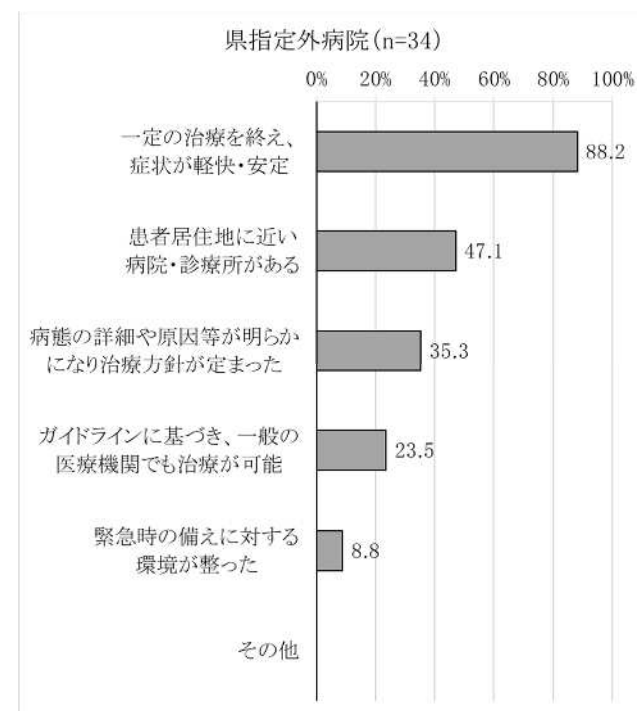
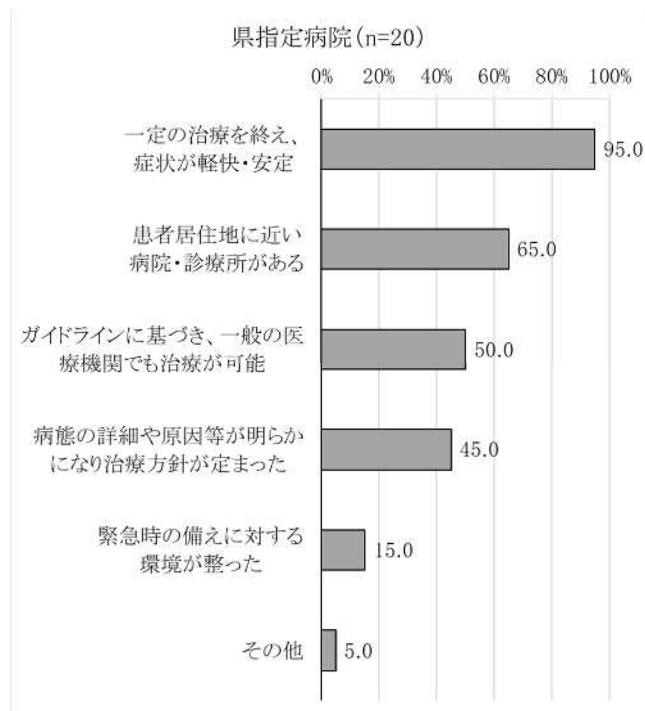
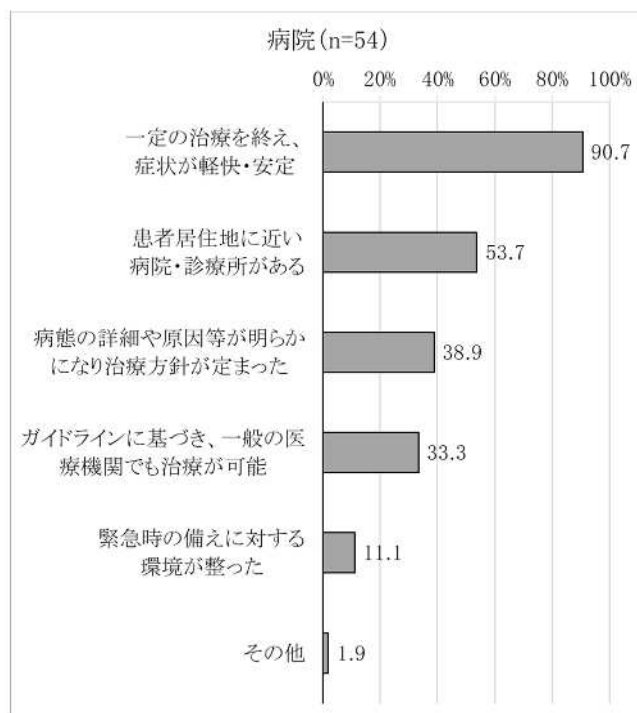
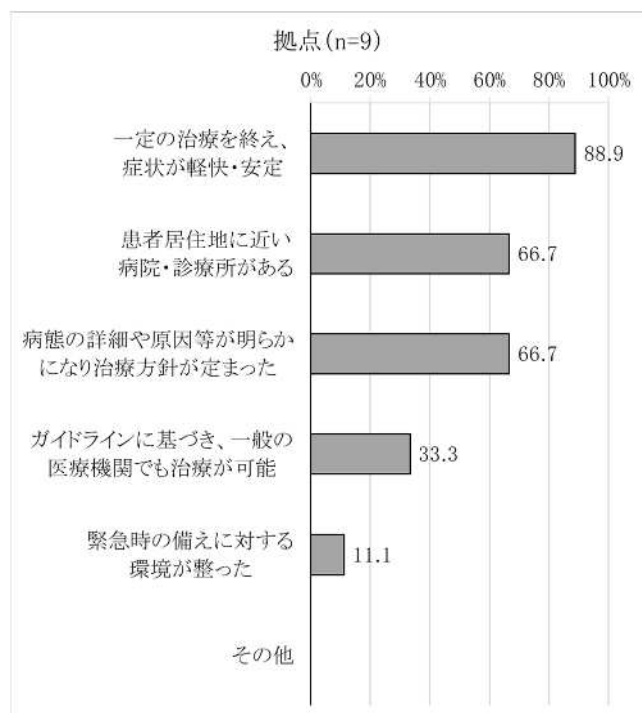
拠点病院では、内科を除きいずれの診療科においても「なし」の回答はなかった。病院では、耳鼻咽喉科系は、「なし」の回答がなく、未回答が1割あった。



問 13(6) 患者を逆紹介する理由（(5)：「なし」以外）（拠点病院・病院に対する間）

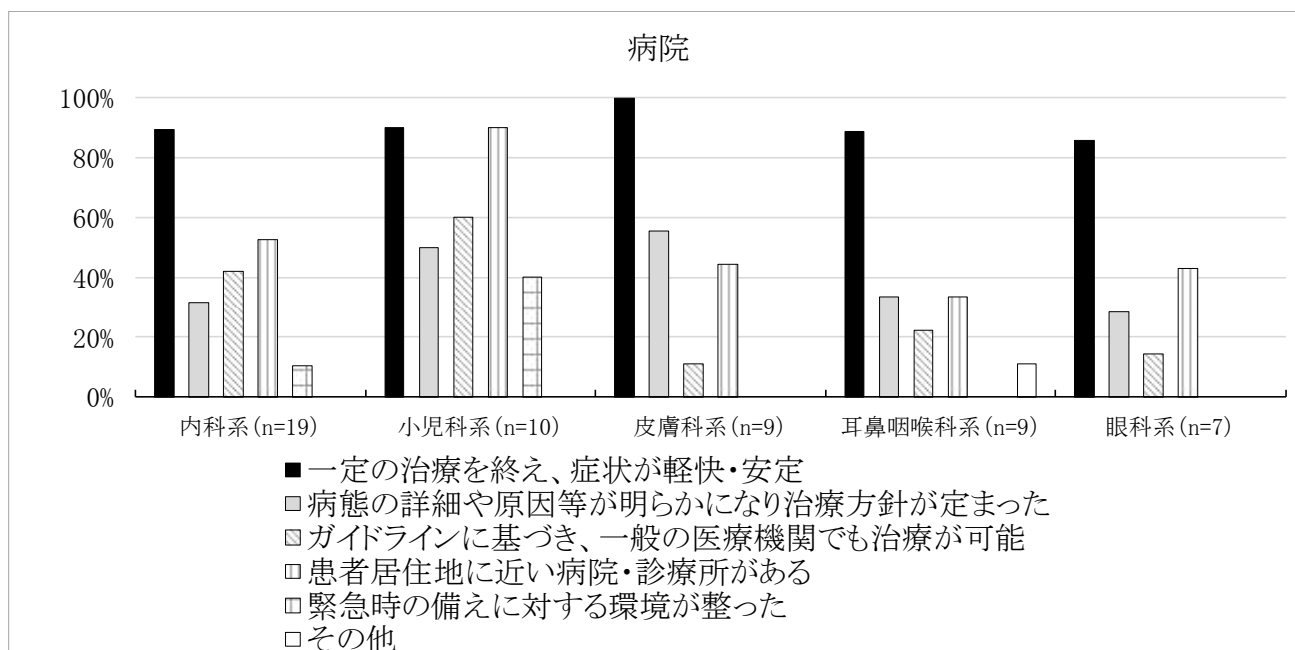
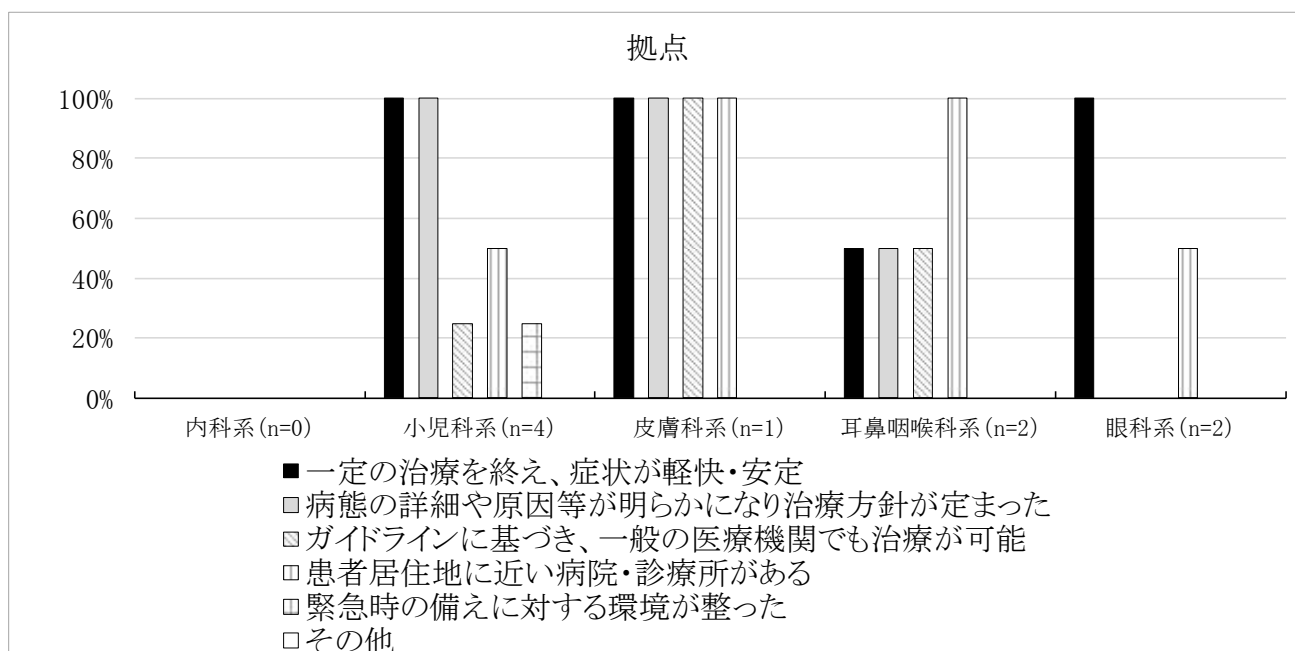
患者の症状が安定した等により他の医療機関への逆紹介等を行うこととした理由をご回答ください。

拠点病院、病院ともに「一定の治療を終え、症状が軽快・安定」の割合が高かった（拠点病院 88.9%、病院 90.7%）。



## 【診療領域別】

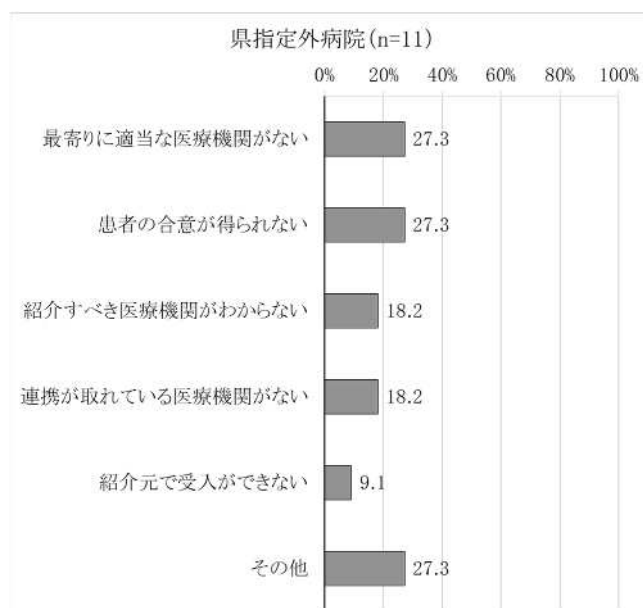
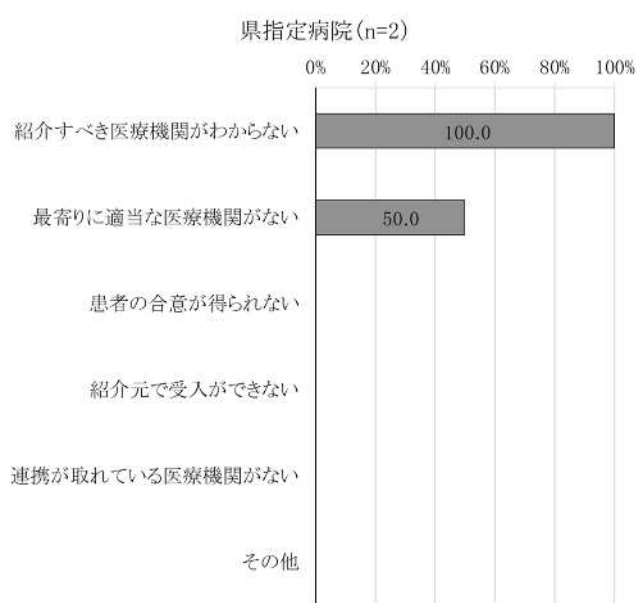
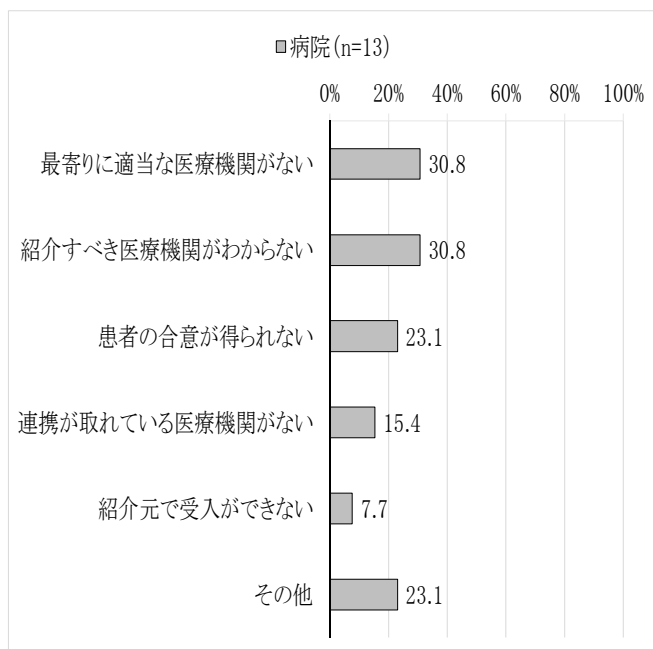
病院では、内科系について、病院は「一定の治療を終え、症状が軽快・安定」89.5%と割合が高かった。小児科系について、「一定の治療を終え、症状が軽快・安定」「患者居住地に近い病院・診療所がある」90.0%の割合が高かった。皮膚科系について、「一定の治療を終え、症状が軽快・安定」100.0%の割合が高かった。耳鼻咽喉科系について、「一定の治療を終え、症状が軽快・安定」88.9%の割合が高かった。眼科系について、「一定の治療を終え、症状が軽快・安定」85.7%の割合が高かった。



問 13(7) 逆紹介しない・できない理由 (5) : なしの場合 (拠点病院・病院に対する問)

患者の症状が安定した等により逆紹介等をしない、またはできない理由をご回答ください。

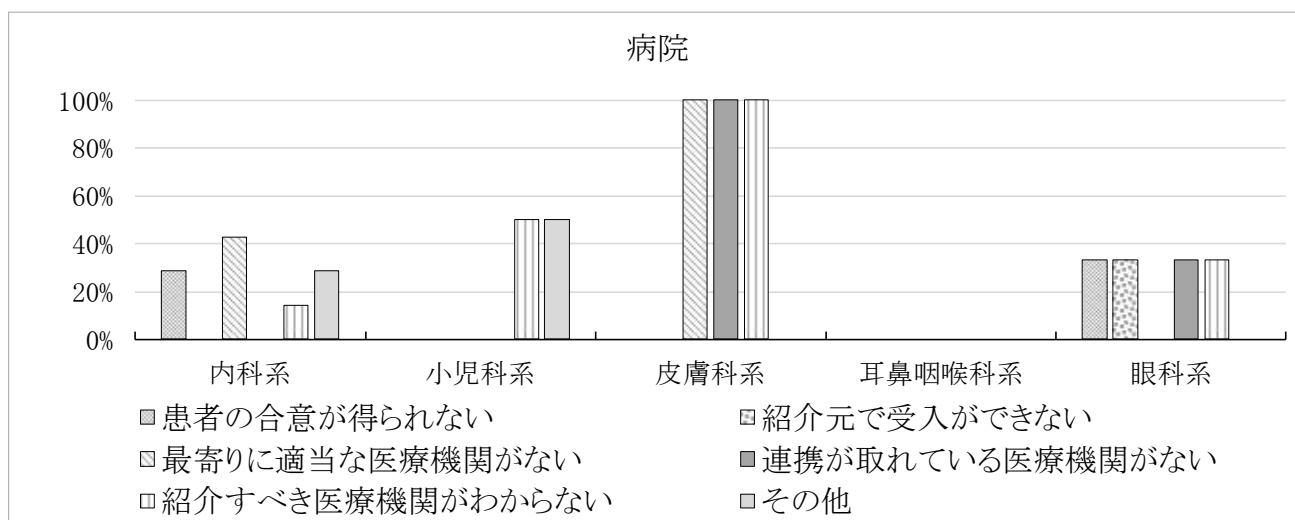
病院のうち、県指定病院は「紹介すべき医療機関がわからない」100.0%、県指定外病院は「患者の合意が得られない」「最寄りに適当な医療機関がない」27.3%の割合が高かった。



※拠点病院は、問 13 にて「なし」の回答なし

# 【診療領域別】

内科系について、病院は「最寄りに適当な医療機関がない」42.9%の割合が高かった。

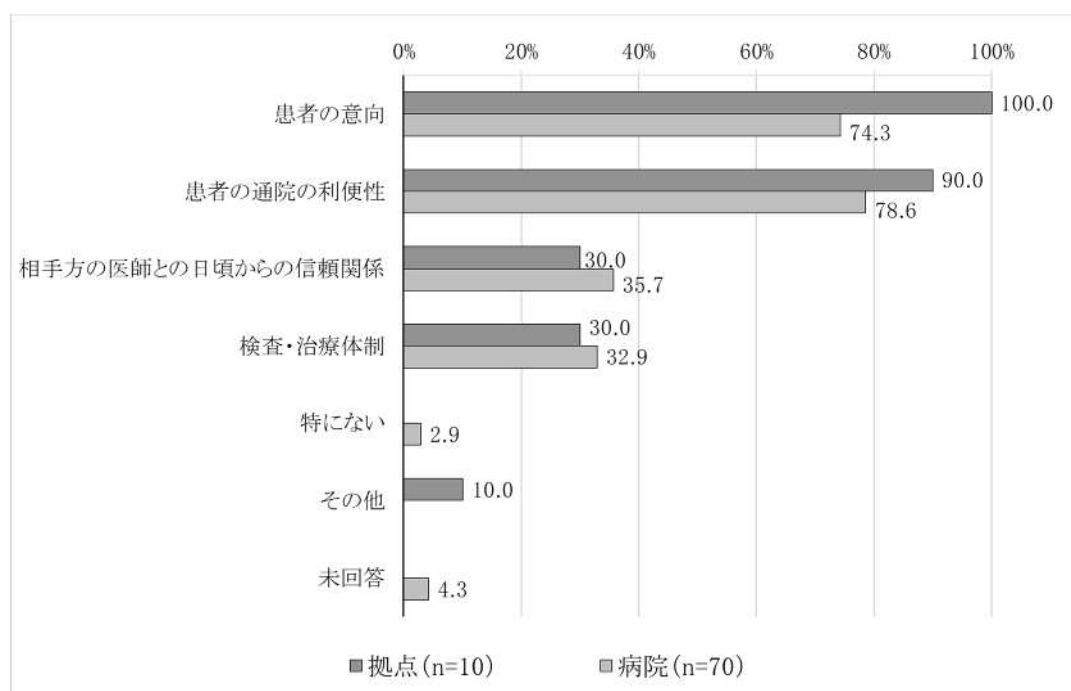


※拠点病院は、問 13 にて「なし」の回答なし

## 問 13(8) アレルギー疾患患者を逆紹介する医療機関を選択する際に重視する（したい）項目（拠点病院・病院に対する問）

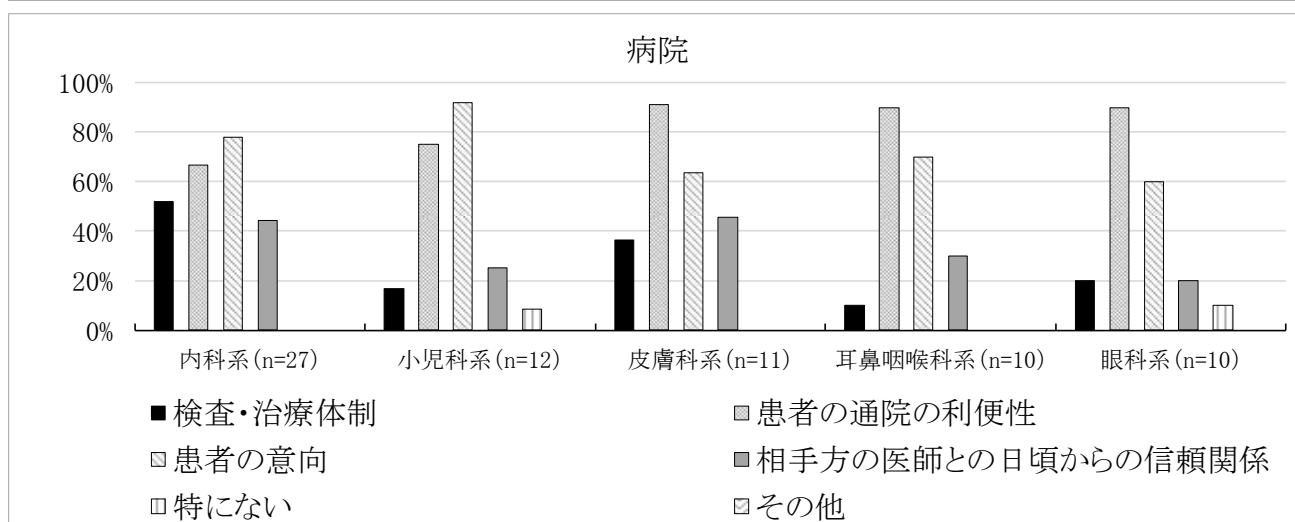
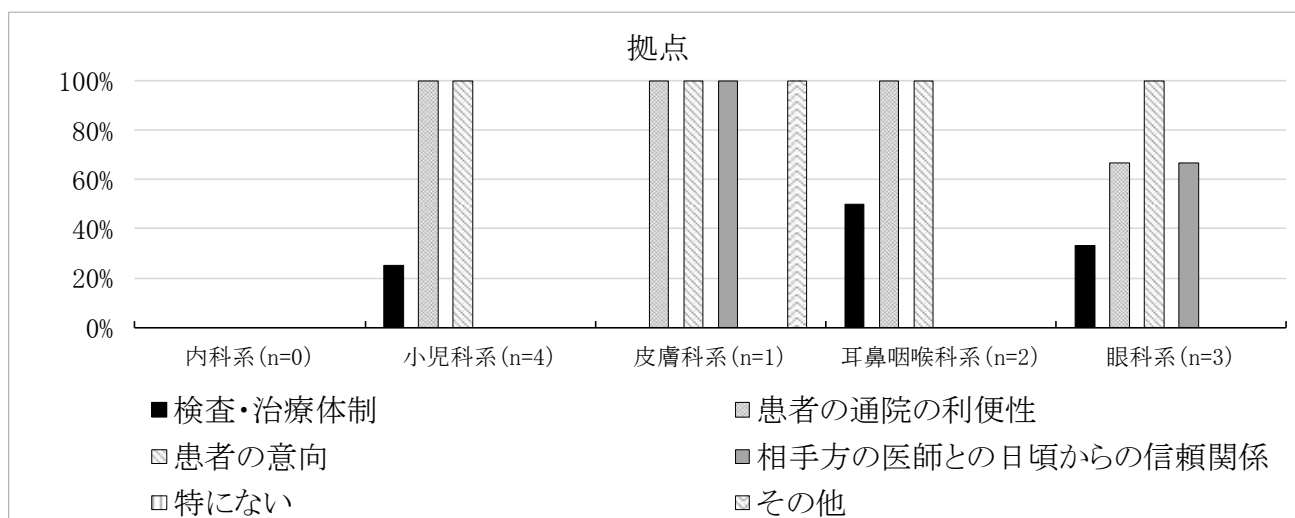
アレルギー疾患患者を逆紹介等をする医療機関を選択する際に重視する（したい）項目をご回答ください。

拠点病院は「患者の意向」100.0%、病院は「患者の通院の利便性」78.6%の割合が高かった。



## 【診療領域別】

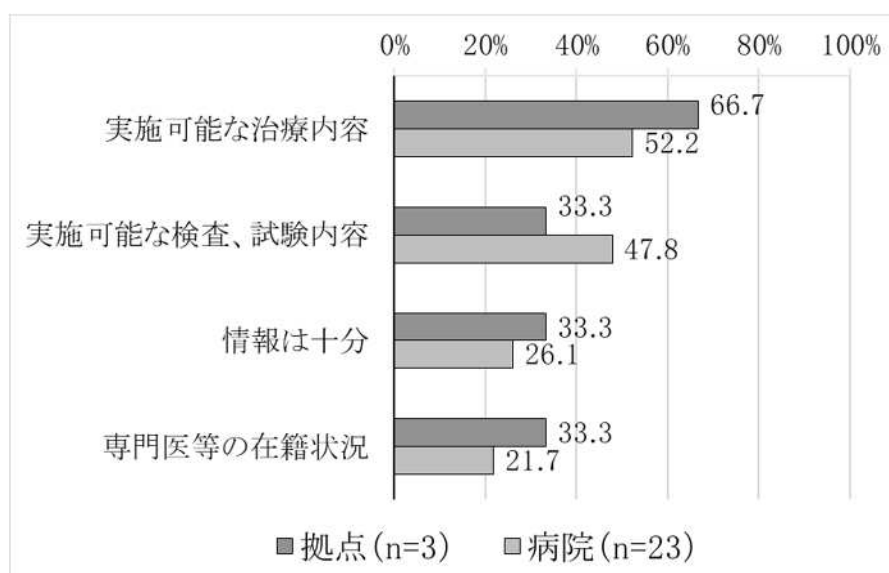
病院では、内科系について、「患者の意向」77.8%の割合が高かった。小児科系について、「患者の意向」91.7%の割合が高かった。皮膚科系について、「患者の通院の利便性」90.9%の割合が高かった。耳鼻咽喉科系について、「患者の通院の利便性」90.0%の割合が高かった。眼科系について、「患者の通院の利便性」90.0%の割合が高かった。



問 13(9) アレルギー疾患患者を逆紹介する医療機関を選択する際に情報が不十分と感じる項目（(8):  
検査・治療体制の場合）（拠点病院・病院に対する問）

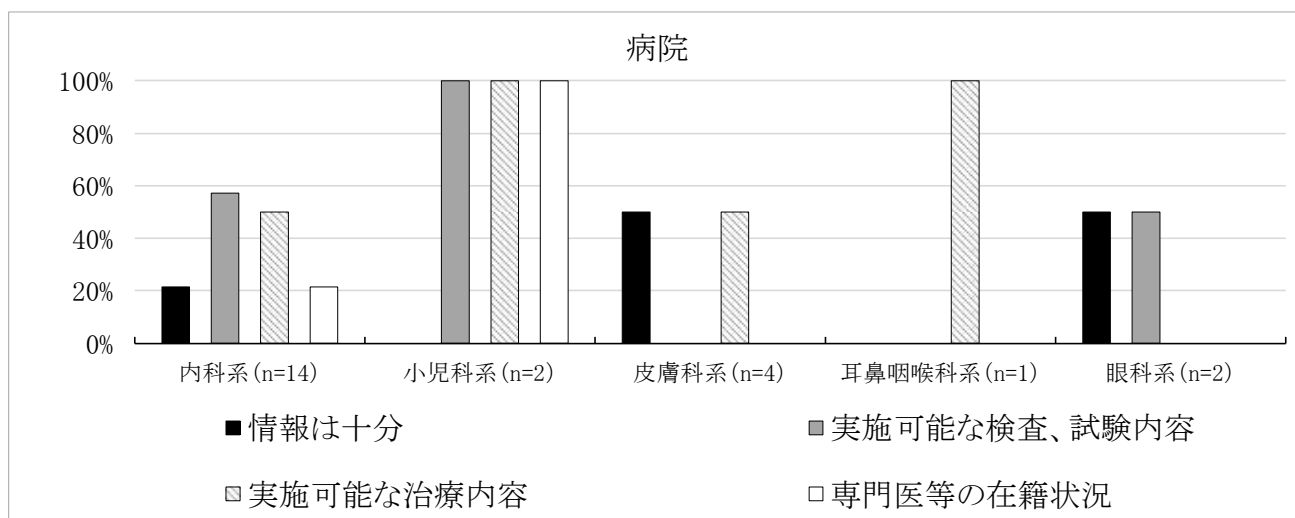
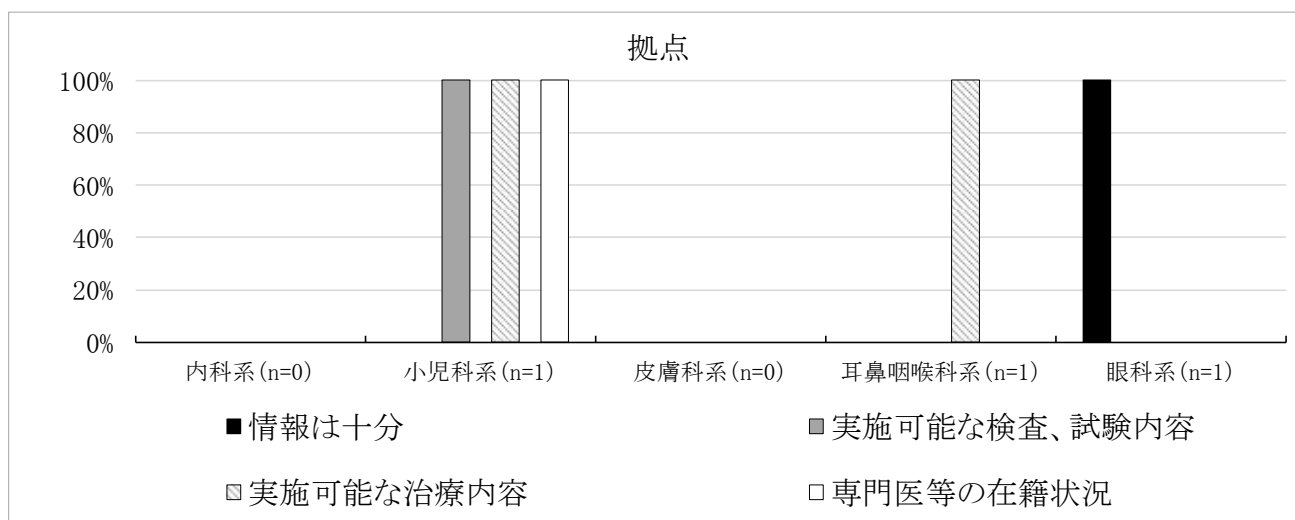
前問で「検査・治療体制」と回答された場合、逆紹介等をする医療機関を選択する際に情報が不十分と感じる項目をご回答ください。

拠点病院、病院ともに「実施可能な治療内容」の割合が高かった（拠点病院 66.7%、病院 52.2%）。



## 【診療領域別】

内科系について、病院は「実施可能な検査・試験内容」57.1%の割合が高かった。

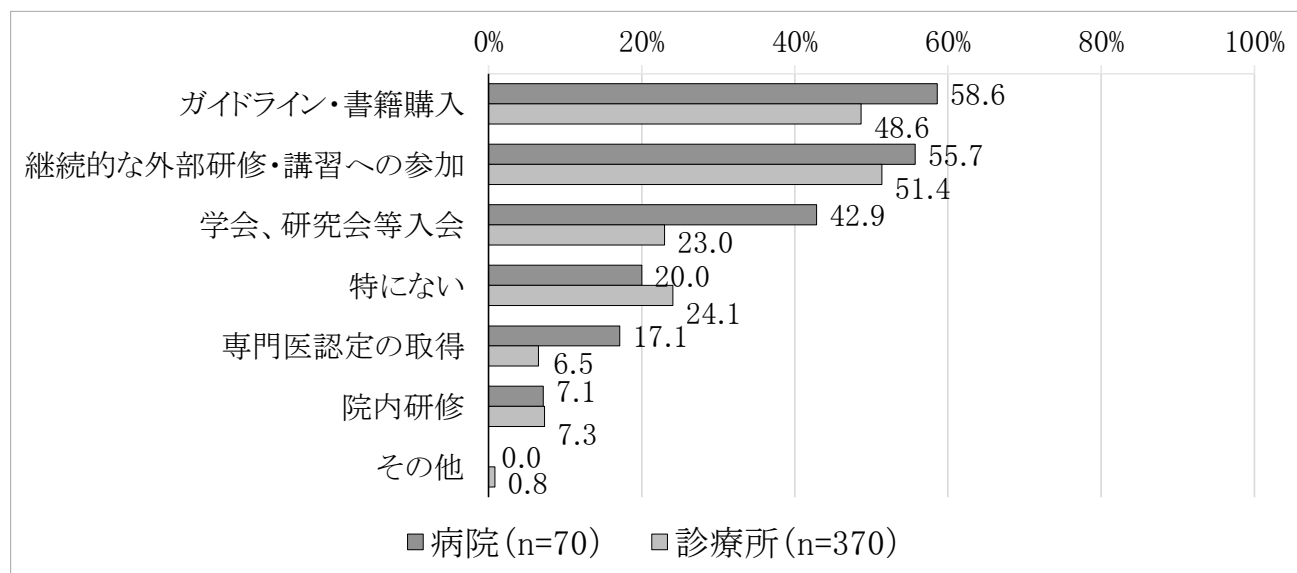


## 2.2.6 人材育成・情報提供の実施状況

### 問 14(1) 医師を対象とした、アレルギー疾患診療に関する資質向上のこれまでの取組

医師を対象としたアレルギー疾患医療に関する資質向上について、これまでに実施した取組をご回答ください。

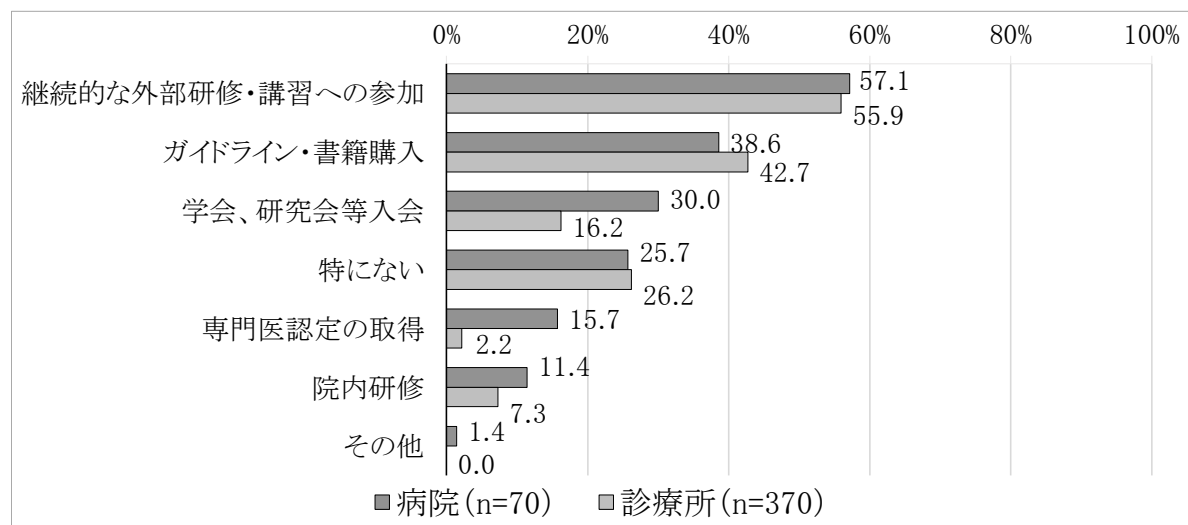
病院、診療所ともに「ガイドライン・書籍購入」「継続的な外部研修・講習への参加」の割合が高く、取組が「特にない」割合は2割程度であった。



### 問 14(2) 医師を対象とした、アレルギー疾患診療に関する資質向上の今後の取組

医師を対象としたアレルギー疾患医療に関する資質向上について、今後実施する予定（または実施したい）取組をご回答ください。

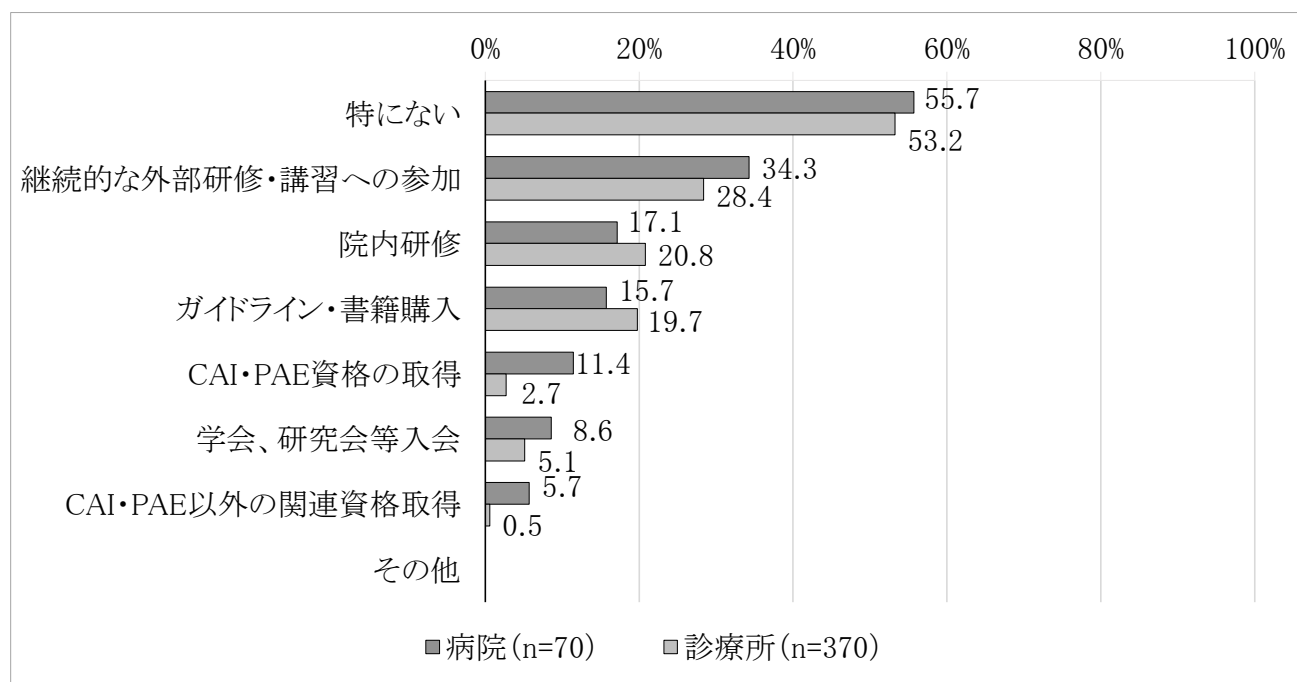
病院、診療所ともに「継続的な外部研修・講習への参加」の割合が高かった（病院 57.1%、診療所 55.9%）。



問 15(1) 医師以外の医療従事者(コメディカル)を対象とした、アレルギー疾患診療に関する資質向上のこれまでの取組

医師以外の医療従事者(コメディカル)を対象としたアレルギー疾患診療に関する資質向上について、これまでに実施した取組をご回答ください。

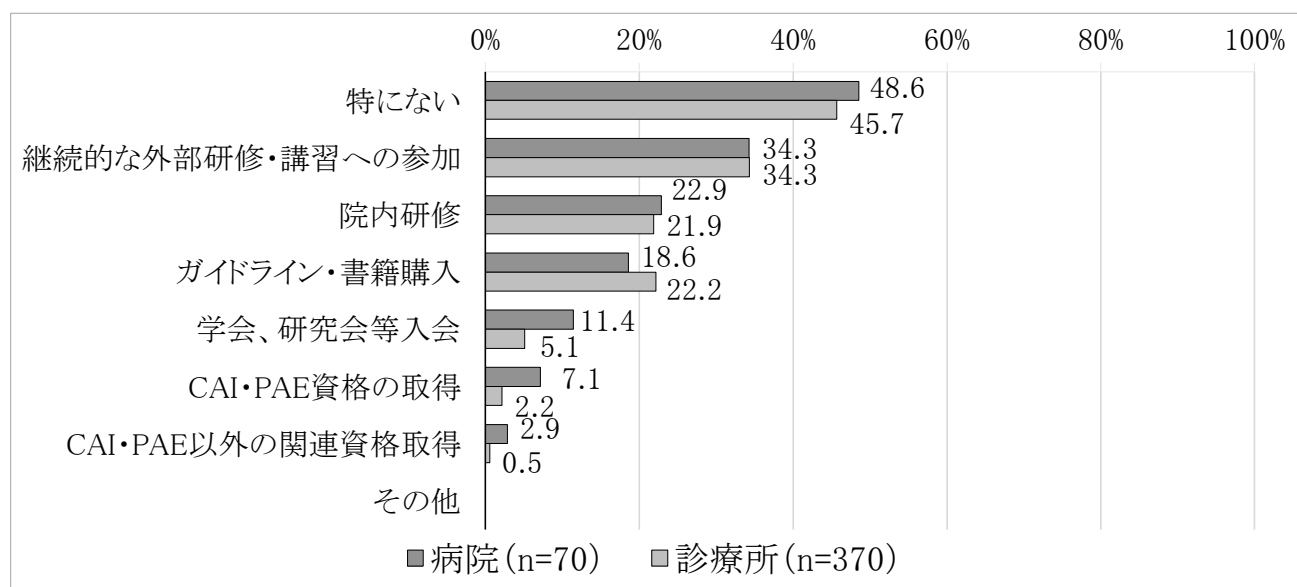
病院、診療所ともに「特にない」の割合が高く（病院 55.7%、診療所 53.2%）、次いで「継続的な外部研修・講習への参加」の割合が高かった（病院 34.3%、診療所 28.4%）。



**問 15(2) 医師以外の医療従事者(コメディカル)を対象とした、アレルギー疾患診療に関する資質向上の今後の取組**

医師以外の医療従事者(コメディカル)を対象としたアレルギー疾患診療に関する資質向上について、今後実施する予定（または実施したい）取組をご回答ください。

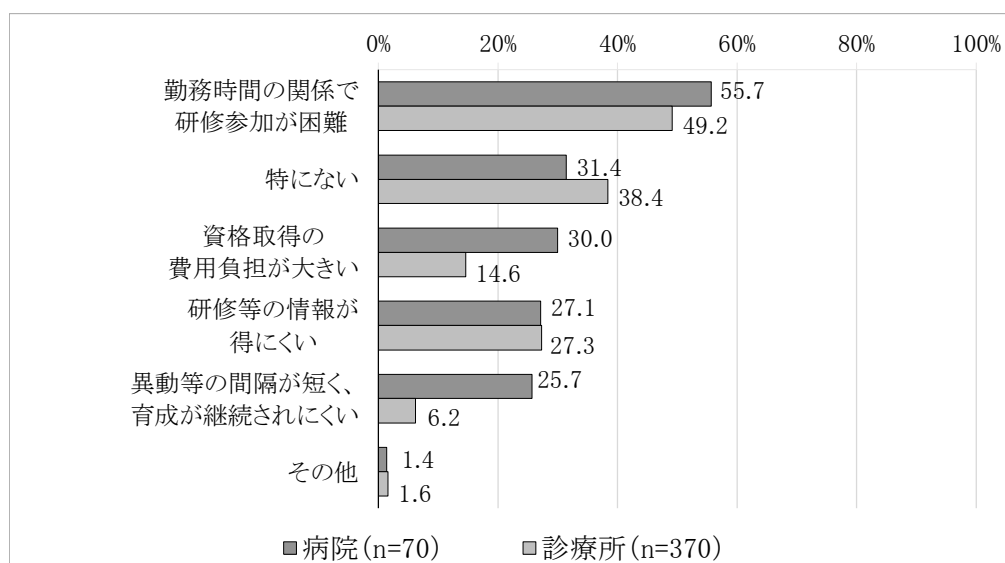
病院、診療所ともに「特にない」の割合が高く（病院 48.6%、診療所 45.7%）、次いで「継続的な外部研修・講習への参加」の割合が高かった（病院 34.3%、診療所 34.3%）。



**問 15(3) 医師以外の医療従事者(コメディカル)の人材育成における課題**

医師以外の医療従事者(コメディカル)の人材の育成で課題と感じていることについてご回答ください。

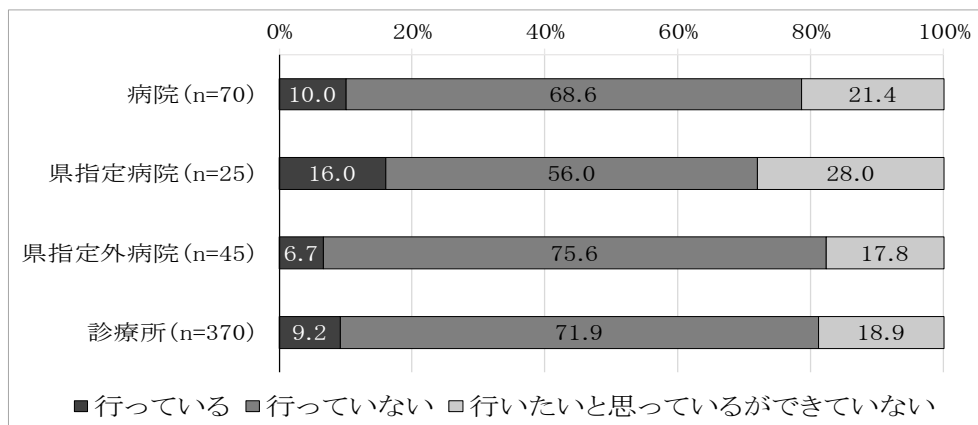
病院、診療所ともに「勤務時間の関係で研修参加が困難」の割合が高かった（病院 55.7%、診療所 49.2%）。



# 問 16(1) 患者（市民）に向けたアレルギー疾患医療に関する情報提供の実施の有無

患者（市民）に向けたアレルギー疾患医療に関する情報提供の取組を行っていますか。

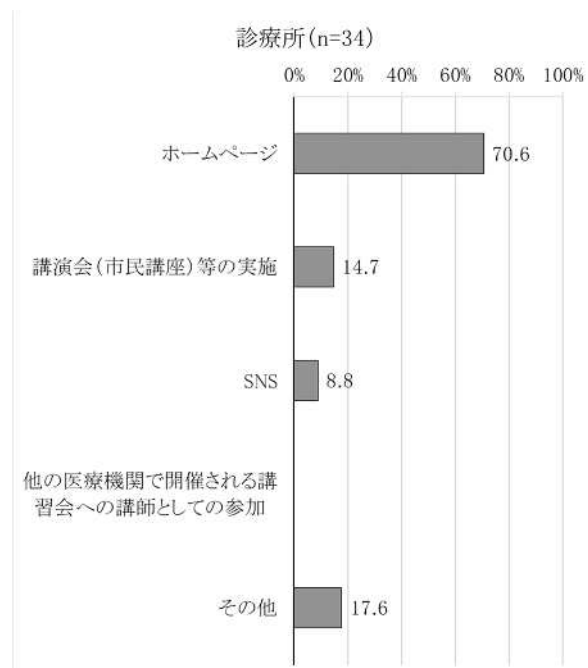
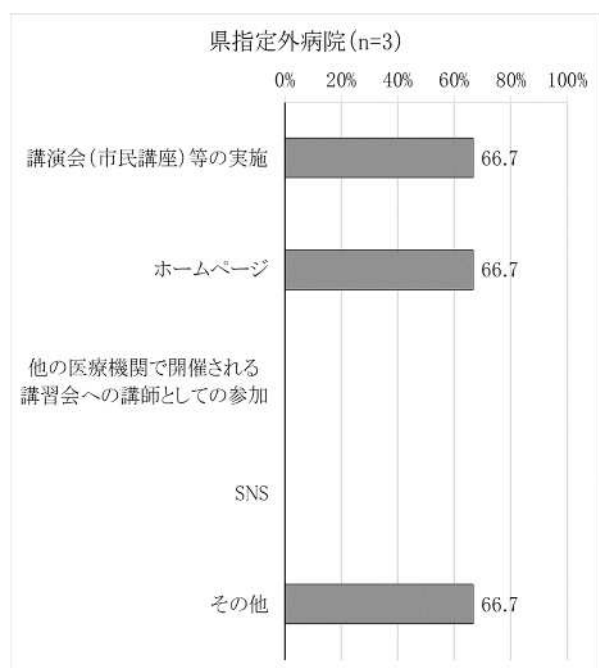
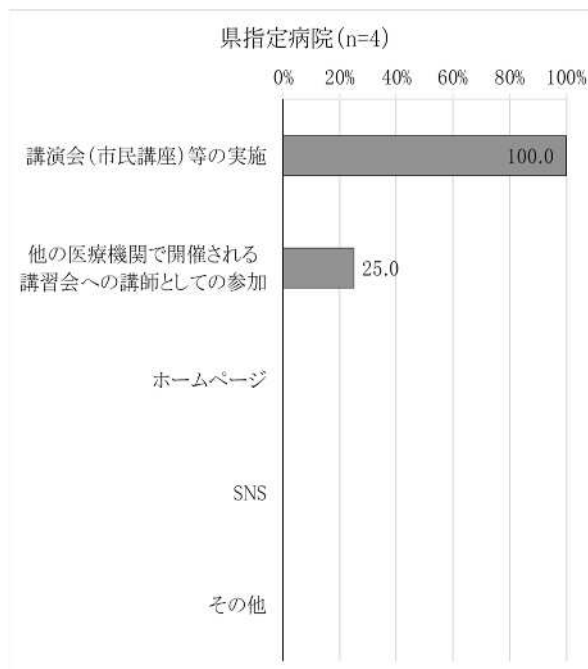
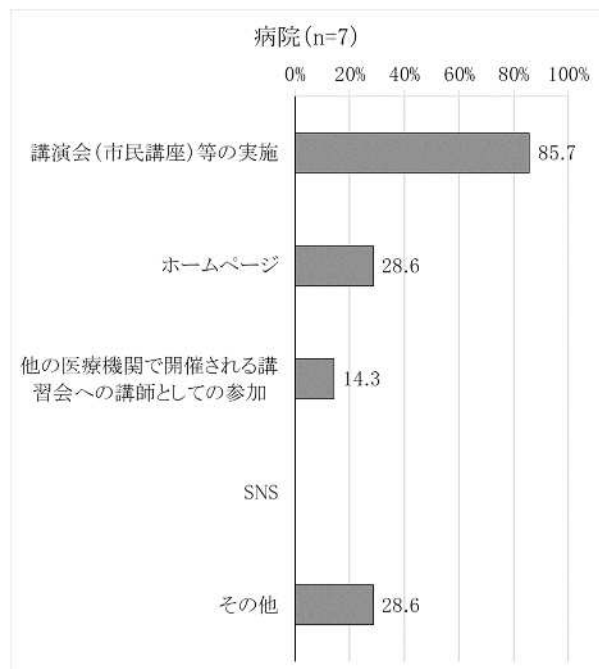
病院、診療所ともに「行っていない」の割合が高かった（病院 68.6%、診療所 71.9%）。また、病院のうち、県指定病院で「行っている」16.0%と割合が高かった。



問 16(2) (1)で「行っている」場合の具体的内容

具体的内容をご回答ください。

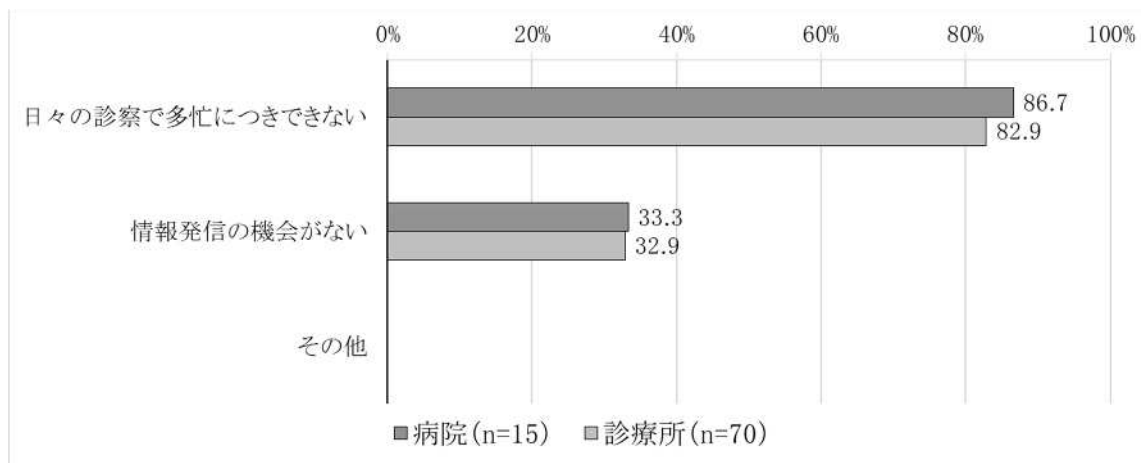
病院は「講演会（市民講座）等の実施」85.7%、診療所は「ホームページ」70.6%の割合が高かった。



問 16(3) (1)で「行いたいと思っているができていない」場合の理由

「行いたいと思っているができていない」と回答された理由をご回答ください。

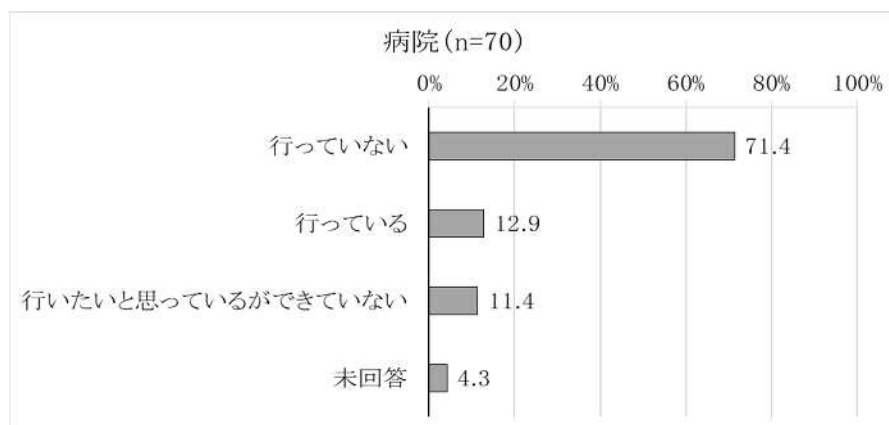
病院、診療所ともに「日々の診察で多忙につきできない」の割合が高かった（病院 86.7%、診療所 82.9%）。



問 17(1) 医療関係者に向けた講習会等の情報提供の取組（病院のみに対する問）

医療関係者に向けたアレルギー疾患医療に関する情報提供の取組を行っていますか。

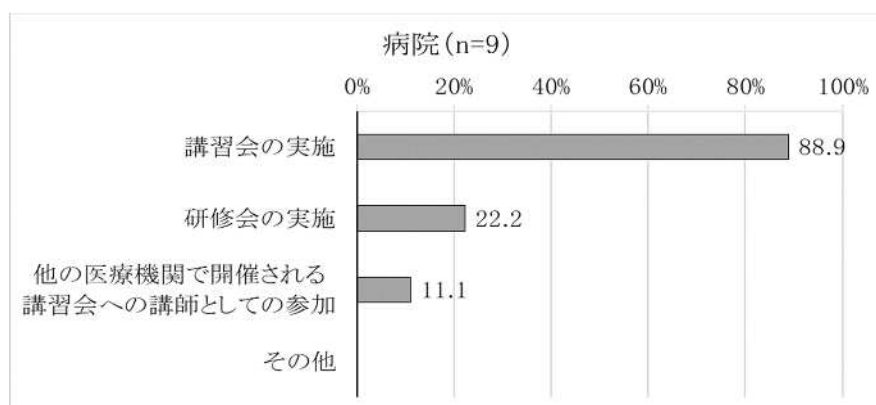
「行っていない」 71.4%の割合が高かった。



問 17(2) (1)で「行っている」場合の具体的内容（病院のみに対する問）

具体的内容をご回答ください。

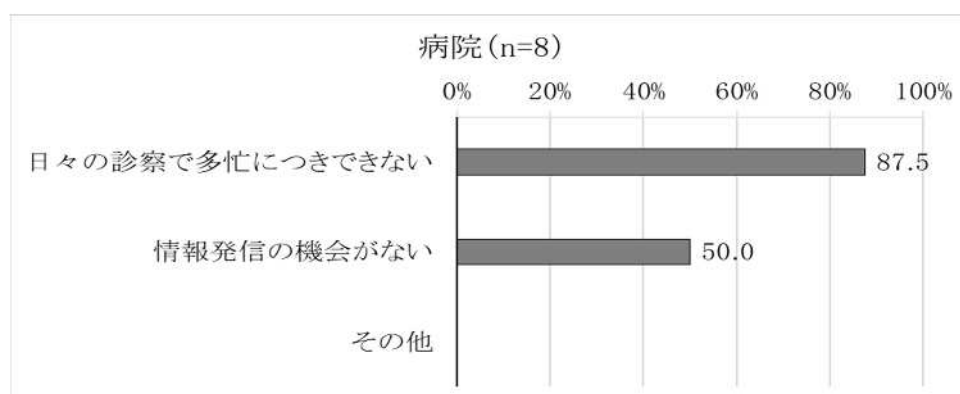
「講習会の実施」 88.9%の割合が高かった。



問 17(3) (1)で「行いたいと思っているができていない」の場合の理由（病院のみに対する問）

「行いたいと思っているができていない」と回答された理由をご回答ください。

「日々の診察で多忙につきできない」 87.5%の割合が高かった。

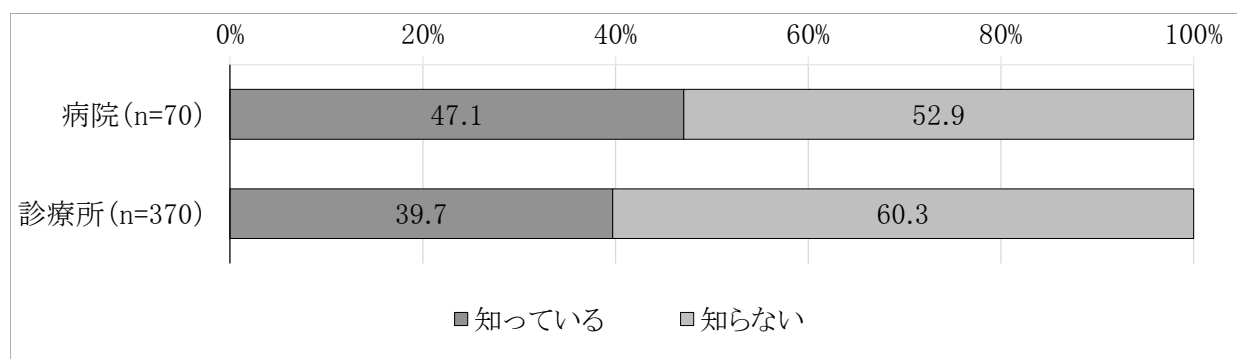


## 2.2.7 川崎市からの関連情報の発信

### 問 18 神奈川県が指定している病院（アレルギー疾患医療拠点病院、アレルギー疾患専門医療機関）の認知度

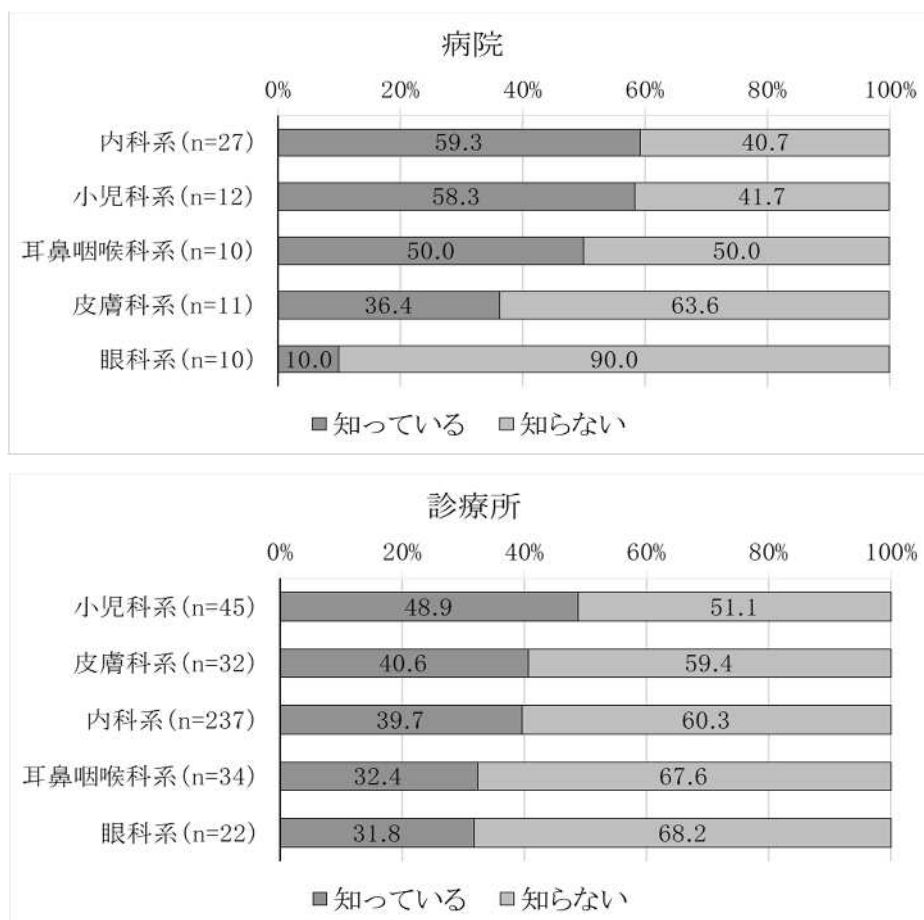
アレルギー疾患の専門的な医療を提供する医療機関として、県が指定している神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院や川崎市内の県指定病院をご存知ですか。

神奈川県が指定している病院を「知っている」の割合は、病院 47.1%、診療所 39.7%であった。



#### 【診療領域別】

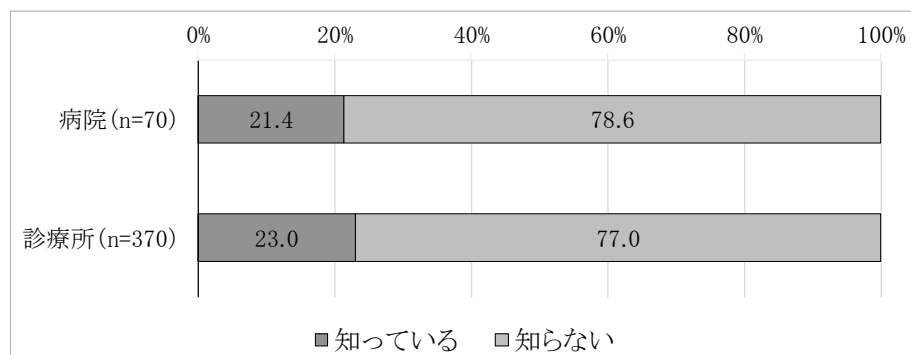
病院は「内科系」「小児科系」で知っている割合が高かった（内科系 59.3%、小児科系 58.3%）。診療所は知っている割合が3～4割であった。



# 問 19(1) 開設した「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」の認知度

こちらのポータルサイトをご存じですか。

病院、診療所ともに「知っている」の割合は2割程度だった（病院 21.4%、診療所 23.0%）。



## 【「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」の認知状況と拠点病院等の認知状況の関連性】

「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」の認知状況と拠点病院等の認知状況の関連性について、クロス集計及び Fisher の直接確率検定を行ったところ、病院、診療所ともに、関連性に有意差がみられ、「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」を知っている場合の方が知らない場合に比べて、拠点病院等を知っている傾向にあった。

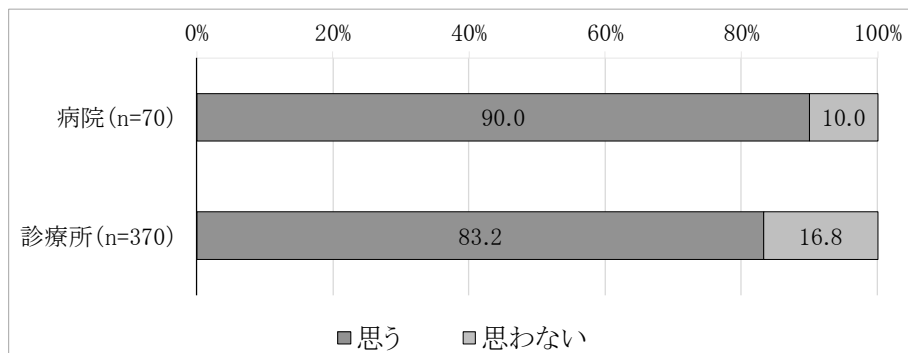
|     |                                        | 拠点・指定病院<br>を知っている | 拠点・指定病院<br>を知らない | P 値     |
|-----|----------------------------------------|-------------------|------------------|---------|
| 病院  | 「川崎市アレルギー疾患関連ポータル<br>サイト」を知っている (n=15) | 12                | 3                | 0.0044  |
|     | 「川崎市アレルギー疾患関連ポータル<br>サイト」を知らない (n=55)  | 21                | 34               |         |
| 診療所 | 「川崎市アレルギー疾患関連ポータル<br>サイト」を知っている (n=85) | 72                | 13               | P<0.001 |
|     | 「川崎市アレルギー疾患関連ポータル<br>サイト」を知らない (n=285) | 75                | 210              |         |

※ P 値とは統計学における仮説の確からしさを判定する指標で、一般的には有意水準（有意差を判断するための基準）0.05 を下回った時、仮説が正しくないと考ええる。本調査では、「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイトを知っている」と「拠点・指定病院を知っている」に関連性がないとの仮説をたてて検定したところ、病院、診療所ともに P 値が 0.05 を下回っているため、関連性があると考えられる。

問 19(2) 川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」が役に立つかどうか

本サイトが患者や市民にとって役に立つと思いますか。

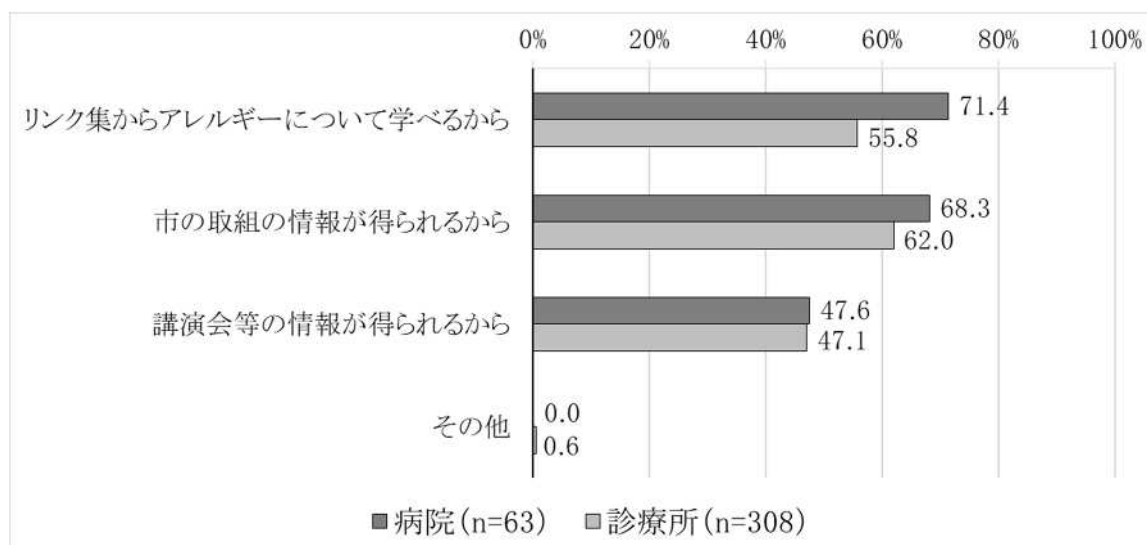
病院、診療所ともに「思う」の割合が高かった（病院 90.0%、診療所 83.2%）。



問 19(3) (2)で「思う」場合の理由

「思う」と回答された理由をご回答ください。

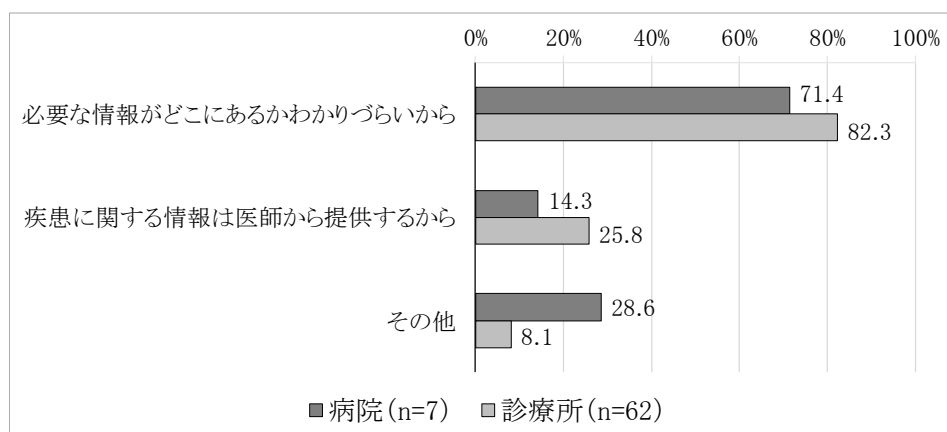
病院は「リンク集からアレルギーについて学べるから」71.4%、診療所は「市の取組の情報が得られるから」62.0%の割合が高かった。



#### 問 19(4) (2)で「思わない」場合の理由

「思わない」と回答された理由をご回答ください。

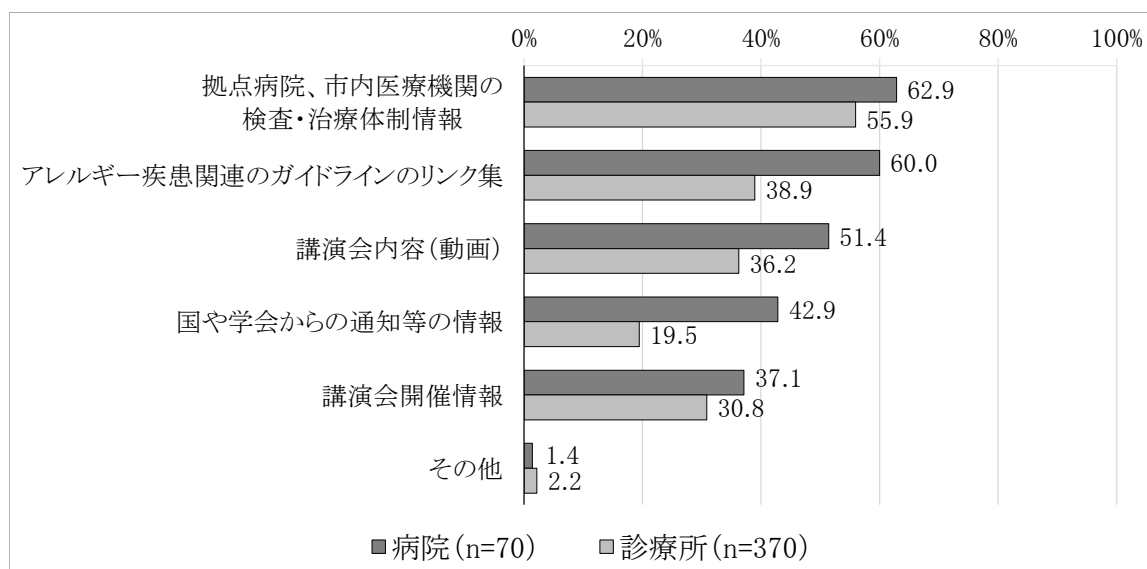
病院、診療所ともに「必要な情報がどこにあるかわかりづらいから」の割合が高かった（病院 71.4%、診療所 82.3%）。



#### 問 19(5) ポータルサイトにどのような情報があると良いと思うか

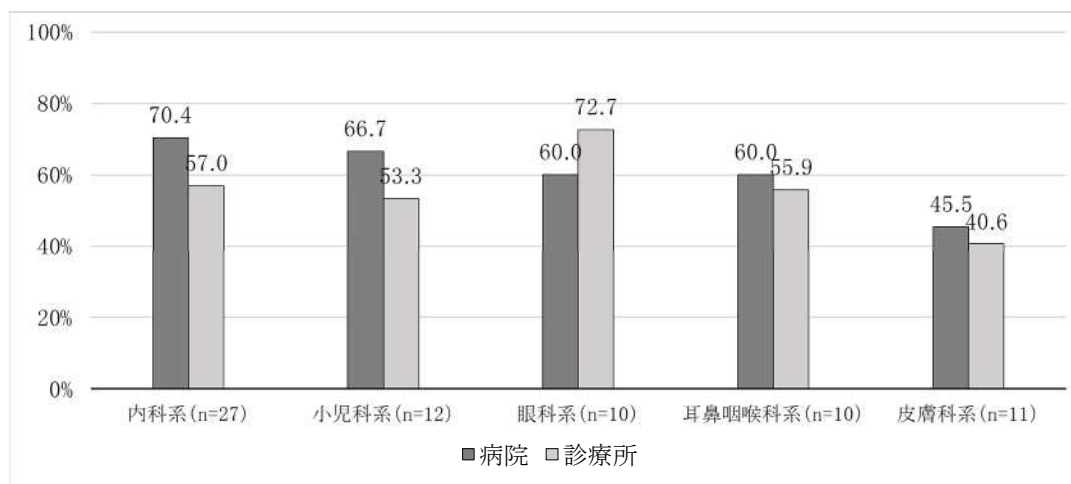
このポータルサイトにほかにどのような情報があるとよいと思いますか。

病院、診療所ともに「拠点病院、市内医療機関の検査・治療体制情報」の割合が高かった（病院 62.9%、診療所 55.9%）。



## 【診療領域別】

最も割合が高かった「拠点病院、市内医療機関の検査・治療体制情報」の診療領域別の回答数に対する割合は、病院は「内科系」70.4%、診療所は「眼科系」72.7%で割合が高かった。

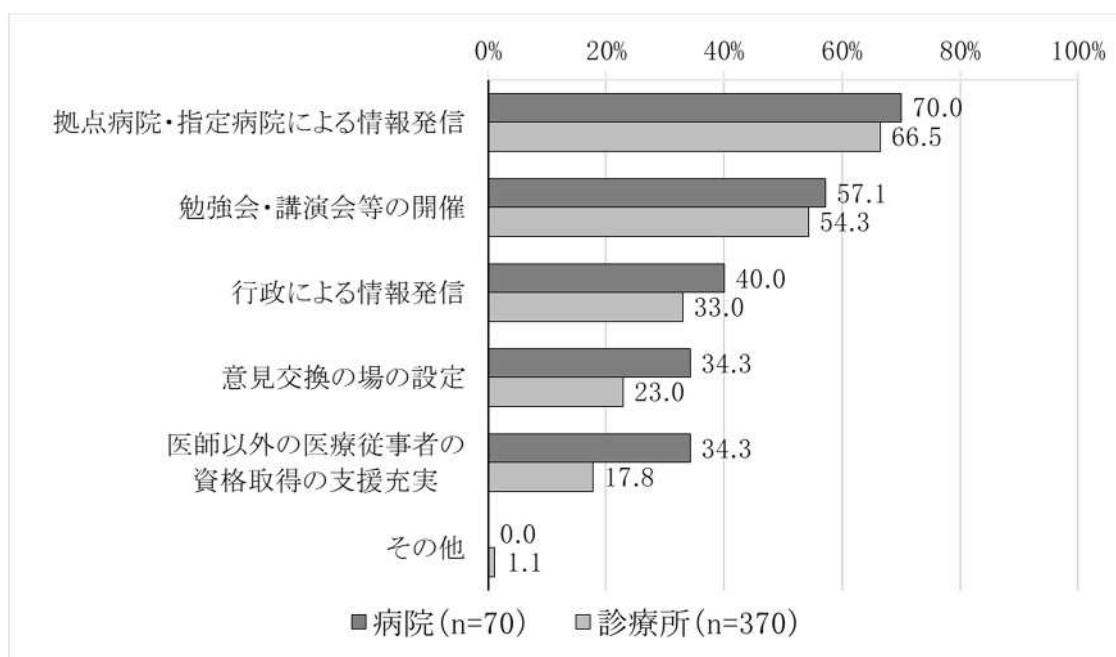


## 2.2.8 その他

### 問 20 地域における医療提供体制（診療連携体制等）の構築のために必要なこと

地域において、医療提供体制（診療連携体制等）の構築のためにどのようなことが必要だと思いますか。

病院、診療所ともに「拠点病院・指定病院による情報発信」の割合が高かった（病院 70.0%、診療所 66.5%）。



## 2.3 意見聴取会で共有した医療提供体制の傾向

1.2 オのとおり実施した第2回有識者意見聴取会では、2.2 で示した調査結果を元に、以下の内容が傾向として捉えられることを共有した。

### （1）検査体制・標準治療の実施状況

実施可能な検査・試験及び治療の内容については、病院、診療所ともに項目ごとの実施割合の多寡は東京都での調査<sup>1</sup>と概ね同様の傾向であった。同時期に実施した市民向け調査<sup>2</sup>において、患者が現在の通院している機関が主に診療所であり、症状悪化時にも通院機関で対処されていることが多いことから診療所での体制はある程度整っている状況とみられる。

標準治療の実施状況として、病院、診療所ともに高い割合でガイドラインを参照した診療がされていることがわかった。

### （2）医療機関相互の連携

紹介が実際にされている割合は病院、診療所ともに8割を超え（紹介する患者「なし」の回答を除く割合）、必要に応じて紹介が実施されていることがうかがえる。逆紹介については、病院のうち県指定病院では9割以上で実施され、県指定外病院でも7割以上が実施されていることがわかった。紹介する医療機関を選択する際に重視したい項目は「検査・治療体制」、情報が不十分と感じる項目は「実施可能な検査・試験内容」が最も高かった。

### （3）人材育成

アレルギー疾患診療に関する資質向上の取組について、医師に対する取組の実施が「特にない」回答は病院・診療所ともに2割程度にとどまり、実施されている取組としては「継続的な外部研修・講習への参加」や「ガイドライン・書籍購入」の割合が高かった。コメディカル対象の取組は医師に対する取り組みとくらべると実施割合は低いものの、3割の回答で「継続的な外部研修・講習への参加」が実施されていた。

### （4）情報提供

開設した「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」の認知度は、病院、診療所ともに2割程度にとどまったが、ポータルサイトの認知の有無と拠点病院等の認知の有無の関連性に有意差がみられた。「ポータルサイトにあるとよい情報」としては、「拠点病院、市内医療機関の検査・治療体制情報」に6割を超える回答があり、（2）で述べた医療機関間の連携に通ずる結果であった。また、地域における医療提供体制構築のために必要なこととして、病院、診療所ともに「拠点病院・指定病院による情報発信」が7割程度の回答で最も高かった。

---

<sup>1</sup> 東京都アレルギー疾患医療実態調査（令和2年度実施）

<sup>2</sup> 川崎市アレルギー疾患患者等実態調査（令和5年度実施）

## 2.4 意見聴取会における有識者からの主な意見

第2回有識者意見聴取会で挙げた主な意見を以下に記す。

### (1) 検査体制・標準治療の実施状況

食物経口負荷試験の実施割合が3割程度と低い、食物アレルギーの診断は「総 IgE 値・抗原特異的 IgE 抗体検査またはプリックテスト」に加えて「食物経口負荷試験」の2つを実施するのが標準的な方法である。同時に、食物経口負荷試験により摂取可能な範囲を評価し、栄養食事指導へつなげることも求められる。そのため、「食物経口負荷試験」を実施する割合が増えてくることが望ましいが、診療所では難しい状況もある。

ガイドラインに基づいた知識は普及しているが、前述の食物アレルギーの診断のように診療体制が整っていない状況もあるとみられる。

### (2) 医療機関相互の連携

アレルギー疾患患者は、例えばアトピー性皮膚炎では軽症が7～8割、中等症が2～3割、重症が1～2%であるが、中等症以上であれば市内の病院に紹介、重症であれば国や県の拠点病院に紹介されることが望ましい。中等症を診ている病院から紹介可能な機関として「(国) 中心拠点病院」が回答されている割合が3割と高い。診療所から紹介可能な機関として「市内病院(県指定病院)」が7割以上あるが、連携の強化としては、この割合がさらに増えることが望ましい。診療領域内訳では特に小児科でよく連携している印象がある。

アレルギーは横断的な疾患であり、特に成人では、1つのクリニックで、ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎など複数のアレルギー疾患を診ることができないことが多いため、逆紹介が難しい。ただし、現状としては、逆紹介の状況について、想定していたより実施されている。

連携の促進のために、検査・治療体制の情報の不足を補う必要性があり、医療機関のホームページの充実が一つの方法である一方、費用面の課題がある。

### (3) 人材育成

東京都の調査と比較すると、川崎市内の医療機関でのアレルギー疾患診療に関する資質向上の取組の実施率が高く「継続的な外部の講習・研修への参加」の割合が高いことは評価できる。理由としては、東京都に比べれば規模の違いにより川崎市内の方が各医療機関に情報が届きやすいことが考えられる。一方で「勤務時間の関係で研修参加が困難」であること(コメディカルの人材育成における課題として高い割合で回答された項目)が課題とみられる。

### (4) 情報提供

「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイトの認知状況と拠点病院等の認知状況の関連性」は重要な結果(ポータルサイトを知っている場合の方が拠点病院等を知っている)であり、ポータルサイトの内容の充実や周知が期待される。

## 参考資料

### (1) 調査協力依頼文書（拠点病院向け）

住所：

施設名：



## 川崎市アレルギー疾患医療実態調査への御協力のお願い

### 1. 調査目的

本市では、アレルギー疾患対策基本法や基本指針に基づき、幅広いアレルギー疾患対策を進めていくため、令和5年6月に「川崎市アレルギー疾患対策推進方針」を策定し、各取組を進めています。本調査は、医療提供体制の構築に向けた各取組を進めていくため、医療機関の診療状況、アレルギー疾患患者の受診動向等、医療の実態把握を行い、今後の本市における総合的なアレルギー疾患対策に活用することを目的としています。

### 2. 調査対象機関

- ① 川崎市内のアレルギー疾患医療に関わる主な診療科を標榜する病院・診療所
- ② 中心拠点病院・神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院

### 3. 調査内容

他の医療機関から紹介されるアレルギー疾患患者（川崎市民）の受け入れ状況や逆紹介等についてお尋ねします。

※川崎市内の病院、診療所へは、診療状況や患者指導状況、アレルギー疾患患者の受診動向等、本市における医療の実態把握に向けた調査内容で同調査を行っております。

#### ＜調査内容の使途＞

本調査は、医療の実態把握を目的としており、川崎市ホームページ「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」にて結果を公表いたします。個別の医療機関情報等は公表いたしません。

### 4. 回答方法

下記のサイトにアクセスし、ID入力して、【令和6年1月23日（火）まで】に御回答ください。具体的な回答手順は裏面を御覧ください。回答にかかる時間は**5～7分程度（御回答いただく内容によります）**です。以下のURLから回答フォームに進むこともできます。

二次元コード



URL : <https://logoform.jp/form/FUQz/437530>

ID

## <オンライン回答手順>

I. スマートフォンでは表面の二次元コードを読み、PC では表面の URL を入力し「川崎市アレルギー疾患医療実態調査」のログイン画面にアクセスします。

### II. 「ログイン」画面

個人情報の取り扱いを御確認のうえチェックいただき、表面に記載の ID を入力し、**「→次の画面へ進む」** をクリックします。

### III. 「各設問」画面

表示される設問に回答を入力し、**「→次の画面へ進む」** をクリックします。

※ **「入力内容を一時保存する」** で回答を保存することが可能です。

### IV. 「回答提出」画面

アンケートの最後に出てくる **「→確認画面へ進む」** をクリックします。その後、画面確認を行った上で、最後に **「→送信」** をクリックし、回答完了です。

## <川崎市のアレルギー疾患対策について>

川崎市のアレルギー疾患対策に関するチラシを同封いたしましたので御覧ください。

### ●川崎市のアレルギー疾患対策について

(お問い合わせ先)

川崎市健康福祉局保健医療政策部(アレルギー疾患対策担当)

TEL 044-200-1315

Email 40kankyo@city.kawasaki.jp

## (2) 調査協力依頼文書（病院・診療所向け）



### 川崎市アレルギー疾患医療実態調査への御協力をお願い

#### 1. 調査目的

本調査は、医療提供体制の構築に向けた各取組を進めていくため、医療機関の診療状況、アレルギー疾患患者の受診動向等、医療の実態把握を行い、今後の本市における総合的なアレルギー疾患対策に活用することを目的としています。

#### 2. 調査対象機関

- ① 川崎市内のアレルギー疾患医療に関わる主な診療科を標榜する病院・診療所
- ② 中心拠点病院・神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院

#### 3. 調査内容

- ① 基礎情報（所属医師数、主たる診療領域等）
- ② アレルギー疾患の診療状況
- ③ アレルギー疾患の患者指導状況
- ④ 患者の受診動向（他医療機関への紹介・逆紹介等）
- ⑤ 人材育成・情報提供の実施状況
- ⑥ 川崎市からの関連情報の発信

##### <調査内容の用途>

本調査は、医療の実態把握を目的としており、川崎市ホームページ「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」にて結果を公表いたします。個別の医療機関情報等は公表いたしません。

#### 4. 回答方法

下記のサイトにアクセスし、ID 入力して、【令和6年1月23日（火）まで】に御回答ください。具体的な回答手順は裏面を御覧ください。回答にかかる時間は7～20分程度（御回答いただく内容によります）です。以下の URL 及び川崎市HPの検索から回答フォームに進むこともできます。

二次元コード



URL : <https://logoform.jp/form/FUQz/313658>

川崎市HPから検索 : 「アレルギー疾患医療実態調査」

|    |  |
|----|--|
| ID |  |
|----|--|

## <オンライン回答手順>

I. スマートフォンでは表面の二次元コードを読み、PC では表面の URL または検索ワードを入力し「川崎市アレルギー疾患医療実態調査」のログイン画面にアクセスします。

### II. 「ログイン」画面

個人情報の取り扱いを御確認のうえチェックいただき、表面に記載の ID を入力し、**「→次の画面へ進む」**をクリックします。

### III. 「各設問」画面

表示される設問に回答を入力し、**「→次の画面へ進む」**をクリックします。

※**「入力内容を一時保存する」**で回答を保存することが可能です。

### IV. 「回答提出」画面

アンケートの最後に出てくる**「→確認画面へ進む」**をクリックします。その後、画面確認を行った上で、最後に**「→送信」**をクリックし、回答完了です。

## <川崎市のアレルギー疾患対策について>

川崎市のアレルギー疾患対策に関するチラシを同封いたしましたのでご覧ください。

### ●川崎市のアレルギー疾患対策について

(お問い合わせ先)

川崎市健康福祉局保健医療政策部(アレルギー疾患対策担当)

TEL 044-200-1315

Email 40kankyo@city.kawasaki.jp

(3) 方針概要チラシ（川崎市のアレルギー疾患対策について）

## 川崎市のアレルギー疾患対策について

川崎市では、総合的なアレルギー疾患対策に向けて、令和5年6月に策定した「川崎市アレルギー疾患対策推進方針」を踏まえ、4つの方向性で取組を進めています。

**方向性Ⅰ：正しい知識の普及・啓発及び発症・重症化予防等のための取組**【啓発・相談等】

**方向性Ⅱ：患者の状況に応じた適切な医療提供体制の整備**【医療提供体制整備】

**方向性Ⅲ：患者の生活の質の維持・向上を支援する環境づくりの推進**【環境づくり】

**方向性Ⅳ：患者に寄り添い、支援するための人材育成**【人材育成】

川崎市アレルギー疾患対策推進方針（体系図）



各取組の情報や方針の詳細については

「川崎市アレルギー疾患関連ポータルサイト」

をご覧ください

<https://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000142393.html>



川崎市 アレルギー

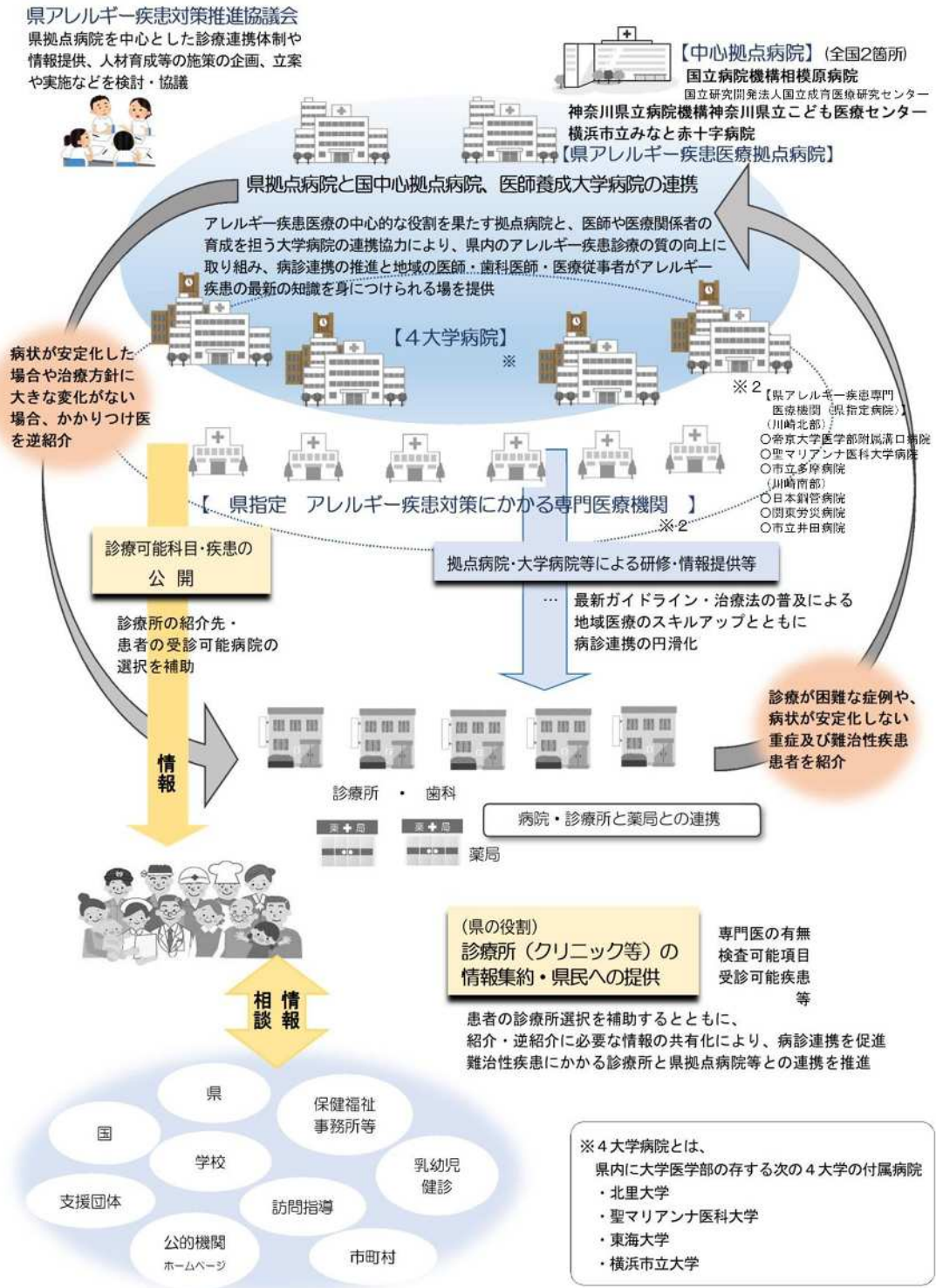
検索

川崎市  
健康福祉局 保健医療政策部  
アレルギー疾患対策担当

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地  
TEL. 044-200-1315  
Mail 40kankyo@city.kawasaki.jp

令和5年11月

## アレルギー疾患医療における連携のイメージ



出典：神奈川県アレルギー疾患対策推進計画（令和5年度～令和9年度）一部加筆

令和5年11月

(4) 協力依頼はがき（拠点病院向け）



**川崎市アレルギー疾患医療実態調査への御協力について**

**(お礼とお願い)**

令和6年1月12日

時下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

皆様には、日頃から市政に対して御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、12月中旬に本市より御案内しました「川崎市アレルギー疾患医療実態調査」について、まだ御回答いただいていないようでしたら、【1月23日（火）まで】に以下のQRコードまたはURLから、御回答いただけますようお願いいたします。

二次元コード



URL : <https://logoform.jp/form/FUQz/437530>

ID

なお、本状と行き違いで、すでに御回答いただいておりますら、御容赦ください。

(お問い合わせ先)

川崎市健康福祉局保健医療政策部(アレルギー疾患対策担当)

TEL 044-200-1315

Email [40kankyo@city.kawasaki.jp](mailto:40kankyo@city.kawasaki.jp)

(5) 協力依頼はがき (病院・診療所向け)



**川崎市アレルギー疾患医療実態調査への御協力について**  
**(お礼とお願い)**

令和6年1月12日

時下ますます御清栄のこととお慶び申し上げます。

皆様には、日頃から市政に対して御理解と御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、12月中旬に本市より御案内しました「川崎市アレルギー疾患医療実態調査」について、まだ御回答いただいていないようでしたら、【1月23日(火)まで】に以下のQRコードまたはURL及び検索ワードで回答ページを検索いただき、御回答いただけますよう、お願いいたします。

二次元コード



URL : <https://logoform.jp/form/FUQz/313658>

川崎市HPから検索 : 「アレルギー疾患医療実態調査」

ID

なお、本状と行き違いで、すでに御回答いただいておりますら、御容赦ください。

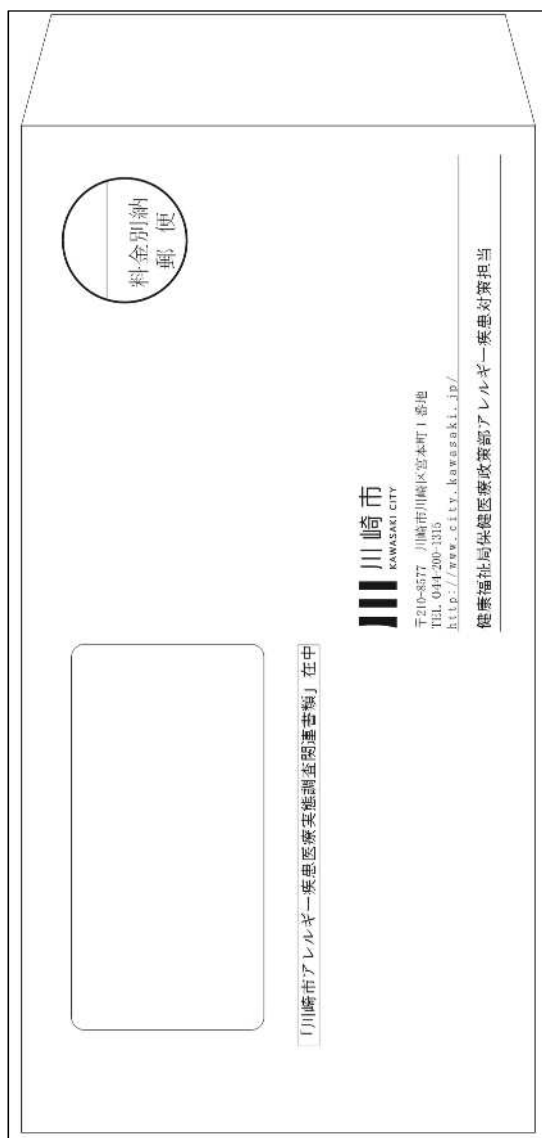
(お問い合わせ先)

川崎市健康福祉局保健医療政策部(アレルギー疾患対策担当)

TEL 044-200-1315

Email [40kankyo@city.kawasaki.jp](mailto:40kankyo@city.kawasaki.jp)

(6) 発送用封筒



(7) オンライン回答フォーム（拠点病院向け）

☆ フォーム詳細 - 【拠点病院対象】川崎市アレルギー疾患医療調査

現在公開中

質問項目設定

基本情報設定

高度な設定

権限設定

動作確認

印刷

フォームにご入力いただく個人情報の取り扱いについて、ご確認いただけますようお願い申し上げます。

項目ID: 1

調査にご協力いただきありがとうございます。

本調査は、医療従事者の業務に向けた各取組を進めていくため、医療機関の診療状況、アレルギー疾患患者の受診動向等、医療の実態把握を行い、今後の本市における総合的なアレルギー疾患対策に活用することを目的としています。回答にかかる時間は5〜7分程度（御回答いただく内容により異なります）。ご回答の程、よろしくお願いたします。

個人情報の取り扱い

御提供いただいた個人情報は、上記の利用目的のみに使用し、目的外には使用いたしません。

本システムの利用に際しては、川崎市産業振興電子申請サービス利用規約（<https://bogofarm.jp/terms/EOZ/24>）及び川崎市簡易版電子申請サービス、プライバシーポリシー（<https://bogofarm.jp/privacy/EOZ/12>）をお読みいただき、同意の上、ご利用ください。

Q1. 本調査について個人情報の取り扱いに御同意いただける場合はチェックをお願いします。

必須

項目ID: 91

☐ 同意します

Q2. 調査依頼文に記載のIDを半角数字で入力（選択）してください。

ハイフン前の2桁

項目ID: 199

☐ 10（拠点病院）

ハイフン後の4桁（半角数字） 必須

項目ID: 95

0 / 4

項目ID: 93

問1 令和5年12月1日時点における貴医療機関の概要をご回答ください。

医療機関名をご回答ください。 必須

項目ID: 117

項目ID: 15

0 / 100

項目ID: 5

主たる診療領域をご回答ください。 必須

項目ID: 118

項目ID: 108

0 / 60000

項目ID: 109

項目ID: 118

項目ID: 108

0 / 60000

項目ID: 109

項目ID: 86

0 / 60000

項目ID: 86

氏名

氏 必須

名 必須

0 / 64

電話番号

電話番号 必須

0 / 15

メールアドレス

メールアドレス (確認)

0 / 128

項目ID: 128

問2 ご回答者の情報をご回答ください。

所属 必須

項目ID: 158

項目ID: 189

0 / 128

項目ID: 189

問3 他の医療機関からの患者の受け入れや、症状が安定した等によるアレルギー疾患患者の他の医療機関への逆紹介（紹介元の医療機関に返送すること）または紹介元以外の新たな医療機関への紹介（以下「逆紹介等」という。）についてご回答ください。

（この設問は、川崎市に属する状況についてご回答ください。）他の医療機関から紹介されてくるアレルギー疾患患者（川崎市民）を受け入れたことはありますか。

項目ID: 158

項目ID: 189

0 / 128

項目ID: 189

項目ID: 190

73



(8) オンライン回答フォーム（病院・診療所向け）

[illegible]

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 291 項目別 | <p>① 土曜祭・土曜祭準備</p> <p>② 土曜祭</p> <p>③ 土曜祭準備</p> <p>④ 土曜祭</p> <p>⑤ 土曜祭</p> <p>⑥ 土曜祭</p> <p>⑦ 土曜祭</p> <p>⑧ 土曜祭</p> <p>⑨ 土曜祭</p> <p>⑩ 土曜祭</p> <p>⑪ 土曜祭</p> <p>⑫ 土曜祭</p> <p>⑬ 土曜祭</p> <p>⑭ 土曜祭</p> <p>⑮ 土曜祭</p> <p>⑯ 土曜祭</p> <p>⑰ 土曜祭</p> <p>⑱ 土曜祭</p> <p>⑲ 土曜祭</p> <p>⑳ 土曜祭</p> <p>㉑ 土曜祭</p> <p>㉒ 土曜祭</p> <p>㉓ 土曜祭</p> <p>㉔ 土曜祭</p> <p>㉕ 土曜祭</p> <p>㉖ 土曜祭</p> <p>㉗ 土曜祭</p> <p>㉘ 土曜祭</p> <p>㉙ 土曜祭</p> <p>㉚ 土曜祭</p> <p>㉛ 土曜祭</p> <p>㉜ 土曜祭</p> <p>㉝ 土曜祭</p> <p>㉞ 土曜祭</p> <p>㉟ 土曜祭</p> <p>㊱ 土曜祭</p> <p>㊲ 土曜祭</p> <p>㊳ 土曜祭</p> <p>㊴ 土曜祭</p> <p>㊵ 土曜祭</p> <p>㊶ 土曜祭</p> <p>㊷ 土曜祭</p> <p>㊸ 土曜祭</p> <p>㊹ 土曜祭</p> <p>㊺ 土曜祭</p> <p>㊻ 土曜祭</p> <p>㊼ 土曜祭</p> <p>㊽ 土曜祭</p> <p>㊾ 土曜祭</p> <p>㊿ 土曜祭</p>                                               |
| 292 項目別 | <p>① 土曜祭・土曜祭準備</p> <p>② 土曜祭</p> <p>③ 土曜祭準備</p> <p>④ 土曜祭</p> <p>⑤ 土曜祭準備</p> <p>⑥ 土曜祭</p> <p>⑦ 土曜祭準備</p> <p>⑧ 土曜祭</p> <p>⑨ 土曜祭準備</p> <p>⑩ 土曜祭</p> <p>⑪ 土曜祭準備</p> <p>⑫ 土曜祭</p> <p>⑬ 土曜祭準備</p> <p>⑭ 土曜祭</p> <p>⑮ 土曜祭準備</p> <p>⑯ 土曜祭</p> <p>⑰ 土曜祭準備</p> <p>⑱ 土曜祭</p> <p>⑲ 土曜祭準備</p> <p>⑳ 土曜祭</p> <p>㉑ 土曜祭準備</p> <p>㉒ 土曜祭</p> <p>㉓ 土曜祭準備</p> <p>㉔ 土曜祭</p> <p>㉕ 土曜祭準備</p> <p>㉖ 土曜祭</p> <p>㉗ 土曜祭準備</p> <p>㉘ 土曜祭</p> <p>㉙ 土曜祭準備</p> <p>㉚ 土曜祭</p> <p>㉛ 土曜祭準備</p> <p>㉜ 土曜祭</p> <p>㉝ 土曜祭準備</p> <p>㉞ 土曜祭</p> <p>㉟ 土曜祭準備</p> <p>㊱ 土曜祭</p> <p>㊲ 土曜祭準備</p> <p>㊳ 土曜祭</p> <p>㊴ 土曜祭準備</p> <p>㊵ 土曜祭</p> <p>㊶ 土曜祭準備</p> <p>㊷ 土曜祭</p> <p>㊸ 土曜祭準備</p> <p>㊹ 土曜祭</p> <p>㊺ 土曜祭準備</p> <p>㊻ 土曜祭</p> <p>㊼ 土曜祭準備</p> <p>㊽ 土曜祭</p> <p>㊾ 土曜祭準備</p> <p>㊿ 土曜祭</p> |
| 293 項目別 | <p>① 土曜祭・土曜祭準備</p> <p>② 土曜祭</p> <p>③ 土曜祭準備</p> <p>④ 土曜祭</p> <p>⑤ 土曜祭準備</p> <p>⑥ 土曜祭</p> <p>⑦ 土曜祭準備</p> <p>⑧ 土曜祭</p> <p>⑨ 土曜祭準備</p> <p>⑩ 土曜祭</p> <p>⑪ 土曜祭準備</p> <p>⑫ 土曜祭</p> <p>⑬ 土曜祭準備</p> <p>⑭ 土曜祭</p> <p>⑮ 土曜祭準備</p> <p>⑯ 土曜祭</p> <p>⑰ 土曜祭準備</p> <p>⑱ 土曜祭</p> <p>⑲ 土曜祭準備</p> <p>⑳ 土曜祭</p> <p>㉑ 土曜祭準備</p> <p>㉒ 土曜祭</p> <p>㉓ 土曜祭準備</p> <p>㉔ 土曜祭</p> <p>㉕ 土曜祭準備</p> <p>㉖ 土曜祭</p> <p>㉗ 土曜祭準備</p> <p>㉘ 土曜祭</p> <p>㉙ 土曜祭準備</p> <p>㉚ 土曜祭</p> <p>㉛ 土曜祭準備</p> <p>㉜ 土曜祭</p> <p>㉝ 土曜祭準備</p> <p>㉞ 土曜祭</p> <p>㉟ 土曜祭準備</p> <p>㊱ 土曜祭</p> <p>㊲ 土曜祭準備</p> <p>㊳ 土曜祭</p> <p>㊴ 土曜祭準備</p> <p>㊵ 土曜祭</p> <p>㊶ 土曜祭準備</p> <p>㊷ 土曜祭</p> <p>㊸ 土曜祭準備</p> <p>㊹ 土曜祭</p> <p>㊺ 土曜祭準備</p> <p>㊻ 土曜祭</p> <p>㊼ 土曜祭準備</p> <p>㊽ 土曜祭</p> <p>㊾ 土曜祭準備</p> <p>㊿ 土曜祭</p> |



☐ 0歳～高校生未満 ☐ 高校生以上

アレルギー性腸胃炎（食物アレルギーを含む） 2歳

☐ 0歳～高校生未満 ☐ 高校生以上

食物アレルギー 6歳

☐ 0歳～高校生未満 ☐ 高校生以上

アナフィラキシー 2歳

☐ 0歳～高校生未満 ☐ 高校生以上

気化剤アレルギー 2歳

☐ 0歳～高校生未満 ☐ 高校生以上

薬物アレルギー 6歳

☐ 0歳～高校生未満 ☐ 高校生以上

項目ID: 115

項目ID: 114

項目ID: 144

項目ID: 143

項目ID: 142

問5 令和5年12月時点で実績可能な検査、試験等についてご回答ください。

項目ID: 123

項目ID: ?

(1) 検査機関・医療機関（複数回答可）

☐ 総合病院・医師相談所・アレルギー科

☐ プリマリアス

☐ 専門クリニック

☐ パンチテスト

☐ 薬物アレルギー

(2) せん断試験（複数回答可）

☐ 新島試験機

☐ 新島レンジ・ガン試験機

☐ 新島G機

☐ 新島試験機

☐ 新島試験機

☐ 新島試験機

☐ 新島試験機

項目ID: 32

(3) アレルギー性腸炎、食物アレルギー（複数回答可）

☐ 食物アレルギー

☐ 食物アレルギー

☐ 食物アレルギー

☐ 食物アレルギー

(4) アレルギー性腸炎・食物アレルギー（複数回答可）

☐ 食物アレルギー・食物アレルギー

☐ 食物アレルギー・食物アレルギー

☐ 食物アレルギー

(5) 食物アレルギー・食物アレルギー（複数回答可）

☐ 食物アレルギー

☐ 食物アレルギー

☐ 食物アレルギー

☐ 食物アレルギー

項目ID: 28

項目ID: 29

項目ID: 43

問6 令和5年12月時点で実績可能な治療等についてご回答ください。

項目ID: 124

項目ID: 5

(1) 治療機関（複数回答可）

☐ 総合病院・医師相談所

☐ ストリー・クリニック

☐ シンク・クリニック

☐ シンク・クリニック

☐ シンク・クリニック

☐ シンク・クリニック

☐ シンク・クリニック

☐ シンク・クリニック

(2) 手術治療（複数回答可）

☐ 手術治療

☐ 手術治療

☐ 手術治療

☐ 手術治療

項目ID: 42

[illegible]

☐ 原則、参加して診察している

☐ 参加を希望して、いない

ガイドラインを参照しない理由を下記に書くください。(複数回答可) ※※

☐ ガイドラインより主治医の判断を優先 ☐ 知識・経験の不足が理由 ☐ 患者・家族の不安が原因 ☐ 患者・家族の不安が不足

☐ ガイドラインの知識が不十分 ☐ ガイドラインに賛成できない理由がある

☐ ガイドラインを参照しないことがある ☐ その他

18310 184

18310 185

18310 186

18310 187

18310 188

18310 189

18310 190

18310 191

18310 192

18310 193

18310 194



問13 症状が安定した等によるアレルギー疾患患者の他の医療機関への逆紹介（紹介元の医療機関に転送すること）または紹介元以外の新たな医療機関への紹介（以下「逆紹介等」という。）についてご回答ください。

項目ID: 133  
項目ID: 69

症状が安定した等により逆紹介等が可能な医療機関はありますが、☐ あり  
☐ ない

症状が安定した等により逆紹介等が可能な医療機関の主な医療費をご回答ください。（複数回答可）☐ あり

☐ 無料同院・診療所  
☐ 無料（病院）同院・診療所  
☐ 無料（病院）同院・診療所

項目ID: 191

症状が安定した等により転院にこの医療費等が他の医療機関に逆紹介等をしているかご回答ください。☐ あり

☐ 無し ☐ はい（ほとんどない）（まれ） ☐ 時々（1〜3回） ☐ する（4〜5回） ☐ よくする（6〜10回）  
☐ もっとも（10回以上）

項目ID: 197

患者の症状が安定した等により他の医療機関への逆紹介等を行うこととした理由をご回答ください。（複数回答可）☐ あり

☐ 一定の症状が改善、症状が軽減、安定 ☐ 同院が診療や処置が得意になり医師が自信をもちました  
☐ スイートラインでうつ病、一時的な医療機関で治療が可 ☐ 医師が治療に自信、信頼、治療が出来る  
☐ 緊急時の救急に対する医師が強い ☐ その他

項目ID: 195

患者の症状が安定した等により逆紹介等しない、またはできない理由をご回答ください。（複数回答可）☐ あり

☐ 患者の症状が重なりすぎ ☐ 紹介元で受入が難しい ☐ 患者の生活環境が不安定  
☐ 医師が抱えている医療機関がない ☐ 紹介元への医療機関は受け付けていない ☐ その他

項目ID: 195

アレルギー疾患患者を逆紹介等をする医療機関を提示する際に留意する（したい）項目をご回答ください。（複数回答可）☐ あり

☐ 病院・診療所 ☐ 患者の病歴の利便性 ☐ 患者の意向 ☐ 患者の生活環境と医師からの情報提供  
☐ 他にない ☐ その他

項目ID: 163

問14 医師を対象としたアレルギー疾患医療に関する質問向上について、ご回答ください。

項目ID: 165

これまでに実施した勉強会ご回答ください。（複数回答可）☐ あり

☐ 地域外からの研修、講習への参加 ☐ 学会、学芸会等入会 ☐ 医師会 ☐ スイートライン・書籍購入  
☐ 専門医としての研修 ☐ 他にない ☐ その他

今後実施する予定（または実施したい）勉強会ご回答ください。（複数回答可）☐ あり

☐ 地域外からの研修、講習への参加 ☐ 学会、学芸会等入会 ☐ 医師会 ☐ スイートライン・書籍購入  
☐ 専門医としての研修 ☐ 他にない ☐ その他

項目ID: 167

問15 医師以外の医療従事者（コメディカル）を対象としたアレルギー疾患医療に関する質問向上について、ご回答ください。

項目ID: 75  
項目ID: 75

これまでに実施した勉強会ご回答ください。（複数回答可）☐ あり

☐ 地域外からの研修、講習への参加 ☐ 学会、学芸会等入会 ☐ 医師会 ☐ スイートライン・書籍購入  
☐ COI・P4E研修の研修 ☐ COI・P4E研修の研修 ☐ 他にない ☐ その他

今後実施する予定（または実施したい）勉強会ご回答ください。（複数回答可）☐ あり

☐ 地域外からの研修、講習への参加 ☐ 学会、学芸会等入会 ☐ 医師会 ☐ スイートライン・書籍購入

項目ID: 163

☐ はい・はい回答の取得 ☐ NO・NO以外の回答も取得可 ☐ 知らない ☐ その他

医療以外の職業に就く(コメディカル)の人々の病院で就業し通じていることについてご回答ください。(複数選択可)

※注

☐ 特定の病状が治らない ☐ 重傷時等の緊急で受診受け難い ☐ 障害療養の期間長め過ぎ

☐ 同僚との距離が近く、有休が取得されにくい ☐ 知らない ☐ その他

---

**問16 患者（市民）に向けたアレルギー-感染症医職に関する情報提供の機運についてご回答ください。**

項目ID: 16S  
項目ID: 17C

患者（市民）に向けたアレルギー-感染症医職に関する情報提供の取組を行っていますか。 ※注

☐ 行っている

☐ 行っていない

☐ 行いたいと思っているができていない

資料内容をご回答ください。(複数回答可) ※注

☐ ホームページ ☐ SNS ☐ 講演会（学術講座）等の出席

☐ 他の医療機関で増進される講習会への参加としての参加 ☐ その他

「行いたい」と思っているができていない ☐ 回答された理由をご回答ください。(複数回答可) ※注

☐ 施設や場面の機会がない ☐ 日々の業務が多忙につきできない ☐ その他

項目ID: 17E

---

**問17 医療関係者に向けたアレルギー-感染症医職に関する情報提供の機運についてご回答ください。**

項目ID: 17S  
項目ID: 17C

医療関係者に向けたアレルギー-感染症医職に関する情報提供の取組を行っていますか。 ※注

☐ 行っている ☐ 行っていない ☐ 行いたいと思っているができていない

資料内容をご回答ください。(複数回答可) ※注

☐ 講演会等の出席 ☐ 他医療機関等で開催される講習会への参加としての参加 ☐ その他

「行いたい」と思っているができていない ☐ 回答された理由をご回答ください。(複数回答可) ※注

☐ 施設や場面の機会がない ☐ 日々の業務が多忙につきできない ☐ その他

項目ID: 18C

問 18 アレルギー疾患の専門的な医療を提供する医療機関として、最も指定している神奈川県アレルギー疾患医療拠点病院や川崎市内の最指定病院をご存知ですか。

☐ 知っている    ☐ 知らない

問ID: 279  
 問ID: 284

問19 川崎市が本年7月に開設したホームページ「川崎市アレルギー疾患医療連携ポータルサイト」についてご回答ください。

こちらのアクセスはありますか → [https://www.city.yokohama.lg.jp/000142395\\_0001](https://www.city.yokohama.lg.jp/000142395_0001)  
 こちらのポータルサイトを ご存じですか。質問のチラシからホームページもご覧ください。

☐ 知っている    ☐ 知らない

このサイトが業務や市民にとって役に立つと思いますか。

☐ 思う    ☐ 思わない

問ID: 312

「思う」と考えた理由をお書きください。（複数回答可）

☐ 関係者の情報が得られるから    ☐ 市民参加の情報が得られるから  
☐ リンク集のラベルギーについて手に入るから    ☐ その他

問ID: 313

「思わない」と考えた理由をお書きください。（複数回答可）

☐ 必要は情報がないから    ☐ 必要に於ける情報が得られずから    ☐ その他

問ID: 319

このポータルサイトにほかどのような活用があるかといふと思いませんか。（複数回答可）

☐ 関係者間の連携    ☐ 関係者間の情報共有    ☐ 市民参加の推進    ☐ 市民参加の推進    ☐ 市民参加の推進    ☐ その他

問ID: 323

問 20 地域において、医療連携体制（診療連携体制等）の構築のためにどのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

問ID: 277  
 問ID: 333

☐ 支店・支店・支店による関係者 ☐ 支店・支店・支店による関係者 ☐ 支店・支店・支店による関係者

☐ 支店・支店・支店による関係者 ☐ 支店・支店・支店による関係者 ☐ 支店・支店・支店による関係者

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。  
なお、本調査結果は、令和5年4月30日（木曜日）までに、関係者へ一斉に提供予定です。

※12/25